

フィリピン国  
災害リスク軽減・管理能力向上  
プロジェクト

終了時評価調査報告書

平成26年10月  
(2014年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

環境
J R
15-120

フィリピン国  
災害リスク軽減・管理能力向上  
プロジェクト

終了時評価調査報告書

平成26年10月  
(2014年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

## 現地調査写真



9/22 終了時評価調査キックオフ・ミーティングと OCD カウンターパート



9/25 コミュニティ防災活動支援 (成果 4) のパイロット LGU (Morong 町) ヒアリング



9/29 IMS (情報管理システム) 構築に関する活動 (成果 2) で供与されたプロッター



9/29 構築された IMS の 1 画面 (災害発生状況にかかる GIS マッピング部分)



9/30 地方 DRRM 計画策定支援 (成果 1) のインパクト事例としてのパイロット外 LGU (Aparri 町) ヒアリング



10/1 地方 DRRM 計画策定支援 (成果 1) のパイロット LGUs (Isabela 州、Ilagan 市) ヒアリング

## 略 語 表

ADRC	Asia Disaster Reduction Center	アジア防災センター
AIP	Annual Investment Plan	年間投資計画
APB	Annual Plans and Budget	年間計画・予算
CBDRRM	Community Based Disaster Risk Reduction and Management	コミュニティ防災
CDA	Civil Defense Administrator	市民防衛局長官
CDDA	Civil Defense Deputy Administrator	市民防衛局副長官
CDETP	Civil Defense Education and Training Program on DRRM	市民防衛教育研修プログラム
CDEXO	Civil Defense Executive Officer	市民防衛執行官
CDP	Center for Disaster Preparedness	(NGO)
CEIT	Communication, Electronics and Information Technology	情報通信・電子技術
CIDA	Canadian International Development Agency	カナダ国際開発公社
CLUP	Comprehensive Land Use Plan	総合的土地利用計画
C/P	Counterpart	カウンターパート
CP	Contingency Plan	不測事態対応計画
CSO	Civil Society Organization	市民社会団体
DBM	Department of Budget and Management	予算・運用管理省
DENR	Department of Environment and Natural Resources	環境天然資源省
DND	Department of National Defense	国防省
DOH	Department of Health	保健省
DOST	Department of Science and Technology	科学技術省
DILG	Department of the Interior and Local Government	内務自治省
DPWH	Department of Public Works and Highways	公共事業道路省
DRRM	Disaster Risk Reduction and Management	災害リスク軽減管理
DRRM-CEP	Disaster Risk Reduction and Management Capacity Enhancement Project	災害リスク軽減管理能力向上プロジェクト
DRRMF	Disaster Risk Reduction and Management Framework	災害リスク軽減管理フレームワーク
DRRMO	Disaster Risk Reduction and Management Office	災害リスク軽減管理部局
DSWD	Department of Social Welfare and Development	社会福祉開発省
GIS	Geographic Information System	地理情報システム
GOJ	Government of Japan	日本国政府
GOP	Government of Philippines	フィリピン国政府
HRMD	Human Resource Management and Development	人的資源管理開発
HRD	Human Resource Development	人的資源開発
ICT	Information and Communication Technology	情報通信技術
IRR	Implementing Rules and Regulations	施行規則
IMS	Information Management System	情報管理システム
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JMC	Joint Memorandum Circular	合同覚書回覧
JFY	Japanese Fiscal Year	日本会計年度



JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JPY	Japanese Yen	日本円
LCEs	Local Chief Executives	地方執行官（市民防衛局）
LDRRMPs	Local Disaster Risk Reduction and Management Plans	地方災害リスク軽減管理計画
LDRRMOs	Local Disaster Risk Reduction and Management Offices	地方災害リスク軽減管理部局
LGA	Local Government Academy, DILG	（内務自治省）地方自治大学校
LGUs	Local Government Units	地方自治体
LMP	Leagues of Municipalities of the Philippines	フィリピン町庁連盟
LPP	Leagues of Provinces of the Philippines	フィリピン州庁連盟
MDM	Management of the Dead and Missing	災害による死者・行方不明者の管理
M/M	Minutes of Meetings	会議議事録
MLIT	Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism - Japan	国土交通省（日本）
MPDC	Municipal Planning and Development Coordinator	町計画開発調整官
MSWDO	Municipal Social Welfare and Development Officer	町社会福祉開発官
MTPDP	Medium Term Philippine Development Plan	フィリピン中期国家開発計画
NAMRIA	National Mapping and Resource Information Authority, DENR	国家地理資源情報庁（環境天然資源省）
NCR	National Capital Region	（マニラ）首都圏管区
NEDA	National Economic Development Authority	国家経済開発庁
NDRP	National Disaster Response Plan	国家災害対応計画
NDRRMC	National Disaster Risk Reduction and Management Council	国家災害リスク軽減管理評議会
NDRRMETP	National Disaster Risk Reduction and Management Education and Training Plan	国家災害リスク軽減管理教育研修計画
NDRRMF	National Disaster Risk Reduction and Management Framework	国家災害リスク軽減管理フレームワーク
NDRRMS	National Disaster Risk Reduction and Management Service	国家災害リスク軽減管理サービス
NDRRMP	National Disaster Risk Reduction and Management Plan	国家災害リスク軽減管理計画（国家防災計画）
NGA	National Government Agency	国レベル政府機関
NOAH	Nationwide Operational Assessment of Hazards	国家災害運用アセスメント
NSRC	National Service Reserve Corps	（国家奉仕訓練プログラム）
OASPP	Office of the Assistant Secretary for Plans and Programs	計画業務局（国防省）
OCD	Office of Civil Defense	市民防衛局
OIC	Officer-in-Charge	担当官
OECD-DAC	Organization for Economic Co-operation and Development - Development Assistance Committee	経済協力開発機構開発援助委員会
OSSP	Organizational Structure and Staffing Pattern	組織構造・人事配置
PAGASA	Philippine Atmospheric, Geophysical & Astronomical Services Administration	フィリピン天文気象庁
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリクス
PDRA	Pre-Disaster Risk Assessment	災害リスク事前アセスメント

PDRRC	Provincial Disaster Risk Reduction Management Council	州災害リスク軽減管理評議会
PHIVOLCS	Philippine Institute of Volcanology and Seismology	フィリピン火山地震研究所
PhP	Philippine Peso	フィリピンペソ
PIA	Philippines Information Agency	フィリピン情報局
PO	Plan of Operation	活動計画
PPA	Programs, Projects and Activities	プログラム・プロジェクト・活動
R/D	Record of Discussions	討議議事録
RDRRMP	Regional Disaster Risk Reduction and Management Plan	地方管区災害リスク軽減管理計画
SB	Sangguniang Bayan	議会
SMS	Short Message Service	ショート・メッセージ・サービス
SNAP	Strategic National Action Plan	災害リスク軽減に係る戦略的国家行動計画
SOPs	Standard Operating Procedures	標準作業手順書
TCP	Technical Cooperation Project	技術協力プロジェクト
TIs	Training Institutes	研修機関
TOT	Training of Trainers	研修トレーナー養成研修
TMG	Technical Management Group	テクニカル・マネジメント・グループ
TWG	Technical Working Group	テクニカル・ワーキング・グループ
ULAP	Union of Local Authorities of the Philippines	フィリピン自治体連合
UN-OCHA	United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs	国連人道問題調整事務所

# 目 次

現地調査写真

略語表

目 次

評価調査結果要約表

第1章 合同終了時評価調査の概要.....	1
1-1 背景.....	1
1-2 プロジェクトの概要.....	2
1-3 合同終了時評価の目的.....	2
1-4 合同評価調査団の構成.....	2
1-5 調査日程.....	3
1-6 合同終了時評価の手法.....	3
第2章 プロジェクトの実績.....	5
2-1 投入実績.....	5
2-1-1 専門家の派遣.....	5
2-1-2 供与機材.....	5
2-1-3 本邦研修.....	5
2-1-4 プロジェクト活動費.....	5
2-1-5 カウンターパートの配置.....	5
2-1-6 プロジェクト活動費.....	6
2-1-7 プロジェクト事務所.....	6
2-2 プロジェクトの進捗.....	6
2-2-1 成果1:DRRMに関するOCDの計画立案・実施能力の改善.....	6
2-2-2 成果2:DRRM活動（情報管理を含む）の標準化.....	8
2-2-3 成果3:DRRM教育研修システムとその能力の強化.....	9
2-2-4 成果4:コミュニティ防災（CBDRM）活動の支援体制の強化.....	9
2-2-5 成果レベルの指標の達成度.....	11
2-3 プロジェクト目標の達成見込み.....	12
2-3-1 プロジェクト目標の達成に向けた進捗.....	12
2-3-2 プロジェクト目標レベルの指標の達成度.....	14
2-4 上位目標に向けた進捗.....	14
2-5 実施プロセス.....	15
第3章 評価5項目によるレビュー.....	17
3-1 妥当性.....	17
3-2 有効性.....	18
3-3 効率性.....	22
3-4 インパクト.....	25

3-5 持続性 .....	26
第4章 合同終了時評価調査の結果.....	29
4-1 結論 .....	29
4-2 提言 .....	29
4-3 教訓 .....	31

添付資料

- A.1 改訂プロジェクト・デザイン・マトリックス
- A.2 活動計画
- A.3 調査スケジュール
- A.4 面談者リスト
- A.5 専門家派遣実績
- A.6 供与機材
- A.7 カウンターパート研修
- A.8 カウンターパートの配置
- A.9 プロジェクト活動費
- A.10 成果グリッド（指標の達成度）
- A.11 評価グリッド
- A.12 署名済みミニッツ



## 評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：フィリピン共和国	案件名：災害リスク軽減・管理能力向上プロジェクト
分野：防災	協力形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：JICA 地球環境部防災第2チーム	協力金額：約 4.3 億円
協力期間：2012年3月～2015年3月	先方実施機関：DND（国防省）OCD（市民防衛局）
日本側協力機関：国土交通省、内閣府等	
1-1 協力の背景と概要	
<p>フィリピンは国家レベルで災害管理を行うための基本となる防災計画を有しておらず、防災関係政府機関による各分野の活動は統一性なく独自に行われてきた。また、緊急対応時の活動（オペレーション）についても、情報伝達手段や情報様式、災害対応体制などが中央と地方政府間で統一されていないため、効率的とは言い難い状況にある。</p> <p>このためフィリピン政府は、2005年1月の国連防災世界会議における「兵庫行動枠組（2005-2015）」採択以降、災害管理強化への取り組みを進めてきた。2010年5月には「災害リスク軽減・管理法（共和国法第10121号）」（DRRM法）を制定し、従来の災害後対応に加え、予防・軽減を含んだ総合的な災害リスク管理を実施するため、「災害リスク軽減・管理（Disaster Risk Reduction and Management：DRRM）」という新たなアプローチに基づく防災の基本枠組みを打ち出した。DRRM法では、国レベルの災害管理に関する最高意思決定機関である「国家災害リスク軽減管理評議会（National Disaster Risk Reduction and Management Council：NDRRMC）」の再編のほか、「国家災害リスク軽減管理計画（国家防災計画）（National Disaster Risk Reduction and Management Plan：NDRRMP）」の策定、地方管区及び地方自治体（Local Government Units：LGUs）レベルのDRRM部局（DRRMOs）の設置などが定められた。この新たな枠組みの下でDRRM活動を実施するため、NDRRMPを始めとするDRRM関連計画等の整備、また関連組織の能力強化のニーズが急速に高まっている。</p> <p>DRRM法の制定により、DRRM活動の中心的組織の役割を果たしうるNDRRMCの事務局として位置づけられているのが市民防衛局（Office of Civil Defense：OCD）である。しかし、従来OCDの活動は災害後の対応が中心であったが、今後は予防・軽減も含む、より広範囲かつ多様なDRRM活動を担うことが求められており、OCDの組織・人材の能力強化が急務となっている。</p> <p>このような状況の下、JICAは2010年3月から11月にかけて、3次にわたる協力準備調査を実施し、協力の枠組みについての検討を行い、翌2011年4月にはフィリピン政府から日本政府に技術協力プロジェクトの要請がなされ、同10月28日に署名された討議議事録（Record of Discussions：R/D）に基づき、2012年3月から本プロジェクトが開始された。プロジェクトの実施期間は2015年3月までの3年間である。実施期間の中間地点である2013年10月には中間レビューが実施された。また実施期間が残り6カ月となった2014年10月には、R/Dに記載のとおりフィリピン側と日本側の両者による合同終了時評価が実施された。</p>	
1-2 協力内容	
1) 上位目標	
フィリピン政府機関によるDRRM活動が改善される。	

2) プロジェクト目標	OCD の DRRM 能力が強化される
3) 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>DRRM に関する OCD の計画立案・実施能力が改善される。</li> <li>DRRM 活動（情報管理を含む）が標準化される。</li> <li>DRRM 教育研修システムとその能力が強化される。</li> <li>コミュニティ防災（Community Based Disaster Risk Reduction and Management : CBDRRM）活動の支援体制が強化される。</li> </ol>
4) 投入	<p>（日本側） 専門家派遣： 2012 年 3 月より 2014 年 10 月時点までで、短期ベースで計 15 名派遣          供与機材： 情報管理システム（Information Management System : IMS）のためのサーバーコンピュータ、GIS ソフトウェア等          本邦研修： 2 回（2013 年 6 月および 2014 年 5 月）で 19 名の OCD カウンターパートが参加          現地活動費： 2012 年 3 月から現時点まででローカルコンサルタント備上など計 70.4 百万円</p> <p>（フィリピン側） カウンターパート配置：プロジェクト・ダイレクターは市民防衛局長官（Civil Defense Administrator : CDA）、プロジェクト・マネジャーは市民防衛執行官（Civil Defense Executive Officer : CDEXO）、カウンターパートは OCD の計画プログラム課、防災オペレーション課、情報通信・電子技術（Communication, Electronics and Information Technology : CEIT）課、国家災害リスク軽減管理サービス（National Disaster Risk Reduction and Management Service : NDRRMS）、人材管理開発課、教育研修課、第 2 地方管区事務所および第 3 地方管区事務所等の職員          活動費：ワークショップや会議開催費用を一部負担</p>

## 2. 合同評価調査団の概要

調査団構成	Ms. Concepcion R. Ornopia	OCD 内部監査局担当官（Officer-in-Charge : OIC）
	Ms. Mara Gerona	DND 計画業務局
	Mr. Eugene G. Eugenio	DND 計画業務局
	永石 雅史	JICA 地球環境部参事役
	日下部 隆昭	JICA 専門家（防災政策）
	秋山 慎太郎	JICA 地球環境部防災第二チーム
	奥田 浩之	合同会社適材適所
	Mr. Rey Gerona	JICA フィリピン事務所インハウス・コンサルタント
Ms. Catherine Palanca	JICA フィリピン事務所	
調査期間	2014 年 9 月 20 日～10 月 10 日	調査種類：終了時評価

## 3. 進捗の確認

3-1 成果レベルの実績
成果 1 : DRRM に関する OCD の計画立案・実施能力の改善
1) 第 2（Cagayan Valley）地方管区 DRRM 計画（2013-2019）が NDRRMP の様式及び作成プロ

- セスに沿って作成され、2013年8月に RDRRMC（地方管区 DRRM 評議会）で承認された。
- 2) 第2地方管区の4地方自治体（Alcala 町、Isabela 州、Ilagan 市、Cagayan 州）が、プロジェクトが地方災害リスク軽減管理計画（Local Disaster Risk Reduction and Management Plans : LDRRMPs）（地方 DRRM 計画）の作成を支援するパイロット LGUs に選ばれた。OCD 第2地方管区事務所が中心となって、DRRM 計画のテンプレートや作成プロセスが一連のワークショップ等を通して紹介され、現時点では Alcala 町、Isabela 州、Ilagan 市が既に LDRRMPs を作成し、それぞれの LDRRMC（地方 DRRM 評議会）で承認されている。Cagayan 州についても、PDRRMP（州 DRRM 計画）のドラフトがワークショップ・会議を経て既に完成しており（したがってプロジェクトとしては活動は全て終了）、間もなく州災害リスク軽減管理評議会（Provincial Disaster Risk Reduction Management Council : PDRRMC）で承認される予定である。
  - 3) 全国の LDRRMPs の作成・実施状況のモニタリング・ツールとして、エクセルフォーマットの Checklist and Assessment フォームが作成され、現在このフォームの最終化作業のため多くの LGUs からの現存の LDRRMPs の収集が進んでいる。
  - 4) 共和国法第 10121 号の「サンセット・レビュー<sup>1</sup>」への提案については、現時点で殆ど進展はない。プロジェクトは現存の LDRRMPs の全国的な収集と Checklist and Assessment フォームの最終化、ナレッジ共有ワークショップの開催等の活動をもとに、今後「サンセット・レビュー」および NDRRMP の改訂・見直しのための提言を作成する予定である。

#### 成果 2：DRRM 活動（情報管理を含む）の標準化

- 1) 水文気象災害にかかる国家災害対応計画（National Disaster Response Plan : NDRP）が作成され、2014年6月11日に NDRRMC にて承認された。2014年6月30日には、NDRRMP の4つの柱（予防・軽減、災害準備、災害対応、復旧・復興）のうちの一つ「災害対応」の責任機関である社会福祉開発省（Department of Social Welfare and Development: DSWD）への NDRP の移譲がなされた。また、地震・津波にかかる NDRP の作成が現在進められている。
- 2) 2013年の OCD 暫定組織構造・人事配置（Organizational Structure and Staffing Pattern : OSSP）に基づく現在の OCD 組織体制に適応が可能な OCD 災害対応オペレーションマニュアルのドラフト（2014年3月）が作成され、現在さらに内容の充実化が進められている。
- 3) 新たに GIS 技術を取り込んだプロトタイプ of IMS が構築された。IMS は3つのデータベース（対応者、災害発生状況、過去の災害データ）から構成されている。現在、GIS マッピングによる災害発生状況がパソコン上では表示可能であるが、インターネット上での IMS の操作性は非常に遅く、プロジェクトがシステムの改善に取り組んでいる。
- 4) 水文気象災害にかかる NDRP、および IMS 利用を含む OCD 災害対応オペレーションマニュアルの机上訓練が計画されていたが、2014年7月に台風 Glenda が発生したため、その際の実際の災害対応・活動に対する評価ワークショップ（2014年7月31日～8月1日）に置き換えられた。

#### 成果 3：DRRM 教育研修システムとその能力の強化

- 1) 国家災害リスク軽減管理教育研修計画（National Disaster Risk Reduction and Management Education and Training Plan : NDRRMETP）の構成案（Draft Design）が2014年7月に CDA

<sup>1</sup> 法令施行後5年後に実施される法定見直し作業

によって承認され、プロジェクトは現在 NDRRMETP の作成を進めている。

- 2) DRRM 研修機関〔共和国法第 10121 号施工規則 (Implementing Rules and Regulations : IRR) に定める研修機関 (Training Institutes : TIs) 〕のための優先研修モジュールが、4 グループ (地方自治体の長と地方 DRRM 部局、国レベル政府組織、民間セクター、コミュニティ) について作成され、モジュールに基づくパイロット研修が 2014 年に実施された。これらのモジュールは今後最終化・承認され、NDRRMETP の一部となる予定。
- 3) 市民防衛教育研修プログラム (Civil Defense Education and Training Program on DRRM : CDETP) の構成案 (Draft Design) が 2014 年 7 月に CDA に承認され、プロジェクトは現在、次の 3 レベル (基礎レベル、上級レベル、幹部レベル) での CDETP の作成を進めており、パイロット研修も実施された。

#### 成果 4 : コミュニティ防災 (CBDRRM) 活動の支援体制の強化

- 1) CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー案がプロジェクトによって作成された。また、コミュニティ防災研修のためのトレーナー基礎ガイドが作成された。コミュニティ防災推進のためのコンセプトペーパー案、トレーナー基礎ガイド、コミュニティ防災研修コースを評価・検討するため、第 3 地方管区の Bataan 州 (Balanga 市および Morong 町) で研修トレーナー養成研修 (Training of Trainers : TOT) 方式を用いたパイロット研修が 2014 年に実施された。
- 2) コミュニティ防災活動を全国展開していくための行動計画が、CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー案の中で予算と実施メカニズムを挙げて説明されている。将来、コンセプトペーパーについては NDRRMC から Memorandum Circular (覚書回覧) として翻訳・発出されることで、国家政策としての位置づけが与えられる予定である。

#### 3-2 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト実施を通じて、OCD の計画立案・実施能力、効率的な災害対応、防災人材の育成、コミュニティ防災支援にかかる能力は向上したが、プロジェクトの進捗・実績の程度を測る指標には成果品の作成だけでなく然るべき関係機関による承認までが含まれており、その現在の進捗状況は以下のとおり。

	既に承認されたもの	これから承認が必要なもの
成果 1	1. 第 2 地方管区 DRRM 計画 2. Isabela 州 DRRM 計画 3. Ilagan 市 DRRM 計画 4. Alcala 町 DRRM 計画 5. (その他 15 地方管区の RDPPM 計画)	1. Cagayan 州 DRRM 計画 2. Checklist and Assessment フォーム (LDRRMPs モニタリング・評価ツール)
成果 2	6. 水文気象災害にかかる NDRP	3. 地震・津波にかかる NDRP 4. OCD 災害対応オペレーションマニュアル
成果 3	-	5. 国家 DRRM 教育研修計画 6. TIs のための 4 つの優先研修モジュール 7. 市民防衛教育研修プログラム
成果 4	-	8. CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー 9. トレーナー基礎ガイド 10. コミュニティ防災のための行動計画

また、作成されたシステムやプログラムについて、その運用に向けた進捗状況は以下のとおり。

	運用可能	まだ運用可能でないもの
成果 1	-	1. Checklist and Assessment フォーム
成果 2	1. IMS (情報管理システム) 2. (NDRP に基づく新たなクラスターのグルーピング)	2. OCD 災害対応オペレーションマニュアル
成果 3	3. TIs のための 4 つの優先研修モジュール	3. 市民防衛教育研修プログラム
成果 4	4. トレーナー基礎ガイド	4. CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー

この先の残り 6 カ月の協力期間で、計画・マニュアルやモニタリング・ツールについては内容の充実化・推敲をさらに進め、システムについては改善し、研修・訓練を実施し、評価ワークショップや検討会を開催し、関係官庁と協議しフィードバックを成果品に反映させる等、プロジェクトはこれら成果品の最終化・承認に向けてまだ多くの活動を実施する必要がある。しかし成果の達成を確実にするために残り 6 カ月のワークプランを作成して活動を強化・促進することで、プロジェクトは 2015 年 3 月の協力期間までにプロジェクト目標を達成する可能性は十分にあると考えられる。

### 3-3 上位目標に向けた進捗

上位目標はフィリピン政府機関による DRRM 活動の改善である。終了時評価調査インタビューでは、(手続きの整備等の能力強化を通して) OCD の DRRM 活動が実際に改善したとして関係機関が認識した事例を幾つか聞くことができた。具体的には、最近の自然災害(2014 年 7 月の台風 Glenda、2014 年 8 月の台風 Louise、2014 年 9 月の台風 Mario) 対応の際の、OCD の調整・連携活動の改善である。しかし、OCD 以外の政府機関の活動も含めて、プロジェクトの成果に基づく DRRM 活動の改善という上位目標への進捗については、未だ限定的である。

## 4. 評価 5 項目の概要

### 4-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は高い。

- 1) プロジェクトは、「フィリピン中期開発計画(2011-2016)」、共和国法第 10121 号「フィリピン災害リスク軽減管理法」、NDRRM フレームワーク、NDRRMP などフィリピン国政府の DRRM 政策と整合しており、その高い妥当性は開始当初から変わっていない。
- 2) プロジェクトは、実施機関である OCD のニーズ・期待に引き続き合致している。プロジェクトは、OCD の能力強化を効果的に進めるため状況の変化に応じて活動を調整・変更してきており、例えば、NDRRMP は OCD のイニシアティブにより 2012 年 3 月のプロジェクト開始前に策定・承認(2012 年 2 月)されたことから、OCD 計画立案に関する能力強化については、当初想定していた NDRRMP 策定ではなく、地方管区 DRRMP および地方 DRRMPs の策定を通じて行うよう変更された。
- 3) プロジェクトは、日本の対フィリピン国別援助方針(2012 年 4 月)と整合しており、災害リスク軽減管理はフィリピンに対する支援の重点分野の一つとされ、本プロジェクトもその中に位置づけられている。

### 4-2 有効性

プロジェクトの有効性は中程度である。

- 1) プロジェクトは OCD の DRRM 能力強化に顕著に貢献しているが、プロジェクト・デザイン・



マトリクス (Project Design Matrix : PDM) の成果レベル・プロジェクト目標レベルの指標については十分に達成した指標はまだ一つもないことから、プロジェクトの有効性は中程度と評価された。指標の達成が遅れている理由として、殆どの指標に成果品の「承認」が含まれていること、また、幾つかの活動については自然災害の頻発により OCD のプロジェクト活動が影響を受けスケジュールから遅れていることが挙げられる。

- 2) 組織レベルの能力強化にとって重要な一つの要素は、適切で効果的な組織体制の確立であるが、OSSP の検討が継続しており現在の OCD は過渡的な組織体制であることから、これが (カウンターパートの頻繁な交替だけでなく) プロジェクトが計画、マニュアル、モジュールを作成するにあたっての制約となった。例えば、3カ所 (マニラ、セブ、ダバオ) に設立が計画されている TIs について、その業務開始が見通せない中で、TIs が行うべき役割と活動は、現在 OCD の教育研修課が実施している。優先研修モジュールは、当初は TIs による実施を想定して作成されることになっていたが、現在の移行期の体制に合うよう優先研修モジュール作成に関する活動も調整が求められた。
- 3) CBDRRM に関しては、様々な政府機関、LGUs、NGOs が独自のコンテンツを用いて研修を実施している。プロジェクトは、CBDRRM 国家政策 (コンセプトペーパー、研修コース、トレーナー基礎ガイド、活動計画を含む) を作成することで、こうした様々なコミュニティ防災活動の標準化プロセスを進めている。OCD 職員や LGUs 職員からは、TOT への参加によりコミュニティ防災に関し自信をもって講義、説明できるようになったとの声がきかれた。
- 4) IMS の構築は、信頼できる災害統計の提供、災害リスクのアセスメント、過去の災害データから学ぶことによる効果的な対策・計画立案、よりの確な災害対応といった DRRM 活動のための重要な基礎となる。台風 Yolanda (2013 年 11 月)、台風 Glenda (2014 年 7 月) 等の近年の自然災害で、IMS の有用性、新たな情報を追加していくことによるデータベースのアップデートとシステムを安定的に運用していくことの重要性が、OCD カウンターパートに認識された。

#### 4-3 効率性

プロジェクトの効率性は中程度である。

- 1) プロジェクトの効率性は中程度とされたが、これはプロジェクトの幾つかの活動がスケジュールから遅れることとなった制約のためである。具体的には、OCD カウンターパートの頻繁な交替と、自然災害の頻発 (例えば、2013 年 10 月の Bohol 地震、2013 年 11 月の台風 Yolanda、2014 年 7 月の台風 Glenda など) である。こうした制約要因は、終了時評価調査インタビューにおいて、実施機関である OCD だけでなく、プロジェクトに関わる合同調整委員会 (Joint Coordinating Committee : JCC) メンバー機関からも言及があった。
- 2) 日本側からのプロジェクトへの投入については、プロジェクト途中での総括の交替があったが、専門家派遣や本邦研修など概して適切に実施された。各成果に配置されたローカルコンサルタントによるプロジェクト活動の促進・ファシリテーションも日本側の重要な投入である。
- 3) フィリピン側の投入は、カウンターパートの配置、プロジェクト実施のための活動費一部負担である。フィリピン側チームは CDA (プロジェクト・ダイレクター)、CDEXO (プロジ



エクト・マネジャー)、各成果を担当する OCD 職員で構成された。CDA と CDEXO は、OCD の任命官職のポジションであり、2012 年にプロジェクトが開始されてからこの間、それぞれ 3 回および 2 回の交替があった。また、OCD カウンターパートについても異動したり、プロジェクトでこれまで担当していたのと別の成果の担当になったりと交替が頻繁であった。

#### 4-4 インパクト

プロジェクトのインパクトは比較的高い。

- 1) 最も重要なインパクトは、協力終了後 3～5 年後に達成されるべきプロジェクトの上位目標「フィリピン政府機関による DRRM 活動の改善」である。現時点では、プロジェクトの成果に基づく上位目標達成に向けた進展はまだ限られたものとなっているが、終了時評価調査中のインタビューからは、OCD の DRRM 活動改善（自然災害発生時の OCD の調整活動の向上）が確認できた。
- 2) LDRRMP にかかるプロジェクト活動から直接的に派生したインパクトが幾つかある。プロジェクトで研修を受けた OCD 第 2 地方管区事務所カウンターパートが、パイロット LGUs 外の Aparri 町の MDRRMP（町 DRRM 計画）の作成を支援した。具体的には、プロジェクトが促進してきたテンプレートと協議プロセスを紹介・説明し、会議やワークショップにて講義やファシリテーションを行った。Aparri 町の MDRRMP の作成は、2013 年 11 月に終了し、町 DRRM 評議会にエンドースされ、2014 年 6 月には町議会で承認された。
- 3) 2014 年 6 月 11 日の水文気象災害にかかる NDRP の NDRRMC による承認も、幾つかのインパクトをもたらした。その一つは、災害対応クラスターの再編である。再編の結果、現在 DSWD の元に 12 の災害対応クラスターが存在し、そこで OCD は 2 クラスター（ロジスティックス、緊急通信）を統率している。クラスターの再編により、各々の機関は災害対応時に特定の役割に集中でき、調整がより効率的になった。

#### 4-5 持続性

プロジェクトの持続性は中程度である。

- 1) 制度的な観点からは、OCD のプロジェクトの活動が持続する可能性は高い。計画、防災オペレーション、教育研修、コミュニティ防災にかかるプロジェクト活動は OCD の職責内容と一致しており、終了時評価調査時においても CDA から妥当性の高さについて言及があった。
- 2) 技術的な観点からは、IMS の維持管理と持続的運用を除き、OCD 職員がプロジェクト活動を今後も継続していくことに困難はないものと考えられる。IMS については、現時点ではシステムは主に JICA チーム（専門家とローカルコンサルタント）により運用されている。IMS は自然災害発生時にも安定的な稼働が求められることから、OCD の技術能力では維持管理が難しいと考えられる場合は、雇用か契約により IT 専門家を OCD に常駐させることも検討する必要がある。
- 3) 人材的な観点からは、OSSP がいつ最終化され、OCD の人員配置が定まるかは不確かである。現在、OCD 職員数は 416 名（147 名が本部、269 名が地方管区事務所）であるが、うち 180 名が契約ベースでの雇用である。共和国法第 10121 号制定後の業務量の増加にも関わらず、OCD スタッフの数はこの間それほど増えておらず、職員数の不足が終了時評価調査中にも

広く言及された。

- 4) 財政的な観点からは、持続性は中程度である。プロジェクトの活動は、IMS の維持管理を除き、主に計画、調整、モニタリング等でその継続については大きな予算を必要としないことから、予算的にはこうした活動を現在の日常業務の中で実施していくことは可能である。より重要なことは、テンプレートを活用し、参加・協議プロセスによる LDRRMPs の作成・改善などの新たな活動は LGUs が実施することになる。このため、LGUs は各自、その予算の 5%を割り当てることとなっている地方 DRRM 基金の活用を検討していく必要がある。

#### 4-6 プロジェクトの効果発現を促進・阻害した主な要因

- 1) プロジェクトの促進要因として終了時評価調査中に挙げられた項目は次のとおり。
- ・日本人専門家とローカルコンサルタントが業務にあたっているプロジェクト事務所が OCD の 3 階に位置しており、立ち寄りが容易でコミュニケーションが良好であった。
  - ・コミュニティ防災に関する活動のパイロットサイトとなった第 3 地方管区の地方自治体の長が、コミュニティ防災活動に対して強いコミットメントと支援を行い、また OCD 第 3 地方管区事務所も積極的に参加した。さらに、LDRRMP 作成支援のパイロットサイトとなった第 2 地方管区についても、OCD 第 2 地方管区事務所、パイロット LGUs の地方 DRRM 部局の積極的な参加があった。
  - ・プロジェクト開始（2012 年 3 月）に先立ち OCD が NDRRMP を策定（2012 年 2 月）したことに加えて、各 OCD 地方管区事務所が 2013 年 6 月から 9 月にかけて管内の地方 DRRM 部局を集めて「リージョナル・サミット」を開催し、さらに定期的な OCD 地方管区長会議の機会を利用してプロジェクトに関するナレッジ共有ワークショップを開催するなど、OCD の積極的な取り組みがあった。
- 2) 阻害要因としては、次の項目が挙げられた。
- ・2013 年 3 月の OCD の組織改編、カウンターパートの頻繁な交替、TIs のオペレーション開始の遅れなどは、最終化が待たれている OSSP の検討に関係している。例えば、フィリピン側、日本側でプロジェクトの主要メンバーが交代したことは、プロジェクトの内容とこれまでの経緯を確認し、活動計画の再調整に追加的な時間が必要となり、プロジェクトの円滑な実施に影響を与えた。
  - ・台風やその他の災害が発生すれば OCD は災害オペレーションセンターを発動させる必要があることから、この間プロジェクト活動を進めることは困難になる。
  - ・OCD 全体で職員は現在 416 名であり、依然として職員数が足りない。新たな OSSP では職員数として 1,500 名が提案されている。

### 5. 評価調査結果の要約

#### 5-1 結論

プロジェクトの妥当性は高く、その内容はフィリピン国政府の災害リスク軽減管理および実施機関である OCD の職責内容と整合している。プロジェクトは OCD の DRRM 能力強化に顕著に貢献したが、プロジェクトの成果・目標の達成に向けては残りの協力期間の中で今後強化・促進が必要な活動も多く、全体としてプロジェクトの有効性は中程度と判断された。プロジェクトの効率性についても中程度と判断されたが、これはカウンターパートの頻繁な交替や自然災害の頻発などで、プロジェクトの進捗に影響を受けたからである。プロジェクトのインパクトは比較的

高く、災害対応クラスターの再編など特記しておくべきインパクトもあったが、上位目標の達成に向けた進捗という点では、プロジェクトの成果に基づく進展が現時点ではまだ限られたものとなっている。持続性の見込みについては、政策・制度、技術、予算、人材的な観点から全体的には中程度と判断されたが、これは今後 OSSP が最終化され OCD の組織体制と人員配置が定まれば、特に人材・予算の点で向上するものと考えられる。

## 5-2 提言

### 1) プロジェクト活動の完了

プロジェクトの成果・目標の達成に向けては残りの活動の完了（成果品の最終化と承認）が必要であり、そのためにプロジェクトは残り 6 カ月の協力期間の活動計画を明確にして、活動を強化・促進していくこと。

### 2) 成果品の承認に対するモニタリング

上述した成果品の承認については、プロジェクト活動が及ぶ範囲外となるものもあり、協力期間中に達成されない可能性もある。こうした場合は、その最終的な承認までを確認するモニタリングを OCD が独自に実施するか、プロジェクトが人員の配置を検討することが必要である。OSSP の最終化についても、プロジェクト成果品の妥当性を担保するため、引き続きモニタリングすべきである。

### 3) OCD の努力によるプロジェクト成果品の改善

プロジェクトの成果品は、状況の変化に対応して適宜更新されていく性質のものである。OSSP が最終化されるまで待つのではなく、TIs のための優先研修モジュール、市民防衛教育研修プログラム、トレーナー基礎ガイド、OCD 災害対応オペレーションマニュアル等は、必要があれば OCD が独自に改善していくべきである。例えばカスケード式の TOT は、パイロット研修として 1 サイクルしか実施されていないが、その結果に基づき教材を改善して TOT の次のサイクルを実施する等の取組みを進めて行くことが望ましい。

### 4) プロジェクトの優良事例の他地域への展開・普及

プロジェクトでは、LDRRMPs の作成、コミュニティ防災の取組みは、パイロット活動として、それぞれ第 2 地方管区および第 3 地方管区の特定の LGUs でのみ実施された。これらパイロット LGUs の優良事例と経験を他の LGUs に展開・普及させていくことが必要であり、そのための方策を検討すること。案としては、OCD 地域事務所長が OCD 本部に定期的集まる「Senior Leaders' Conference」での情報共有、地域 DRRM 部局ポジションの強化、DRRMP テンプレートやトレーナー基礎ガイドの利用促進のための合同覚書回覧（Joint Memorandum Circular）作成、5%の DRRM 基金および 20%の開発基金の効果的活用など。

### 5) OCD の技術的能力の強化

DRRM に関する計画、マニュアル、ガイド、システム等の作成に加え、OCD 職員はさらに DRRM に関する技術的能力、実務能力、専門家としての信頼性の向上が必要とのコメントが OCD 幹部からあった。そのためには、個人レベルでは研修を通じたスキル・知識の向上、組織レベルでは特定の技術分野（例えば、台風、火山、地震、IMS を含む情報技術）に特化した新たな職員の採用、フィリピン気象天文庁（Philippine Atmospheric, Geophysical & Astronomical Services Administration : PAGASA）やフィリピン火山地震研究所（Philippine Institute of Volcanology and Seismology : PHIVOLCS）といった専門技術機関との人事交流など

を検討すること。

#### 6) 防災関係機関の調整の促進

OCD の調整能力の改善は、災害の災害対応において既に関係機関により認識されるまでになっており、上位目標を達成するためには、OCD は NDRRMC の事務局として引き続き調整能力を強化していくことが重要である。NDRRMC は 40 のメンバー機関から構成されており、その半分が国レベル政府機関であり、また、DRRM 活動を LGUs に展開・普及するには、内務自治省（Department of the Interior and Local Government : DILG）との連携が特に重要になる。引き続き水平及び垂直方向における調整能力・連携体制の構築が重要である。

#### 7) プロジェクト成果の地方レベルへの適応

プロジェクトによるツール、計画、システム等の成果をフィリピン全体の DRRM 体制の改善につなげるため、地方レベルでの災害対応計画、IMS、DRRM 計画、コミュニティ防災など、地方管区さらには地方レベルへの適用を進めていくこと。その際、OCD はプロジェクトが導入した TOT の手法の活用も検討すること。

#### 8) 適切な人員配置の確保

共和国法第 10121 号制定後の業務量の増加にも関わらず、OCD 職員数については大きな増加はなく、終了時評価調査中もスタッフ数の不足が広く言及された。OSSP の検討が継続している状況ではあるが、OCD はその職責内容を遂行するため、また上述の提言を実行するため、適切な職員数の確保に引き続き努力すること。

### 5-3 教訓

#### 1) キャパシティアセスメントの実施

OCD に対するキャパシティアセスメントの実施は、2010 年 12 月の準備調査、2013 年 10 月の中間レビューでも触れられている。ベースライン調査はプロジェクトの第 1 年次に実施されたが、その後パイロット地方管区が変更されたため、エンドライン調査を実施する予定はなくなった。これは、1 つには、キャパシティアセスメントの実施が、PDM の中に活動として明記されていないことによる。能力強化を目指すプロジェクトの場合は、キャパシティアセスメントの実施は、PDM の中に活動として明記され、プロジェクトの協力・貢献の成果がアセスメント調査により明らかにされるべきである。キャパシティアセスメントの構成と内容については、防災分野における先例だけでなく、教育や保健といった他分野での例も参考とすべきである。

#### 2) DRRM の全体的な改善に繋がる各成果を統合する活動

プロジェクトは、特定の 4 分野に焦点を当てて能力強化を図るため、個々のコンポーネントが独立した構成となっており、パイロット活動の実施もやや分断して実施された（例えば、成果 1 のパイロット活動は第 2 地方管区であり、成果 4 は第 3 地方管区で実施された）。プロジェクト活動の水平的な連絡調整を確保するため、コンポーネント横断のカウンターパート会議が定期的で開催されてきた。特定分野ごとの活動だけでなく、OCD の DRRM 活動全体の改善に資するよう、分野横断的なコンポーネントも PDM に加えることを検討すべきである。

#### 3) 指標の適切性

本事業ではプロジェクト活動の進捗・実績を図る指標に、計画、マニュアル等成果品の「承認」を含めている。その経緯は、過去、類似の協力で、様々なドナーがマニュアルを整備して

いるが、これらが、被援助側機関によって公的な文書としての位置付けを付与されないため、改訂が行われず適切に活用されないことがあった。このような教訓を受け、本事業では、OCD、ないしは上位機関によるEndorsementやAuthorizationによる「承認」により、計画、マニュアルが、日本が支援した単なる「参考情報」ではなく制度として定着することを意図したものである。

一方で、例えばLDRRMPを公的計画として承認、採択する機関は市町議会であり、プロジェクトの活動が及ぶ範囲外であることから、「有効性」における達成度が一部「部分的に達成」「未達成」となり、結果として評価が「中程度」となった。「承認」が指標として適正であったかは今後の類似プロジェクト実施の際に検討が必要と思われる。

ただし、「承認」を指標としたことで正の効果も確認できている。例えば、承認に向けたプロジェクト活動の促進、成果品の内容の質の確保、水文気象災害にかかるNDRP承認によるクラスターの再編など国レベルのインパクトの発現などが見られた。よって、案件開始時に「承認」権限を誰が有するのか、また、そのために必要な質・時間の程度、及び指標化することにより、承認に向けたプロセスで得られる効果などを見極めたうえで、判断が必要であろう。

また、プロジェクト中でのモニタリングや評価については、これら背景を踏まえた評価を行う必要がある。



# 第 1 章 合同終了時評価調査の概要

## 1-1 背景

フィリピンは国家レベルで災害管理を行うための基本となる防災計画（日本の「防災基本計画」に相当するもの）を有しておらず、防災関係政府機関による各分野の活動は統一性なく独自に行われてきた。また、緊急対応時の活動（オペレーション）についても、情報伝達手段や情報様式、災害対応体制などが中央と地方政府間で統一されていないため、効率的とは言い難い状況にある。

このためフィリピン政府は、2005年1月の国連防災世界会議における「兵庫行動枠組(2005-2015)」採択以降、右枠組を踏まえた具体的な行動計画として「災害リスク軽減にかかる戦略的国家行動計画（Strategic National Action Plan：SNAP）2009-2019」を策定するなど、災害管理強化への取り組みを進めてきた。

特に、2010年5月には「災害リスク軽減・管理法（共和国法第10121号）」（DRRM法）を制定し、従来の災害後対応に加え、予防・軽減を含んだ総合的な災害リスク管理を実施するため、災害リスク軽減・管理（Disaster Risk Reduction and Management：DRRM）という新たなアプローチに基づく防災の基本枠組みを打ち出した。DRRM法では、国レベルの災害管理に関する最高意思決定機関である「国家災害リスク軽減管理評議会（National Disaster Risk Reduction and Management Council：NDRRMC）」の再編のほか、「国家災害リスク軽減管理計画（国家防災計画）（National Disaster Risk Reduction and Management Plan：NDRRMP）」の策定、地方管区（Region）及び地方自治体（Local Government Units：LGUs）レベルのDRRM部局（DRRMOs）の設置などが定められた。この新たな枠組みの下でDRRM活動を実施するため、NDRRMPを始めとするDRRM関連計画等の整備、また関連組織の能力強化のニーズが急速に高まっている。

DRRM法の制定により、DRRM活動の中心的組織の役割を果たしうるNDRRMCの事務局として位置づけられているのが市民防衛局（Office of Civil Defense：OCD）である。しかし、従来OCDの活動は災害後の対応が中心であったが、今後は予防・軽減も含む、より広範囲かつ多様なDRRM活動を担うことが求められている。例えば、中・長期計画の策定や、DRRM活動における手続きや基準の標準化なども、OCDに期待される役割となっている。このような状況から、OCDの組織・人材の能力強化が急務となっている。

このような状況の下、JICAは2010年3月から11月にかけて、3次にわたる協力準備調査を実施し、協力の枠組みについての検討を行い、翌2011年4月にはフィリピン政府から日本政府に技術協力プロジェクトの要請がなされ、同10月28日に署名された討議議事録（Record of Discussions：R/D）に基づき、2012年3月から本プロジェクトが開始された。

プロジェクトの実施期間は2015年3月までの3年間である。実施期間の中間地点である2013年10月には中間レビューが実施された。また実施期間が残り6カ月となった2014年10月には、R/Dに記載のとおりフィリピン側と日本側の両者による合同終了時評価が実施された。



## 1-2 プロジェクトの概要

2014年2月7日（第6回JCC会議）に更新された最新のプロジェクト・デザイン・マトリクス（Project Design Matrix : PDM）Version 3によると、プロジェクトの概要は次のとおり。PDMおよび活動計画（Plan of Operation : PO）は添付1および添付2を参照。

（上位目標）

フィリピン政府機関による DRRM 活動が改善される。

（プロジェクト目標）

市民防衛局（OCD）の DRRM 能力が強化される。

（成果）

1. DRRM に関する OCD の計画立案・実施能力が改善される。
2. DRRM 活動（情報管理を含む）が標準化される。
3. DRRM 教育研修システムとその能力が強化される。
4. コミュニティ防災（Community Based Disaster Risk Reduction and Management : CBDRRM）活動の支援体制が強化される。

（協力期間）

2012年3月～2015年3月（3年間）

（実施機関）

市民防衛局（OCD）国防省（Department of National Defense : DND）

## 1-3 合同終了時評価の目的

終了時評価の目的は次の通りである。

- 1) PDM に基づいて、プロジェクトのこれまでの投入、活動、実施プロセス、成果と実績を確認するとともに、プロジェクト目標、上位目標の達成見込みを判断する。
- 2) JICA 事業評価ガイドラインに基づき、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点からプロジェクトを評価する。
- 3) 残りのプロジェクト期間及び今後の活動内容に関する提言を取りまとめるとともに、将来の類似プロジェクトの形成・実施の参考となる教訓を抽出する。

## 1-4 合同評価調査団の構成

終了時評価は、以下のフィリピン側および日本側のメンバーから構成された合同評価調査団により実施された。

(1) フィリピン側

氏名	担当	所属
Ms. Concepcion R. Ornopia	評価	OCD 内部監査局担当官（Officer-in-Charge : OIC）
Ms. Mara Gerona	評価	DND 計画業務局
Mr. Eugene G. Eugenio	評価	DND 計画業務局

(2) 日本側

氏名	担当	所属
永石 雅史	総括	JICA 地球環境部参事役
日下部 隆昭	防災政策	JICA 専門家
秋山 慎太郎	調査企画	JICA 地球環境部防災第二チーム
奥田 浩之	評価分析	合同会社適材適所
Mr. Rey Gerona	評価計画	JICA フィリピン事務所インハウス・コンサルタント
Ms. Catherine Palanca	評価計画	JICA フィリピン事務所

### 1-5 調査日程

合同終了時評価調査は、2014年9月20日から2014年10月10日まで実施された。そのスケジュールは添付3のとおり。

### 1-6 合同終了時評価の手法

終了時評価は、「新 JICA 事業評価ガイドライン第 1 版」に沿って、必要なデータ・情報を収集、整理、分析し、活動実績、計画達成状況、評価 5 項目等の観点から、プロジェクトの実施状況を総合的に評価する。評価実施の際の基礎ツールとなるのは、本プロジェクト R/D 中のマスタープランに沿ってプロジェクト目標、成果、指標などが要約された PDM（中間レビューを踏まえて 2014 年 2 月に改訂された最新のもの）である。

調査団は、まずプロジェクトに関する既存の文献、報告書等をレビューし、次に PDM に基づき、プロジェクトの実績（投入、活動、成果・プロジェクト目標の指標に沿った達成度等）および評価 5 項目ごとの調査項目に関するデータ、情報を収集し、整理するための 2 つのグリッド（成果グリッド及び評価グリッド）を作成した。成果グリッドの記入については専門家から情報・データを入手するとともに、評価グリッドに基づいて質問票を作成し、現地調査前にプロジェクトのカウンターパート（OCD 職員）に配布し、記入を依頼した。現地調査期間中は、成果グリッド及び質問票を基に、プロジェクト実施に関わる専門家、カウンターパート、関係者に対するインタビュー・ヒアリングを行った。面談者リストは添付 4 の通り。

事前に配布した質問票の回収、報告書からの情報や知見、関係者へのヒアリング、パイロットサイトの訪問などにより得られたデータや情報を基に、プロジェクトの専門家およびカウンターパートとも協議しながら、プロジェクトの進捗と実績を確認し、評価 5 項目の観点から評価を行い、提言と教訓を抽出して、合同評価報告書に取りまとめた。

JICA のプロジェクト評価では、評価における価値判断の基準として「評価 5 項目」が採用されている。評価 5 項目とは、1991 年に経済協力開発機構開発援助委員会（Organization for Economic Co-operation and Development - Development Assistance Committee : OECD-DAC）で提唱された開発援助の評価基準であり、次の 5 項目からなる。

項目	評価の視点
妥当性	相手国やターゲットグループの政策・方針、優先度やニーズと、プロジェクトの目標・上位目標との整合性の度合い。
有効性	プロジェクト目標の達成度合いを測り、活動・成果・目標の関係など、プロジェクトが有効に組み立てられていたかどうかを検証。
効率性	プロジェクトが期待する成果（アウトプット）を達成するために効果的に資源（インプット）を使っているかどうかをみる。
インパクト	上位目標への進捗度合いの他、プロジェクトによって意図的または意図せずに生じる正・負の変化を評価する。環境・貧困削減・ジェンダー等の開発指標にもたらす影響を含む。
持続性	プロジェクトによる支援が終了しても便益が継続するかどうかについて、制度、技術、人材、財政の各視点からの見込み。

## 第2章 プロジェクトの実績

### 2-1 投入実績

(日本側)

#### 2-1-1 専門家の派遣

プロジェクトは、2012年3月の日本側専門家のフィリピンへの派遣により開始された。それ以降2014年10月までの間で、計15名の専門家（DRRM計画、コミュニティ防災、防災オペレーション、人的資源開発、地方DRRM計画、情報管理システム等の分野）が、短期ベースで計2,605日間フィリピンに派遣されている。日本側専門家チームは、オリエンタルコンサルタンツ株式会社、株式会社建設技研インターナショナル、パシフィックコンサルタンツ株式会社、アジア防災センターからの専門家で構成されている。（添付5）

#### 2-1-2 供与機材

成果2の活動を進めるために、情報管理システムのための機材（サーバーコンピュータ、GISソフトウェアのためのデスクトップパソコン、A0サイズプロッター）が2013年9月に調達された。これら機材はOCD本部の情報通信・電子技術（Communication, Electronics and Information Technology：CEIT）課およびプロジェクト事務所に設置されている。（添付6）

#### 2-1-3 本邦研修

国別研修がこれまで2回（2013年6月および2014年5月）実施され、計19名のOCDカウンターパート・ステークホルダーが日本の防災関係機関（国土交通省、内閣府等）や2011年の東日本大震災で被害のあった自治体（釜石市、石巻市等）を訪問した。（添付7）

#### 2-1-4 プロジェクト活動費

日本側はプロジェクト実施のための活動費の一部を負担している。2012年3月から2014年8月時点までの合計は70.4百万円（ただし、2014年度の数値は仮値）で、その主な内訳は、旅費・車輛借り上げ、ローカルスタッフ給与、ローカルコンサルタント備上、研修関係費、備品、通信費等となっている。（添付9）

(フィリピン側)

#### 2-1-5 カウンターパートの配置

署名されたR/Dによると、市民防衛局長官（Civil Defense Administrator：CDA）がプロジェクトの全体的な方針・実施に責任を持つプロジェクト・ダイレクター、市民防衛執行官（Civil Defense Executive Officer：CDEXO）がプロジェクトの日常的な管理・運営を行うプロジェクト・マネジャーである。CDEXOは、同プロジェクトだけでなくOCDに派遣されている政策アドバイザー（JICA長期専門家）に関する事項についても協議するJICA委員会の議長（OCDカウンターパートチームのリーダー）でもある。

プロジェクトは4つの成果を掲げており、以下のOCD本部各課と地方管区事務所（Regional Office）の職員がカウンターパートとしてプロジェクトに従事した。（添付8）

成果	OCDの担当課（カウンターパートの人数）
（成果1） DRRMに関するOCDの計画立案・実施能力の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画プログラム課（6）</li> <li>・ OCD第2地方管区事務所（1）</li> </ul>
（成果2） DRRM活動（情報管理を含む）の標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災オペレーション課（3）</li> <li>・ CEIT（情報通信・電子技術）課（2）</li> <li>・ NDRRMS（国家DRRMサービス）（1）</li> <li>・ OCD第10地方管区事務所（1）</li> </ul>
（成果3） DRRM教育研修システムとその能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材管理開発（Human Resource Management and Development：HRMD）課（2）</li> <li>・ 教育研修課（3）</li> <li>・ OCD第3地方管区事務所（1）</li> </ul>
（成果4） コミュニティ防災（CBDRRM）活動の支援体制が強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育研修課（2）</li> <li>・ NDRRMS（2）</li> <li>・ OCD第7地方管区事務所（1）</li> </ul>

#### 2-1-6 プロジェクト活動費

プロジェクト活動費は主に日本側が負担したが、フィリピン側もOCD災害対応オペレーションマニュアル作成のためのワークショップや、第11地方管区、第7地方管区、第2地方管区での国家災害対応計画（National Disaster Response Plan：NDRP）に係る説明会議の開催費用を負担（OCD地方管区事務所が会場費を、OCD本部が交通費を支出）した。（添付9）

#### 2-1-7 プロジェクト事務所

OCDは日本側専門家チームに執務スペース（プロジェクト事務所）を提供し、その光熱費なども負担している。プロジェクト事務所はOCDの3階に位置し、日本人専門家、ローカルスタッフ、ローカルコンサルタントが業務にあたっている。

### 2-2 プロジェクトの進捗

プロジェクトの進捗とこれまでの実績については、PDMに記載されたプロジェクト目標・成果の各指標にそって詳細に整理した。（添付10）その要約については以下のとおり。

#### 2-2-1 成果1:DRRMに関するOCDの計画立案・実施能力の改善

- 1) プロジェクト活動の中で第2（Cagayan Valley）地方管区DRRM計画（2013-2019）がNDRRMPの様式及び作成プロセスに沿って作成され、2013年8月にRDRRMC（地方管区DRRM評議会）で承認された。プロジェクトは初年目にOCDの各管区事務所による地方管区災害リスク軽減管理計画（Regional Disaster Risk Reduction and Management Plan：RDRRMPs）作成を支援する予定であったが、OCDが全OCD地方管区事務所にRDRRMPsを早急に作成するよう指示したため、プロジェクトは第2地方管区DRRM計画の作成のみを支援した。2014年10月時点では1つの管区〔（マニラ）首都圏管区（National Capital Region：NCR）〕を除く全ての管区（第2地方管区を含む16管区）でRDRRMPsが作成・承認されている。

- 2) 第2 地方管区の4 LGUs が、プロジェクトが地方災害リスク軽減管理計画（Local Disaster Risk Reduction and Management Plans : LDRRMPs）（地方 DRRM 計画）の作成を支援するパイロット LGUs に選ばれた。OCD 第2 地方管区事務所が中心となって、DRRM 計画のテンプレートや作成プロセスが一連のワークショップ等を通して紹介され、現時点では Alcala 町、Isabela 州、Ilagan 市が既に LDRRMPs を作成し、それぞれの LDRRMC（地方 DRRM 評議会）で承認されている。Cagayan 州についても、PDRRMP（州 DRRM 計画）のドラフトがワークショップ/会議を経て既に完成しており（したがってプロジェクトとしては活動は全て終了）、間もなく州災害リスク軽減管理評議会（Provincial Disaster Risk Reduction Management Council : PDRRMC）で承認される予定である。

第2 地方管区のパイロット LGUs	地方 DRRM 計画	地方 DRRM 評議会における承認	地方議会における AIP（年間投資計画）のための採択
Cagayan 州	州 DRRM 計画ドラフト (2014-2019)	2014 年 9 月 30 日に、州 DRRM 評議会および州議会の承認に向けて PDRRMP ドラフトが最終化・エンドースされた	
Alcala 町 (Cagayan 州)	町 DRRM 計画 (2014-2019)	承認	採択（2014 年 9 月 15 日）
Isabela 州	州 DRRM 計画 (2014-2019)	承認（2014 年 6 月 10 日）	採択（2014 年 9 月 17 日） （2012 年および 2013 年の未支出の地方 DRRM 基金に関する計画）
Ilagan 市 (Isabela 州)	市 DRRM 計画 (2015-2020)	承認（2014 年 7 月 23 日）	今後採択

- 3) 全国の LDRRMPs の作成・実施状況のモニタリング・ツールとして、エクセルフォーマットの Checklist and Assessment フォームが作成され、現在このフォームの最終化作業のため多くの LGUs からの現存の LDRRMPs の収集が進められている。（第2 地方管区においては、Cagayan 州 29LGUs のうちの 4LGUs、Isabela 州 35LGUs のうちの 2LGUs から LDRRMPs を現時点で収集）。プロジェクトは、第2、3、5、7、10 地方管区から LDRRMPs を収集し、Checklist and Assessment フォームに照らして評価する予定である。この評価結果を踏まえてフォームを修正・最終化し、その過程で内務自治省（Department of the Interior and Local Government : DILG）や NDRRMC テクニカル・マネジメント・グループともフォームの内容について協議することとしている。
- 4) 共和国法第 10121 号の「サンセット・レビュー<sup>2</sup>」への提案については、現時点で殆ど進展はない。プロジェクトは 2013 年 9 月 12 日に、OCD 地方管区長を集めて LDRRMP 策定に関するナレッジ共有ワークショップをマニラで開催した。また OCD は 2014 年 8 月 26～27 日にかけて、Mindanao クラスターの施工規則（Implementing Rules and Regulations : IRR）レビュー会議を開催し、同様のワークショップを Luzon クラスター、Visayas クラスター、さらに中央レベルでも実施する計画である。さらにプロジェクトは

<sup>2</sup> 法令施行後 5 年後に実施される法定見直し作業



現存の LDRRMPs の全国的な収集と Checklist and Assessment フォームの最終化を進めている。これらの活動の成果・結果をもとに、プロジェクトは今後「サンセット・レビュー」および NDRRMP の改訂・見直しのための提言を作成する予定である。

## 2-2-2 成果 2:DRRM 活動（情報管理を含む）の標準化

- 1) 水文気象災害にかかる NDRP（国家災害対応計画）が作成され、2014 年 6 月 11 日に NDRRMC にて承認された。NDRP は、災害対応業務の重複を避けるために各政府機関、防災関係組織の役割・責任を明らかにし、災害対応フェーズで何をすべきかについてこれらの機関に明確なガイダンスを提供している。2014 年 6 月 30 日には、NDRRMP の 4 つの柱（予防・軽減、災害準備、災害対応、復旧・復興）のうちの一つ「災害対応」の責任機関である社会福祉開発省（Department of Social Welfare and Development : DSWD）への NDRP の引渡し式が開催された。NDRP に関する覚書回覧（Memorandum Circular）については、まだ NDRRMC から発出されていない。地震・津波にかかる NDRP の作成が現在進められており、同ドラフトが 2014 年 9 月 30 日～10 月 1 日のテクニカル・マネジメント・グループ（Technical Management Group : TMG）ワークショップに提出・検討された。
- 2) 2013 年の OCD 暫定組織構造・人事配置（Organizational Structure and Staffing Pattern : OSSP）に基づく現在の OCD 組織体制に適応が可能な OCD 災害対応オペレーションマニュアルのドラフト（2014 年 3 月）が作成され、現在さらに内容の充実化が進められている。現在も審議中の OSSP が仮にプロジェクト期間中に最終化されれば、OCD 災害オペレーションマニュアルはそれに応じて改訂される予定であるが、最終化されない場合は、現在の OCD 災害対応オペレーションマニュアルは充実化ののち「暫定 OCD 災害対応オペレーションマニュアル」として承認される予定となっている。
- 3) プロジェクト開始前にも、OCS には既に過去の災害データや対応者情報を含むデータベース（EMIS, Calamidat.ph, SAHANA）が導入されていたが、様々な要因で 2008 年頃までしか機能していなかった。プロジェクトはこうした既存のデータベースを調査・レビューし、新たに GIS 技術を取り込んだプロトタイプの情報管理システム（Information Management System : IMS）を構築した。IMS は 3 つのデータベース（対応者、災害発生状況、過去の災害データ）から構成され、その URL は [121.127.9.130/ocdims/](http://121.127.9.130/ocdims/) である。現在、GIS マッピングによる災害発生状況がパソコン上では表示可能であるが、インターネット上での IMS の操作性は非常に遅く、インターネット上のウェブサイト（[121.127.9.130/ocdims/](http://121.127.9.130/ocdims/)）での表示がまだ難しいため、プロジェクトがシステムの改善に取り組んでいる。過去の災害データについては、限定的ではあるが Calamidat.ph に蓄積されていた 1972 年から 2009 年までの災害データが IMS に移され、また IMS の対応者データベースについては順調に完成しつつある。2013 年および 2014 年には、OCD 職員向けに IMS と GIS に関する研修が計 3 回開催された。IMS のウェブサイト（[121.127.9.130/ocdims/](http://121.127.9.130/ocdims/)）は、まだ OCD のウェブサイトにはリンクされていない。
- 4) 水文気象災害にかかる NDRP、および IMS 利用を含む OCD 災害対応オペレーションマ

ニュアルの訓練が計画されていたが、2014年7月に台風 Glenda が発生したため、その際の実際の災害対応・活動に対する評価ワークショップ（2014年7月31日～8月1日）に置き換えられた。現在作成中の地震・津波にかかる NDRP についても、関係機関を招いての評価ワークショップが 2014年11月に予定されている。

### 2-2-3 成果3:DRRM 教育研修システムとその能力の強化

- 1) 国家 DRRM 教育研修計画 (NDRRMETP) の構成案 (Draft Design) が 2014年7月に CDA によって承認され、プロジェクトは現在 NDRRMETP の作成を進めている。今後、ワークショップ等を通して既にパイロット研修を実施した 4 優先研修モジュールと NDRRMETP が最終化され、CDA の承認に向け提出される予定である。(NDRRMETP は、現在は「計画」であるが、今後の検討と最終化の過程で「プログラム」となる可能性もある。)
- 2) DRRM 研修機関〔共和国法第 10121 号 IRR に定める研修期間 (Training Institutes : TIs) のための優先研修モジュールについては、次の 4 優先グループについて作成され、モジュールに基づくパイロット研修が 2014年に実施された。これらのモジュールは今後最終化・承認され、NDRRMETP の一部となる予定。
  - ・ Module 1: 地方自治体の長と地方 DRRM 部局 (パイロット研修は 2014年2月 12-13 日に実施)
  - ・ Module 2: 国レベル政府組織 (パイロット研修は 2014年9月 24-26 日に実施)
  - ・ Module 3: 民間セクター (パイロット研修は 2014年8月 28-29 日に実施)
  - ・ Module 4: コミュニティ (成果 4 の TOT を参照)
- 3) 市民防衛教育研修プログラム (CDETP) の構成案 (Draft Design) が 2014年7月に CDA に承認され、プロジェクトは現在、次の 3 レベルでの CDETP の作成を進めており、パイロット研修も実施された。パイロット研修の結果を検討するため、CDETP 作業委員会のワークショップが 2014年9月 10-12 日に開催された。
  - ・ Level 1 : 基礎レベル (パイロット研修は 2013年2月 27 日～3月 1 日、2013年8月 4 日～15 日に実施)
  - ・ Level 2 : 上級レベル (Contingency Planning に関するパイロット研修が 2014年7月 22-25 日に実施)
  - ・ Level 3 : 幹部レベル (OCD によりパイロット研修が実施される予定)

### 2-2-4 成果4:コミュニティ防災 (CBDRRM) 活動の支援体制の強化

- ・ CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー案がプロジェクトによって作成され、CBDRRM のための TMG 小委員会で検討されている。また、コミュニティ防災研修のためのトレーナー基礎ガイドが英語とタガログ語で作成された。コミュニティ防災推進のためのコンセプトペーパー案、トレーナー基礎ガイド、コミュニティ防災研修コースを評価検討するため、第 3 地方管区の Bataan 州 (Balanga 市および Morong 町) で研修トレーナー養

成研修(Training of Trainers:TOT)方式を用いたパイロット研修が2014年に実施された。これらの結果を踏まえて、コンセプトペーパー案は2014年10月7日のTMGにレビュー・最終化のために提出される予定である。

- TOT 1(2014年7月7-11日):参加者は、OCD(本部および第3地方管区事務所)、NDRRMCメンバー機関(DOST-PHIVOLCS、DOST-PAGASA、DILG、国家経済開発庁(National Economic Development Authority: NEDA)(中央および第3地方管区)、DSWD、国家地理資源情報庁(National Mapping and Resource Information Authority, DENR: NAMRIA)、環境天然資源省(Department of Environment and Natural Resources: DENR)、保健省(Department of Health: DOH)、DRRNET(World Visionが代表として出席)から計27名。
- TOT 2(2014年8月11-15日):参加者は、TOT1に出席したOCD(本部および第3地方管区事務所)、NEDA(中央および第3地方管区)、DOST-PAGASA、DILG、World Vision、CDPからの15名がトレーナーとして、またBataan州DRRM部局、Balanga市DRRM部局、Morong町DRRM部局からの計28名が受講者として出席。
- TOT 3(2014年9月8-12日)  
TOT 3-1: Balanga市のTortugasバラングイ、OCD(本部および第3地方管区)、DOH(第3地方管区)、NEDA(第3地方管区)、CDP(NGO)から8名が評価者・メンターとして出席。Balanga市、Bataan州からの7名がトレーナーとして出席し、Tortugasバラングイから16名が受講者として参加した。  
TOT 3-2: Morong町のSabangバラングイ、OCD(本部および第3地方管区)、NEDA、DILG(第3地方管区)、DOST-PAGASA、CDPから8名が評価者として出席。Morong町、Bataan州からの6名がトレーナーとして出席し、Sabangバラングイから20名が受講者として参加した。
- コミュニティ  
CA 1(Balanga市のTorutugasバラングイ、2014年10月2-4日):OCD(中央および第3地方管区)、DOH(第3地方管区)、Bataan州、Balanga市、CDPから10名が評価者・メンターとして参加。Tortugasバラングイから7名がトレーナーとして出席し、Tortugasバラングイからは35名が受講者として参加した。  
CA 2(Morong町のSabangバラングイ、2014年10月3-5日):OCD(中央および第3地方管区)DOST-PAGASA、Bataan州、Morong町から11名が評価者・メンターとして参加。Sabangバラングイから6名がトレーナーとして出席し、Sabangバラングイからは27名が受講者として参加した。
- コミュニティ防災活動を全国展開していくための行動計画については、CBDRRM国家政策コンセプトペーパー案の中で予算と実施メカニズムを挙げて説明されている。将来、コンセプトペーパーについてはNDRRMCからMemorandum Circular(覚書回覧)として翻訳・発出されることで、国家政策としての位置づけが与えられる予定。またDILGは、コミュニティ防災活動の推進に向けて当該部局からLGUsへ覚書通達を発出することを検討している。

## 2-2-5 成果レベルの指標の達成度

プロジェクトの各成果の進捗・実績は以上の通りである。終了時評価調査での進捗・実績の程度はPDMに明記された指標に即して判断される。プロジェクトは、2014年10月時点で、成果レベルの14指標のうち、5指標については「概ね達成」、8指標については「部分的に達成」、1指標については「未達成」の状態である。

No	指標	アセスメントと現状
1-1	地方自治体のDRRM活動に関し、共和国法第10121号の「サンセット・レビュー」およびNDRRMPの改善への提言が、プロジェクトの成果に基づき作成される。	未達成 提言は今後作成される予定。
1-2	17の全地方管区でRDRRMPsが策定され、承認される。	概ね達成 1管区(NCR)以外で全てのRDRRMPsが承認された。
1-3	第2地方管区のパイロットLGUsのLDRRMPsが作成され、承認される。	概ね達成 パイロット4地方自治体のLDRRMPsは最終化され、うち3自治体のLDRRMPsが既に地方DRRM評議会により承認された。
1-4	LGUsのためのLDRRMPsとLDRRMOsのモニタリング・ツール/シートが作成される。	部分的に達成 Checklist and Assessment フォーム(ドラフト)は、LDRRMPsに対して試験適用され、その結果を踏まえて改善・最終化される予定。
2-1	水文気象災害、地震・津波にかかるNDRPsが承認される。	部分的に達成 水文気象災害にかかるNDRPは承認され、一方、地震・津波にかかるNDRPは作成中。
2-2	OCD災害対応オペレーションマニュアルが承認される。	部分的に達成 現在の暫定的なOCD組織体制に適用可能なOCD災害対応オペレーションマニュアル案が作成された。
2-3	OCD本部・地方管区事務所レベルでIMS(対応者、災害発生状況、過去の災害データに関するデータベース)が承認される	部分的に達成 IMSは、引き続きデータベースの充実とシステムの改良が進められている。
2-4	ICTスタッフ24名がIMSに関する研修を受講する(本部7名、地方管区事務所17名)。	部分的に達成 今後、特にOCD地方管区事務所向けに、3回の研修が計画されている。
2-5	NDRP、OCD災害対応オペレーションマニュアル、IMSに関する訓練が実施される。	部分的に達成 2014年11月に地震・津波にかかるNDRPの評価ワークショップを予定。
3-1	国家DRRM教育研修計画が最終化され、OCD幹部に承認される。	部分的に達成 国家DRRM教育研修計画は今後最終化され、承認される予定(構成案については、2014年7月にCDAにより既に承認)
3-2	TIsのための優先研修モジュールが最終化され、OCDにより承認される。	概ね達成 4つの優先研修モジュールが最終化され、承認される必要。
3-3	市民防衛教育研修プログラム(CDETP)が開発され、OCD幹部に承認される。	概ね達成 CDETPは最終化され、承認される必要(構成案については、2014年7月にCDAにより既に承認)
4-1	CBDRRM国家政策(コンセプトペーパー)、トレーナー基礎ガイド、研修コースがNDRRMC災害準備TMGで最終化され、NDRRMC議長に承認される。	概ね達成 コンセプトペーパー案と、パイロット研修で用いられたトレーナー基礎ガイド(研修コースを含む)が今後最終化され承認される必要。
4-2	CBDRRM活動を実施し、モニタリング・評価する行動計画が、国・地方管区レベルで準備される。	部分的に達成 行動計画はコンセプトペーパーの一部として作成され、災害対応TMGへの提出とNDRRMCによる政策への準備が進んでいる。

「概ね達成」とされた5指標については、プロジェクト活動についてはほぼ終了しており、



今後は主に成果品（計画、マニュアル、ガイド等）の責任機関による承認が待たれている活動である。例えば、指標 1-3 については、パイロット 4 地方自治体（Isabela 州、Ilagan 市、Cagayan 州、Alcala 町）の LDRRMPs は既に最終化され、そのうちの 1 つ（Cagayan 州 DRRM 計画）が地方 DRRM 評議会の承認を待っている状態である（他の 3 地方自治体については、既に承認済み）。また、指標 3-2 については、間もなく優先研修モジュールが最終化・完成する予定であるが、その承認については、OSSP および TIIs の設立を含む OCD 組織体制の確定が前提となっている。

「部分的に達成」とされた 8 指標については、プロジェクトは成果品の最終化とその承認に向けて、計画・マニュアルやモニタリング・ツールについては内容の充実化・推敲をさらに進め、システムについては改善し、研修・訓練を実施し、評価ワークショップや検討会を開催し、関係官庁と協議しフィードバックを成果品に反映させる等、今後の 6 カ月間にまだ多くの活動が残っている指標である。これら活動を残り 6 カ月で全て実施するには、プロジェクトは今後も一層の努力が必要と考えられる。

また、指標 1-1 については「未達成」とされたが、これは共和国法第 10121 号の「サンセット・レビュー」及び NDRRMP の改善に向けた提言については、まだ作成が始まっていないためである。プロジェクトは、Checklist and Assessment フォームを最終化し、その過程やこれまでのプロジェクト活動成果に関して OCD 地方管区長のナレッジ共有ワークショップを開催して知見を集約する等により、「サンセット・レビュー」の提言を作成していく予定である。

## 2-3 プロジェクト目標の達成見込み

### 2-3-1 プロジェクト目標の達成に向けた進捗

プロジェクト目標は、OCD の DRRM 能力の強化である。2011 年 10 月の R/D 署名までに、プロジェクト形成のための準備調査が 3 回実施された（2010 年 2 月 25 日～3 月 6 日、2010 年 7 月 28 日～9 月 3 日、2010 年 11 月 1 日～11 月 19 日）。そこで OCD の 4 つの課題に対して特に高い支援ニーズがあり、プロジェクトはこの 4 重点分野についての能力強化につながる支援とすることが確認された。（また、技術協力プロジェクトによる優先分野への支援とともに、より個別のニーズを調査し応えることで OCD 全体の底上げにつながる長期専門家（政策アドバイザー）派遣を組み合わせる支援とすることが、同時に提案された。）

- 1) DRRMP（災害リスク軽減管理計画）策定プロセスおよび計画に示された幾つかの事業実施を通じた、計画立案および事業実施能力の強化
- 2) 災害管理における意思決定、災害対応能力向上に向けた情報管理、各種活動等の標準化
- 3) 人材ニーズに対応するための人材育成・教育訓練計画の策定
- 4) コミュニティ防災活動の促進を支援するため、ガイドラインの策定、パイロット活動の実施

これら 4 重点分野はそれぞれ成果 1～4 としてプロジェクトの計画に反映された。上述した成果 1、2、3、4 の進捗により、OCD はプロジェクト実施を通じて、これら 4 重点分野における能力は著しく向上したと言える。（ただし、1）については当初想定されていた国家 DRRM 計



画の立案支援でなく、地方 DRRM 計画の策定支援にかかる活動に変更された。）

具体的には、プロジェクトを通して、4 重点分野において組織レベルの能力強化（手続き、方針文書、システム等の整備）とともに個人レベルの能力強化（知識、スキル、経験の習得）が行われた。組織レベルの能力強化として、特定の計画、手続きや方針が、以下のように成果品として作成された。（その過程・活動で行われた個人レベルの能力強化については、終了時評価調査中のインタビューから確認できた幾つかの事例について、有効性のところで整理。）

	既に承認されたもの	これから承認が必要なもの
成果 1	1. 第 2 地方管区 DRRM 計画 2. Isabela 州 DRRM 計画 3. Ilagan 市 DRRM 計画 4. Alcala 町 DRRM 計画 5. （その他 15 地方管区の RDPPM 計画）	a. Cagayan 州 DRRM 計画 b. Checklist and Assessment フォーム（LDRRMPs モニタリング・評価ツール）
成果 2	6. 水文気象災害にかかる NDRP	c. 地震・津波にかかる NDRP d. OCD 災害対応オペレーションマニュアル
成果 3	-	e. 国家 DRRM 教育研修計画 （構成案については既に承認済み） f. TIIs のための 4 つの優先研修モジュール g. 市民防衛教育研修プログラム （構成案については既に承認済み）
成果 4	-	h. CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー i. トレーナー基礎ガイド j. コミュニティ防災のための行動計画

特定のシステムやプログラムについても、以下のように成果品として作成された。ところで、組織レベルの能力強化にとって重要な一つの要素は適切で効果的な組織体制の確立であるが、これはプロジェクト活動の中には含まれず、プロジェクトの外で現在 OSSP 最終化の検討が進められている状態である。手続き、マニュアル、プログラム、システム等はプロジェクトを通して整備されたが、これらは OSSP の最終化が長引く中で現在の OCD の過渡的な組織体制に適用するよう作成されていることに留意しておくべきである。

	運用可能	まだ運用可能でないもの
成果 1	-	1. Checklist and Assessment フォーム
成果 2	1. IMS（情報管理システム） 2. （NDRP に基づく新たなクラスターのグループピング）	2. OCD 災害対応オペレーションマニュアル
成果 3	3. TIIs のための 4 つの優先研修モジュール	3. 市民防衛教育研修プログラム
成果 4	4. トレーナー基礎ガイド	4. CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー

この先の残り 6 カ月の協力期間で多くの成果品がまだ最終化・承認されなければならないことは明らかである。計画・マニュアルやモニタリング・ツールについては内容の充実化・推敲

をさらに進め、システムについては改善し、研修・訓練を実施し、評価ワークショップや検討会を開催し、関係官庁と協議しフィードバックを成果品に反映させる等、プロジェクトはまだ多くの活動を実施する必要がある。通常、11月から1月にかけてフィリピン国内の活動は停滞気味になることから、これらの活動実施には特別の努力が求められる。しかし、成果の達成を確実にするため残り6カ月のワークプランを作成して活動を強化・促進することで、自然災害の発生等の外部条件はあるものの、プロジェクトは2015年3月の協力期間までにプロジェクト目標を達成する可能性は十分にある。

### 2-3-2 プロジェクト目標レベルの指標の達成度

PDM に設定されたプロジェクト目標レベルの指標は、1) プロジェクトが作成した計画、マニュアル、ガイドラインがオーソライズされる。2) プロジェクトが作成したコンセプト、システム、プログラムが運用可能になる、である。最初の指標に関しては、6つの計画がすでに承認されている一方で、10つの計画、ツール、プログラム、マニュアル、コンセプトペーパー等がまだ関係機関（国家・地方 DRRM 評議会、OCD 幹部）に承認される必要がある。第2番目の指標に関しては、4つのシステム、コンセプトが運用可能である一方で、さらに4つのマニュアル、プログラム等が運用に向けて今後引き続き改善・最終化される必要がある。4 優先研修モジュールなど指標1と指標2の両方に挙げられている成果品があるが、これはオーソライズされていないが、既に運用可能ではあることを示している。

No	指標	アセスメントと現状	
1	プロジェクトが作成した計画、マニュアル、ガイドラインがオーソライズされる	部分的に達成	上表のとおり
2	プロジェクトが作成したコンセプト、システム、プログラムが運用可能になる	部分的に達成	上表のとおり

### 2-4 上位目標に向けた進捗

上位目標はフィリピン政府機関による DRRM 活動の改善である。終了時評価調査インタビューでは、(手続きの整備等の能力強化を通して) OCD の DRRM 活動が実際に改善したとして関係機関が認識した事例を幾つか聞くことができた。具体的には、最近の自然災害(2014年7月の台風 Glenda、2014年8月の台風 Louise、2014年9月の台風 Mario) 対応の際の、OCD の調整・連携活動の改善である。しかし、OCD 以外の政府機関の活動も含めて、プロジェクトの成果としての DRRM 活動の改善という上位目標達成への進捗については、次のとおり未だ限定的である。

PDM では、上位目標レベルで設定された指標は、「サンセット・レビューの実施」、「全ての LGUs の LDRRMPs の更新」、「OCD のモニタリング・評価システムにおいて DRRM 基金の活用情報の定期的アップデート」、「計画、マニュアルに基づく DRRM 活動の実施」、「コンセプト、システム等の運用」である。最初の指標に関しては、プロジェクトはまだ、来年フィリピン議会により実施される予定のサンセット・レビューのための提言をこれから作成するところである。次の指標に関しては、プロジェクトはテンプレートに基づき第2地方管区のパイロット・パイロット外 LGUs の LDRRMP の作成・更新を支援したが、テンプレートを使って全ての LDRRMP の更新を促すためには、LGUs のテンプレート活用に関する合同覚書回覧(Joint Memorandum Circular: JMC)

の発出がないと長い時間がかかることが想定できる。さらに、DRRM 基金の活用に関するモニタリング・評価システムについては具体的な進展はなく、計画、マニュアル、コンセプト、システム等の多くについても、今後まだ最終化されオーソライズされる必要がある。

## 2-5 実施プロセス

2013年3月に、実施機関であるOCDの本部は8課とNDRRMサービスに再編された。プロジェクトは4つの成果があり、現在6課（計画・プログラム、オペレーション、CEIT、HRMD、教育・研修、NDRRMサービス）の職員がプロジェクトに従事している。CDEXOは本プロジェクトのプロジェクト・マネジャーであるとともに、OCDに派遣された長期専門家（政策アドバイザー）も含めたJICAの協力に対するOCD側のフォーカルパーソンでもある。合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）には、NDRRMCの共同議長である機関、すなわち科学技術省（Department of Science and Technology：DOST）、DILG、DSWD、NEDA（国家経済開発省）がメンバー機関として参加している。

### 第3章 評価5項目によるレビュー

#### 3-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は高い。

- 1) プロジェクトはフィリピン国政府の DRRM 政策と整合しており、その高い妥当性は開始当初から変わっていない。「フィリピン中期開発計画（2011-2016）」は、フィリピンの政策・社会経済開発の最上位計画であり、策定後この間の変更はなかった。共和国法第 10121 号「フィリピン災害リスク軽減管理法」に基づき、DND が議長、その下の OCD が事務局を務め、さらに DILG、DSWD、DOST、NEDA が副議長を務める NDRRMC が 2010 年に設置された。また、NDRRM フレームワーク（災害リスク軽減管理の原則と、マルチハザード・アプローチに基づき 2011 年に承認）、NDRRMP（国家・地方自身体や防災関連組織の能力強化のために 2012 年に開始）が策定された。プロジェクトは、DRRM における計画・オペレーション、教育・研修、コミュニティ防災における OCD の能力強化を目指しており、こうしたフィリピン政府の政策と整合している。

法律・計画・政策	責任機関	そこに記載された OCD の役割
共和国法第 10121 号	2010 年 5 月 27 日に、上院及び下院により承認	共和国法 10121 号の IRR 第 7 条で、OCD の職責内容、権限、機能（NDRRMP の策定、実施、モニタリングなど）や人員配置が定められている。（IRR 第 8 条では、TIs の目的、研修プログラム、組織体制も定められている）
国家 DRRM フレームワーク	2011 年 6 月 16 日に NDRRMC により承認	-（NDRRMF は、災害リスクの性質、開発課題における位置づけ、政策との関連、国際的動向、DRRM へのパラダイムシフト、DRRM の 4 つの柱など、DRRM に関する共通理解を記述したもの）
NDRRMP	NDRRMC テクニカル・マネジメント・グループにより作成され、2012 年 2 月に NDRRMC により承認	OCD は、DRRM のモニタリング・評価の実施（モニタリング・評価の標準テンプレート作成を含む）、LGUs の公共事業、社会・経済・環境計画が NDRRMP と一致していることの確認、LDRRMPs のモニタリング・評価、災害後の復興ニーズ調査（PDNA）を実施。
地方管区 DRRM 計画	OCD 本部・地方管区事務所に より調整・促進され、DRRMC（OCD 地方管区長が議長を務める）により承認	OCD は、CBDRRM と気候変動適応アセスメントと分析・モニタリング、コミュニティの災害対応能力強化、被災地域の被害およびニーズの緊急アセスメント、特定の社会サービスの提供等に関する主導機関と位置付けられている。
地方 DRRM 計画	地方 DRRM 部局により作成され、地方 DRRM 評議会により承認	OCD（第 2）地方管区事務所は、DRRM に関するコミュニティ啓発・準備の実施と、災害対応、復興・復旧の分野における実施パートナー機関と位置付けられている。
水文気象災害にかかる NDRP	OCD により作成（DSWD が支援・調整）され、2014 年 6 月 30 日に NDRRMC により承認	OCD の任務は、調整の促進、災害対応・コミュニケーション・情報管理に関するリソースモービライゼーション、2 クラスタ（ロジスティクス及び緊急通信）の統率、災害オペレーションセンターの管理。

- 2) プロジェクトは、実施機関である OCD のニーズ・期待に引き続き合致している。プロジェクトは、OCD の能力強化を効果的に進めるため状況の変化に応じて活動を調整・変更してきており、例えば、NDRRMP は OCD のイニシアティブにより 2012 年 3 月のプロジェクト開始前に策定・承認（2012 年 2 月）されたことから、OCD 計画立案に関する能力強化については、当初想定していた NDRRMP 策定ではなく、地方管区 DRRMP および地方 DRRMPs の策定を通じて行うよう変更された。またプロジェクトは、OCD の組織体制変更（OSSP の検討が長引くなかで、2013 年 3 月に OCD 本部は 8 課に再編され、NDRRM サービスが新たに設立）にも対応しつつ活動を実施してきている。具体的には、現時点での過渡的な OCD 組織体制に適用可能な OCD 災害対応オペレーションマニュアルや、TIs の業務開始が見通せないなかで国家 DRRM 教育研修計画、優先研修モジュールなど現在の状況下で有効な成果品を作成してきた。
- 3) プロジェクトは、日本の対フィリピン国別援助方針（2012 年 4 月）と整合しており、災害リスク軽減管理はフィリピンに対する支援の重点分野の一つとされ、本プロジェクトもその中に位置づけられている。

### 3-2 有効性

プロジェクトの有効性は中程度である。

- 1) プロジェクトは OCD の DRRM 能力強化に著しく貢献しているが、PDM の成果レベル・プロジェクト目標レベルの指標については十分に達成した指標はまだ一つもないことから、プロジェクトの有効性は中程度と評価された。十分に達成した指標がまだ一つもない理由としては、殆どの指標に成果品の「承認」が含まれていること、また、幾つかの活動については自然災害の頻発により OCD のプロジェクト活動が影響を受けスケジュールから遅れていることが挙げられる。14 の成果レベルの指標のうち、プロジェクトは 5 指標については「概ね達成」、8 指標については「部分的に達成」、1 指標については「未達成」の状態である。またプロジェクト目標レベルの 2 指標についても、共に「部分的に達成」の状態である。プロジェクト活動の進捗・実績を測る指標に、成果品の「承認」を含めるのが適切かどうか（例えば、LDRRMP を採択する市町議会はプロジェクトの活動が及ぶ範囲外である）との議論が以前あったが、一方で「承認」を指標に含めることによる正の効果もまた明らかである（例えば、承認に向けたプロジェクト活動の促進、成果品の内容の質の確保、水文気象災害にかかる NDRP 承認によるクラスターの再編など国レベルのインパクトの発現）。
- 2) さらに指標の達成度に関連して、指標を達成していない活動であっても、必ずしも活動が十分行われなかったことを意味するわけではない。例えば指標 1-3 に関し、Ilagan 市は 2013 年に CDRRMP の市 DRRM 評議会からの承認を得たが、地方 DRRM 基金の確保に間に合わせるために 5 年間の CDRRMP（2014-2019）の中から 2014 年分の CDRRMP だけ抽出して承認を得たものである。（その後 Ilagan 市は CDRRMP 全体を検討し直し、2014 年については CDRRMP（2015-2015）として全体の承認・採択を目指している。）これに対して、Cagayan 州の PDRRMP はまだ承認を得られていないが、その内容についてはテクニカル・ワーキン



グ・グループにより十分に検討が重ねられてきた。よって LDRRMPs が承認・採択まで迅速に進んでいるからといって、それが LGUs の DRRM 部局のパフォーマンスを示しているとは必ずしも言えない。指標である成果品の承認・採択の状態だけを見るのではなく、承認にむけた策定プロセス、その策定プロセスにおける能力強化についても留意すべきである。

- 3) 既述のように、組織レベルの能力強化にとって重要な一つの要素は、適切で効果的な組織体制の確立であるが、OSSP の検討が継続しており現在の OCD は過渡的な組織体制であることから、これが（カウンターパートの頻繁な交替だけでなく）プロジェクトが計画、マニュアル、モジュールを作成するにあたっての制約となった。例えば、3 カ所（マニラ、セブ、ダバオ）に設立が計画されている TIs について、OCD は施設設計は終えているが、建設のための予算は DND の年間予算の中にまだ措置されていない。TIs の業務開始が見通せない中で、TIs が行うべき役割と活動は、現在 OCD の教育研修課が実施している。優先研修モジュールは、当初は TIs による実施を想定して作成されることになっていたが、現在の移行期の体制に合うよう優先研修モジュール作成に関する活動も調整が求められた。
- 4) さらに OCD の能力強化に関して、終了時評価調査時のインタビューにおいて、幾つかの防災関係機関から、台風 Glenda（2014 年 7 月）、台風 Louise（2014 年 8 月）、台風 Mario（2014 年 9 月）の災害の際の OCD の調整が向上した、とのコメントがあった。これは、OCD 防災オペレーション課が、水文気象災害にかかる NDRP（NDRRMC により 2014 年 7 月に承認）の中では「災害対応クラスター」の章が特に有用で最も参考にした、と述べているのと同じである。2010 年の準備調査では、プロジェクトの 4 重点分野（計画、オペレーション、人材育成、コミュニティ防災）が特定されたが、同時に OCD の垂直方向および水平方向の調整能力についても能力強化の必要性が触れられている。プロジェクトを通して、OCD の調整能力の強化が、既に他機関からも認識されるレベルで行われた。
- 5) 幾つかの防災関係機関から OCD の調整が顕著に向上したとコメントはあったが、同時に、OCD カウンターパートは引き続き技術的能力、実務能力、DRRM 専門家としての信頼性を伸ばしていく必要があることも認識している。
- 6) 個人レベルの能力強化について、終了時評価調査インタビューでは、プロジェクトで何を学んだかについてカウンターパートから多くの例が述べられた。

成果	プロジェクトでの学び
成果 1 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調整・ファシリテーションのスキル（ワークショップ等の実施を通じて）</li> <li>プレゼンテーション・発表スキル（ナレッジ共有ワークショップ等の機会を通じて）</li> <li>実際の災害経験をもとに DRRM の業務を発展させていくこと（本邦研修にて）</li> <li>プログラム・プロジェクト・活動の作成とモニタリング・評価システムにおける戦略的なアプローチ</li> <li>DRRM 活動、特にリスクアセスメントと計画策定プロセスの重要性</li> <li>計画策定への他機関の積極的参加・支援の重要性</li> <li>国家レベルから地方レベルまでの全ての DRRM 計画の間での調和</li> <li>DRRM 計画策定のためのツール・参考としての標準テンプレートの準備</li> </ul>
成果 2 (オペレーション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関の関与、またその役割・責任を明確化しておくことの重要性（NDRP の策定を通じて）</li> <li>策定した計画の継続的な更新（本邦研修を通じて）</li> </ul>
成果 3 (教育・研修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>DRRM への民間セクター・ボランティアの参加、またその幾つかの優良事例（本邦研修にて）</li> </ul>
成果 4 (コミュニティ防災)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ防災のコンセプトとコンテンツ、コミュニティ防災の体系的な実施プロセス</li> <li>プロジェクトのローカルコンサルタントから学んだ調整・ファシリテーションスキル（これらによって、NDRRMS はより責任のある活動を実施できた）</li> </ul>

- 7) CBDRRM に関しては、様々な政府機関、LGUs、NGOs が独自のコンテンツを用いて研修を実施している。地方自治大学校（Local Government Academy, DILG : LGA）等の DILG 下の機関も異なった研修モジュールやコンテンツを用いて類似の研修を実施している。プロジェクトは、CBDRRM 国家政策（コンセプトペーパー、研修コースを含むトレーナー基礎ガイド、活動計画を含む）を作成することで、こうした様々なコミュニティ防災活動の標準化プロセスを進めている。また、OCD 職員や LGUs 職員からは、TOT への参加によりコミュニティ防災に関し自信をもって講義、説明できるようになったとの声がきかれた。さらに、研修に参加したバランガイ職員（Tortugas と Sabang）は、自身でバランガイ DRRMC の構成図や避難地図など防災教材を作成する等の積極的な関与が見られた。
- 8) IMS の構築は、信頼できる災害統計の提供、災害リスクのアセスメント、過去の災害データから学ぶことによる効果的な対策・計画立案、よりの確な災害対応といった DRRM 活動のための重要な基礎となる。台風 Yolanda（2013 年 11 月）、台風 Glenda（2014 年 7 月）等の近年の自然災害で、IMS の有用性、新たな情報を追加していくことによるデータベースのアップデートとシステムを安定的に運用していくことの重要性が、OCD カウンターパートに認識された。

9) 2013年10月の中間レビューにおける提言と、その後の対応・状況は以下の通りである。

分野	提言	対応・状況
1) プロジェクト管理	カウンターパートの配置を変更しないこと、また実施体制を簡素化し指揮系統を明確にすること。	2013年10月の中間レビュー後も、2014年にはCDAの交替、成果1、成果3のカウンターパートの交替があった。
	月例カウンターパート会議には、4コンポーネントのカウンターパート全員が参加すること。	コンポーネント横断のカウンターパート会議の開催は次の通り：第1回（2013年8月12日）、第2回（2013年8月30日）、第3回（2013年9月27日）、第4回（2013年11月4日）、第5回（2013年12月13日）、第6回（2014年1月21日）、第3年次キックオフ（2014年6月9日）、第3年次第1回（2014年7月14日）
	プロジェクト終了時にキャパシティアセスメントを実施すること。	キャパシティアセスメントの実施は2010年12月の準備調査においても既に提案されていたもの。プロジェクト初年次に地方管区レベルでベースライン調査が実施されたが、その後パイロット地方管区が変更されたことから、現時点では、エンドライン調査を実施する予定はない。
2) 計画	第2地方管区のパイロットLGUsのLDRRMPs作成の経験を活用して、他のLGUsでもLDRRMPsの改善を支援すること。また、第2地方管区での経験を普及するため、参考資料をまとめて他のLGUsに提供すること。	パイロットLGUsでないAparri町、Peñablanca町が、そのMDRRMPsのための支援（テンプレートの提供や、ワークショップのファシリテーションなど）をOCD第2地方管区事務所から受けた。OCD第2地方管区事務所は、2013年9月のナレッジ共有ワークショップで、他のOCD地方管区長とパイロットLGUsの活動経験を共有した。次のナレッジ共有ワークショップも予定されている。
	共和国法第10121号のサンセット・レビューの概要・範囲を明確にすること、また国家レベルと地方レベルのDRRM計画のモニタリング・評価の対象範囲を明確にすること。	サンセット・レビューの概要・範囲の明確化に関する活動は、まだ始まっていない。
3) オペレーション	OCDの指導的役割のもと地震・津波に関するNDRPを策定すること。	地震・津波にかかるNDRPが作成され、2014年9月30日～10月1日のTMGワークショップに提出・検討された。
	水文気象災害にかかるNDRPがNDRRMCに早急に承認されるよう働きかけること。	水文気象災害にかかるNDRPは2014年6月にNDRRMCで承認された。
4) 研修	TIsのオペレーションに向けた工程表を明確にするとともに、策定した研修プログラムをどのように普及するかについて具体的な戦略を示すこと。	TIsのオペレーション開始に向けて、OSSPの最終化が待たれている。
	他の研修提供機関や政府機関との協力を促進すること。	2014年にOCDは、国レベル政府機関および(LGUsの研修を行う)DILGへの国家DRRM教育研修計画にかかる研修に関し、CSC（公務員委員会）と会議を持った。研修を実施する機関の信任システムが、アイデアの1つとしてOCDに検討されている。
5) コミュニティ防災	コミュニティ防災のコンセプトペーパーでは、各ステークホルダーの役割・責任を明示すること。	関係機関の役割・責任がコンセプトペーパーで明示された。
	コミュニティ防災を実施する上でリスク情報を自治体に提供する方法と仕組みを制度として導入すること。	現存するリスクマップの活用、技術官庁職員のコミュニティ防災への参加が、コンセプトペーパーに記されている。
	他の関係機関と連携し、継続性のある公共政策としてコミュニティ防災を位置づけること。	コミュニティ防災の持続性にとってDILGは最も重要な機関の1つであることから、活動はDILGと協力して行われている。

10) 質問票での回答やインタビューによる内容確認に基づき、事業効果は以下のように整理できる。

- ・ プロジェクト活動の実施と現在の組織体制下のオペレーションにより、OCD の DRRM にかかる計画・実施能力は顕著に強化された。
- ・ コミュニティ防災に関する研修をパイロット地域でのシナリオに適応させて実施することで、特にコミュニティへの研修モジュールが強化された。
- ・ 地方 DRRM 部局とコミュニティが積極的にプロジェクト活動に協力・参加したことで、政府関係機関が実施する DRRM 活動・オペレーションが効果的に実施された。
- ・ プロジェクト目標・活動の間の整合性、技術的ノウハウを有する人材と十分なリソース、プロジェクト立案者および実施者の強いコミットメントがプロジェクトの成功に貢献した。

11) また、事業効果以外については、次の点が挙げられる。

- ・ 成果 1 および成果 4 の成果品は、プロジェクト終了までの 6 カ月で作成される見込みである。一方、成果 2 および成果 3 の最終的な成果品については、OCD が共和国法第 10121 号に定める責任と機能を果たすよう現在検討中の OSSP の最終化・承認に拠っている。
- ・ OCD と関連するステークホルダー、JICA 専門家とローカルコンサルタントの双方の間に緊密な調整・協力・支援関係が見られた。また、関係者の参加型プロセス、優良事例を共有するためのワークショップが定期的にパイロット LGUs で開催された。
- ・ パイロットでない自治体 (Aparri 町) でも LDRRMP が作成され、LDRRM 評議会にて承認され、議会で採択された。OCD 第 2 地方管区長と地方 DRRM 部局とはその重要性を認識し、活動を最小の行政単位レベル (バラングイレベル) まで広めていくこととしている。

### 3-3 効率性

プロジェクトの効率性は中程度である。

- 1) プロジェクトの効率性は中程度とされたが、これはプロジェクトの幾つかの活動がスケジュールから遅れることとなった制約のためである。具体的には、OCD カウンターパートの頻繁な交替と、自然災害の頻発 (例えば、2013 年 10 月の Bohol 地震、2013 年 11 月の台風 Yolanda、2014 年 7 月の台風 Glenda など) である。こうした制約要因は、終了時評価調査インタビューにおいて、実施機関である OCD だけでなく、プロジェクトに関わる JCC メンバー機関からも言及があった。
- 2) 日本側からのプロジェクトへの投入については、プロジェクト途中での総括の交替があったが、専門家派遣や本邦研修など概して適切に実施された。各成果に配置されたローカルコンサルタントによるプロジェクト活動の促進・ファシリテーションも日本側の重要な投入である。専門家は短期ベースでフィリピンに派遣されていることから、フィリピン側カウンターパートへの継続的な技術移転は限られていたが、これに対処するため、プロジェクトは成果ごとにローカルコンサルタントを雇用・配置し、切れ目のない支援・技術移転に努力した。さらに、毎日のプロジェクト運営、ロジ等のためローカルスタッフも雇用し、

これら全員が日本側 JICA チームを構成した。

- 3) フィリピン側の投入は、カウンターパートの配置、プロジェクト実施のための活動費一部負担である。フィリピン側チームは CDA (プロジェクト・ダイレクター)、CDEXO (プロジェクト・マネジャー)、各成果を担当する OCD 職員で構成された。CDA と CDEXO は、OCD の任命官職のポジションであり、2012 年にプロジェクトが開始されてからこの間、それぞれ 3 回および 2 回の交替があった。また、OCD カウンターパートについても異動したり、プロジェクトでこれまで担当していたのと別の成果の担当になったりと交替が頻繁であった。
- 4) 日本側 JICA チームとフィリピン側チーム間のコミュニケーションは良好で、これはプロジェクトの促進要因の 1 つとして挙げられた。JCC 会議は、定期的にこれまで 7 回開催された。プロジェクトは個々のコンポーネントが独立した構成になっているため、パイロット活動もやや分断して実施された。例えば、成果 1 のパイロット活動は第 2 地方管区で実施されたが、成果 4 のパイロット活動は第 3 地方管区 Bataan 州で実施された。プロジェクト活動のコンポーネント間の水平的な連絡調整を確保するため、カウンターパートミーティングが定期的に行われた。

No.	日時	議題	参加機関
第 1 回	2012 年 4 月 18 日	プロジェクトの正式な開始	OCD、PHIVOLCS、PAGASA、DILG、DSWD、NEDA、LPP、LMP、ULAP。また DPWH、フィリピン情報局 (Philippines Information Agency : PIA) が JCC メンバーとして提案された。
第 2 回	2012 年 8 月 3 日	PDM ver2 の承認	OCD、PHIVOLCS、PAGASA、DILG、DSWD、NEDA、LPP
第 3 回	2012 年 11 月 14 日	進捗モニタリングおよび IMS 構築	OCD、DILG、NEDA、LPP、LMP、ULAP
第 4 回	2013 年 2 月 22 日	第 1 年次の実績確認	OCD、NEDA、PHIVOLCS、DSWD、LPP、DPWH
第 5 回	2013 年 10 月 18 日	中間レビュー報告	OCD、PAGASA、LMP、ULAP、GHQ&HEC、NEDA、PHIVOLCS、LGA (DILG)
第 6 回	2014 年 2 月 7 日	PDM ver3 の承認	PAGASA、ULAP、LMP、OCD、NEDA、LPP
第 7 回	2014 年 8 月 20 日	進捗のモニタリング	OCD、PHIVOLCS、DILG、LGA、DSWD、NEDA
第 8 回	2014 年 10 月 10 日	終了時評価報告	(予定)

- 5) プロジェクトの促進要因として終了時評価調査中に挙げられた項目は次のとおり。
  - ・ 日本人専門家とローカルコンサルタントが業務にあたっているプロジェクト事務所が OCD の 3 階に位置しており、立ち寄りが容易でコミュニケーションが良好であった。
  - ・ コミュニティ防災に関する活動のパイロットサイトとなった第 3 地方管区の地方自治体の長 (Bataan 州知事、Balanga 市町、Morong 町長) が、コミュニティ防災活動に対して強いコミットメントと支援を行い、また OCD 第 2 地方管区事務所も積極的に参加した。さらに、LDRRMP 作成支援のパイロットサイトとなった第 2 地方管区についても、OCD



第2 地方管区事務所、パイロット LGUs の地方 DRRM 部局 (Cagayan 州、Alcala 町、Isabela 州、Iligan 市) の積極的な参加があった。

- プロジェクト開始 (2012 年 3 月) に先立ち OCD が NDRRMP を策定 (2012 年 2 月) したことに加えて、各 OCD 地方管区事務所が 2013 年 7 月から 9 月にかけて管区内の地方 DRRM 部局を集めて「リージョナル・サミット」を開催し、さらに定期的な OCD 地方管区長会議の機会を利用してプロジェクトに関するナレッジ共有ワークショップを開催 (2013 年 9 月) するなど、OCD の積極的な取り組みがあった。

6) 障害要因としては、制約として上述したものも含めて、次の項目が挙げられた。

- 2013 年 3 月の OCD の組織改編、カウンターパートの頻繁な交替、TIs のオペレーション開始の遅れなどは、最終化が待たれている OSSP の検討に関係している。例えば、フィリピン側、日本側でプロジェクトの主要メンバーが交代したことは、プロジェクトの内容とこれまでの経緯を確認し、活動計画の再調整に追加的な時間が必要となり、プロジェクトの円滑な実施に影響を与えた。
- 台風やその他の災害が発生すれば OCD は災害オペレーションセンターを発動させる必要があることから (2013 年 10 月 Bohol 地震、2013 年 11 月台風 Yolanda、2014 年 7 月台風 Glenda など)、この間プロジェクト活動を進めることは困難になる。
- OCD 全体で職員は現在 416 名であり、依然として職員数が足りない。新たな OSSP では職員数として 1,500 名が提案されている。

7) プロジェクトでは、専門家チームが作成する業務計画書において、効果的なプロジェクト実施のための「ベーシック・アプローチ」を提案している。そのアプローチの結果については以下のとおり。

アプローチ	項目	結果
1. オーナーシップの醸成、既存の能力にマッチした能力強化	1-1. OCD 内部での成果の共有	定期的なカウンターパート会議の開催および、そこでのカウンターパートによる進捗発表などにより、カウンターパートのオーナーシップ醸成が進んだ。しかし、カウンターパートの頻繁な交替と、災害対応によるプロジェクト活動の中断が障害要因となった。
	1-2. OCD を中心に据えた DRRM 活動の運営	プロジェクト活動の実施には多くの機関が関与したが、OCD はこれら機関の参加する活動で中心的な役割を果たした。OCD の積極的関与と調整は、特に NDRP 作成のケースで、関係機関からポジティブに受け止められた。
2. フィリピン国内各機関及び各方面との綿密な連携	2-1. 他 DRRM 関連機関との連携と成果の共有	プロジェクト活動は関連機関との協力のもと実施されてきているため、この項についてはベーシック・アプローチとして特に強調する必要はないものと思われる。
	2-2. 他ドナーとの重複の排除と連携による効果促進	プロジェクトの活動は、他ドナー活動の十分な検討のもと選択された。例えば、第2年次に IBM によって導入が計画された情報管理システムについては、IMS との関係が繰り返し協議され、重複が避けられた。
	2-3. 他 JICA プロジェクトからのインプット	「Flood Hazard Mapping Manual」がプロジェクトで活用され、Area BCP (事業継続計画) に関する情報もプロジ

	ト	<p>プロジェクトと共有されたが、それ以外の JICA プロジェクトからの投入は限られていた。</p> <p>一方、OCD カウンターパート 1 名がリソースパーソンとして、ミャンマーで実施中の JICA プロジェクトが開催したセミナーに参加し、フィリピンでの DRRM 活動について発表した。</p>
	2-4. OCD への JICA 長期専門家との連携	JICA 長期専門家は、プロジェクト活動、カウンターパート会議、JCC 会議等に参加した。
3. 業務実施上の柔軟性の確保		プロジェクトが開始されてからは、詳細な活動計画を数カ所ごとに決定し、OCD の政策に応じて柔軟に活動スケジュールを見直すことで、目的とする成果の達成が図られた。しかし、CDA の頻繁な交替は、プロジェクトでは想定していないものであった。
4. 日本の技術に立脚した支援		<p>プロジェクトで作成した計画、ガイド等は、日本の防災基本計画など類似の計画を参照しつつ、他国の類似経験も参考にしながら作成されたものである。特に日本の防災計画についてはカウンターパートも理解に努め、東日本大震災の経験等もセミナーで共有された。</p> <p>本邦研修の際に訪問した場所は、プロジェクト活動に関係する場所が選ばれた。</p>

### 3-4 インパクト

プロジェクトのインパクトは比較的高い。

- 1) 最も重要なインパクトは、協力終了後 3～5 年後に達成されるべきプロジェクトの上位目標「フィリピン政府機関による DRRM 活動の改善」である。上述したように、現時点では、プロジェクトの成果に基づく上位目標達成に向けた進展はまだ限られたものとなっているが、終了時評価調査中のインタビューからは、OCD の DRRM 活動改善（自然災害発生時の OCD の調整活動の向上）が確認できた。
- 2) LDRRMP にかかるプロジェクト活動から直接的に派生したインパクトが幾つかある。プロジェクトで研修を受けた OCD 第 2 地方管区事務所カウンターパートが、パイロット LGUs 外の Aparri 町の MDRRMP の作成を支援した。具体的には、プロジェクトが促進してきたテンプレートと協議プロセスを紹介・説明し、会議やワークショップにて講義やファシリテーションを行った。Aparri 町の MDRRMP の作成は、2013 年 11 月に終了し、町 DRRM 評議会にエンドースされ、2014 年 6 月には町議会で承認された。さらに Peñablanca 町の DRRM 部局は、OCD 第 2 地方管区事務所と協力して、既存の MDRRMP を次回更新する際は、同様のテンプレートと協議プロセスを採用する計画である。Peñablanca 町は 1990 年より独自のフォーマットを用いて MDRRMP を作成してきており、2014 年度の MDRRMP についても既に MDRRMC および町議会で承認されている。Peñablanca 町 DRRM 部局は、テンプレートと協議プロセスを採用することは、これまでよりも分析、協議、時間、努力が必要になると認識している。
- 3) 2014 年 6 月 11 日の、水文気象災害にかかる NDRP の NDRRMC による承認も、幾つかの

インパクトをもたらした。一つは、災害対応クラスターの再編である。再編の結果、現在 DSWD の元に 12 の災害対応クラスターが存在し、そこで OCD は 2 クラスター（ロジスティックス、緊急通信）を統率し、他には例えば、以前は保健省が担当していた災害による死者・行方不明者の管理（Management of the Dead and Missing : MDM）クラスターを DILG が統率している。クラスターの再編により、各々の機関は災害対応時に特定の役割に集中でき、調整がより効率的になった。

- 4) さらにクラスターの再編について、各々のクラスターは NDRP に記載された方針・役割・責任にそって包括的なオペレーション・ガイドラインを作成することとなっており、DILG はすでに MDM クラスターのオペレーション・ガイドライン作成を開始した。また、DILG は LGUs による地方災害対応計画の作成を進めている。（地方災害対応計画については、国連機関が推進している LGUs の Contingency Plan の作成と重複する懸念があることから、調整・整合が求められている。）
- 5) 第 6 回災害リスク軽減アジア大臣会合（バンコク、2014 年 6 月 22-26 日）、ミャンマー「自然災害早期警報システム構築プロジェクト」年次セミナー（2014 年 7 月 8 日）など、プロジェクトの成果・経験に基づき、OCD カウンターパートが国際会議に出席して、フィリピンが取り組む DRRM 活動に関するプレゼンテーションを行った。

### 3-5 持続性

プロジェクトの持続性の見込みは中程度である。

- 1) 制度的な観点からは、OCD のプロジェクトの活動が持続する可能性は高い。計画、防災オペレーション、教育研修、コミュニティ防災にかかるプロジェクト活動は OCD の職責内容と一致しており、終了時評価調査時においても CDA から妥当性の高さについて言及があった。OCD は、プロジェクトによる技術移転とその結果としての計画、マニュアル等は非常に重要であり、今後はパイロット LGUs 以外にも活動を普及・展開して行きたいとしている。
- 2) 技術的な観点からは、IMS の維持管理と持続的運用を除き、OCD 職員がプロジェクト活動を今後も継続していくことに困難はないものと考えられる。IMS については、現時点ではシステムは主に JICA チーム（専門家とローカルコンサルタント）により運用されている。IMS は自然災害発生時にも安定的な稼働が求められることから、OCD の技術能力では維持管理が難しいと考えられる場合は、雇用か契約により IT 専門家を OCD に常駐させることも検討する必要がある。IMS はまた、OCD が独自に進めている災害リスク事前アセスメント（Pre-Disaster Risk Assessment : PDRA）にも活用される予定である。
- 3) 人材的な観点からは、カウンターパートの頻繁な交替がプロジェクトの阻害要因の一つとして挙げられた。OSSP がいつ最終化され、OCD の人員配置が定まるかは不確かである。現在、OCD 職員数は 416 名（147 名が本部、269 名が地方管区事務所）であるが、うち 180 名が契約ベースでの雇用で、これらスタッフの契約を継続するための追加的な予算が 2014 年 9 月末に承認され、それによって 2014 年 12 月までの継続勤務が可能となった。共和国

法第 10121 号制定後の業務量の増加にも関わらず、OCD スタッフの数はこの間それほど増えておらず、職員数の不足が終了時評価調査中にも広く言及された。現在検討されている OSSP は、OCD 職員数を 1,500 名まで増やすことを提案している。

- 4) 財政的な観点からは、持続性は中程度である。OCD は既にプロジェクト活動に関する経費を幾分か負担してきた。プロジェクトの活動は、IMS の維持管理を除き、主に計画、調整、モニタリング等でその継続については大きな予算を必要としないことから、予算的にはこうした活動を現在の日常業務の中で実施していくことは可能である。OCD は既に 2015 年次予算において、コミュニティ防災能力強化のためのプログラムと予算を組んでいる。より重要なことは、テンプレートを活用し、参加・協議プロセスによる LDRRMPs の作成・改善などの新たな活動は LGUs が実施することになる。このため、LGUs は各自、その予算の 5%を割り当てることになっている地方 DRRM 基金の活用を検討していく必要がある。

## 第4章 合同終了時評価調査の結果

### 4-1 結論

プロジェクトの妥当性は高く、その内容はフィリピン国政府の災害リスク軽減管理および実施機関である OCD の職責内容と整合している。プロジェクトは OCD の DRRM 能力強化に貢献したが、プロジェクトの成果・目標の達成に向けては残りの協力期間の中で今後強化・促進が必要な活動も多く、全体としてプロジェクトの有効性は中程度と判断された。プロジェクトの効率性についても中程度と判断されたが、これはカウンターパートの頻繁な交替や自然災害の頻発などで、プロジェクトの進捗が影響を受けたからである。プロジェクトのインパクトは比較的高く、災害対応クラスターの再編など特記しておくべきインパクトもあったが、上位目標の達成に向けた進捗という点では、プロジェクトの成果に基づく進展が現時点ではまだ限られたものとなっている。持続性の見込みについては、政策・制度、技術、予算、人材的な観点から全体的には中程度と判断されたが、これは今後 OSSP が最終化され OCD の組織体制と人員配置が定まれば、特に人材・予算の点で向上するものと考えられる。

### 4-2 提言

#### (1) プロジェクト活動の完了

プロジェクトの成果・目標の達成に向けては残りの活動の完了（成果品の最終化と承認）が必要であり、そのためにプロジェクトは残り6カ月の協力期間の活動計画を明確にして、活動を強化・促進していくこと。

- (成果1) Checklist and Assessment フォーム、共和国法第 10120 号のサンセット・レビューへの提言
- (成果2) 地震・津波にかかる NDRP、OCD 災害対応オペレーションマニュアル、IMS
- (成果3) 国家 DRRM 教育研修計画、TIs のための4つの優先研修モジュール、市民防衛教育研修プログラム
- (成果4) CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー、トレーナー基礎ガイド、コミュニティ防災行動計画

#### (2) 成果品の承認に対するモニタリング

上述した成果品の承認については、プロジェクト活動が及ぶ範囲外となるものもあり、協力期間中に達成されない可能性もある。こうした場合は、その最終的な承認までを確認するモニタリングを OCD が独自に実施するか、プロジェクトが人員の配置を検討することが必要である。OSSP の最終化についても、プロジェクト成果品の妥当性を担保するため、引き続きモニタリングすべきである。

#### (3) OCD の努力によるプロジェクト成果品の改善

プロジェクトの成果品は、状況の変化に対応して適宜更新されていく性質のものである。OSSP が最終化されるまで待つのではなく、TIs のための優先研修モジュール、市民防衛教育研修プログラム、トレーナー基礎ガイド、OCD 災害対応オペレーションマニュアル等は、



必要があれば OCD が独自に改善していくべきである。例えばカスケード方式の TOT は、パイロット研修として一サイクルしか実施されていないが、その結果に基づき教材を改善して TOT の次のサイクルを実施する等の取組みを進めて行くことが望ましい。

#### (4) プロジェクトの優良事例の他地域への展開・普及

プロジェクトでは、LDRRMPs の作成とコミュニティ防災の取組みは、パイロット活動として、それぞれ第 2 地方管区および第 3 地方管区の特定の LGUs でのみ実施された。これらパイロット LGUs の優良事例と経験を他の LGUs に展開・普及させていくことが必要であり、そのため例えば以下のような方策を検討すること。

- ・ OCD 地域事務所長が OCD 本部に年 2〜3 回集まる「Senior Leaders' Conference」等の定期的な機会を活用した情報共有を図る。
- ・ 地域 DRRM 部局に DRRM プログラム・プロジェクト・活動の継続性と専門性を確保するため、常設のポジションを与えること。
- ・ LDRRMP のテンプレートやトレーナー基礎ガイドの利用に関し、LGUs に向けて合同覚書回覧 (Joint Memorandum Circular) を作成する。
- ・ 5%の DRRM 基金および 20%の開発基金を効果的に活用して、国から最少の行政区画までプロジェクトの持続性を確保すること。

また、パイロット LGUs についても、現実的な活動モニタリングの実施、具体的には OCD スタッフと共に JICA 専門家が定期的に訪問し、ステークホルダーとの対話を通して緊密な信頼関係を維持していくことが必要である。

#### (5) OCD の技術的能力の強化

DRRM に関する計画、マニュアル、ガイド、システム等の作成に加え、OCD 職員はさらに DRRM に関する技術的能力、実務能力、専門家としての信頼性の向上が必要とのコメントが OCD 幹部からあった。そのためには、個人レベルでは研修を通じたスキル・知識の向上、組織レベルでは特定の技術分野（例えば、台風、火山、地震、IMS を含む情報技術）に特化した新たな職員の採用、フィリピン天文気象庁 (Philippine Atmospheric, Geophysical & Astronomical Services Administration : PAGASA) やフィリピン火山地震研究所 (Philippine Institute of Volcanology and Seismology : PHIVOLCS) といった専門技術機関との人事交流などを検討すること。

#### (6) 防災関係機関の調整の促進

OCD の調整活動の改善は、最近の災害対応において既に関係機関により認識されるまでになっているが、上位目標を達成するためには、OCD は NDRRMC の事務局として引き続き調整能力を強化していくこと。NDRRMC は 40 のメンバー機関から構成されており、その半分が国レベル政府機関である。また、DRRM 活動の LGUs への展開・普及には、DILG との連携が特に重要である。

#### (7) プロジェクト成果の地方レベルへの適応

プロジェクトによるツール、計画、システム等の成果をフィリピン全体の DRRM 体制の改善につなげるため、地方レベルでの災害対応計画、IMS、DRRM 計画、コミュニティ防災

など、地方管区やより下位の地方行政単位への適用を進めていくこと。その際、OCD はプロジェクトが導入した TOT の手法の活用も検討すること。

#### (8) 適切な人員配置の確保

共和国法第 10121 号制定後の業務量の増加にも関わらず、OCD 職員数については大きな増加はなく、終了時評価調査中もスタッフ数の不足が広く言及された。OSSP の検討が継続している状況ではあるが、OCD はその職責を遂行するため、また上述の提言を実行するため、適切な職員数の確保に引き続き努力すること。

### 4-3 教訓

#### (1) キャパシティアセスメントの実施

OCD に対するキャパシティアセスメントの実施は、2010 年 12 月の準備調査、2013 年 10 月の中間レビューでも触れられている。ベースライン調査はプロジェクトの第 1 年次に実施されたが、その後パイロット地方管区が変更されたため、エンドライン調査の実施予定はなくなった。これは、1 つには、キャパシティアセスメントの実施が、PDM の中に活動として明記されていないことによる。能力強化を目指すプロジェクトの場合は、キャパシティアセスメントの実施は、PDM の中に活動として明記され、プロジェクトの協力・貢献の成果が明らかにされるべきである。キャパシティアセスメントの構成と内容については、防災分野における先例だけでなく、教育や保健といった他分野での例も参考とすべきである。

#### (2) DRRM の全体的な改善に繋がる各成果を統合する活動

プロジェクトは、特定の 4 分野に焦点を当てて能力強化を図るため、個々のコンポーネントが独立した構成となっており、パイロット活動の実施もやや分断して実施された（例えば、成果 1 のパイロット活動は第 2 地方管区であり、成果 4 は第 3 地方管区で実施された）。プロジェクト活動の水平的な連絡調整を確保するため、コンポーネント横断のカウンターパート会議が定期的で開催されてきた。特定分野ごとの活動だけでなく、OCD の DRRM 活動全体の改善に資するよう、分野横断的なコンポーネントも PDM に加えることを検討すべきである。

#### (3) 指標の適切性

本事業ではプロジェクト活動の進捗・実績を図る指標に、計画、マニュアル等成果品の「承認」を含めている。その経緯は、過去、類似の協力で、様々なドナーがマニュアルを整備しているが、これらが、被援助側機関によって公的な文書としての位置付けを付与されないため、改訂が行われず適切に活用されないことがあった。このような教訓を受け、本事業では、OCD、ないしは上位機関による Endorsement や Authorization による「承認」により、計画、マニュアルが、日本が支援した単なる「参考情報」ではなく制度として定着することを意図したものである。

一方で、例えば LDRRMP を公的計画として承認、採択する機関は市町議会であり、プロジェクトの活動が及ぶ範囲外であることから、「有効性」における達成度が一部「部分的に達成」「未達成」となり、結果として評価が「中程度」となった。「承認」が指標として適正であったかは今後の類似プロジェクト実施の際に検討が必要と思われる。

ただし、「承認」を指標としたことで正の効果も確認できている。例えば、承認に向けたプロジェクト活動の促進、成果品の内容の質の確保、水文気象災害にかかる **NDRP** 承認によるクラスターの再編など国レベルのインパクトの発現などが見られた。よって、案件開始時に「承認」権限を誰が有するのか、また、そのために必要な質・時間の程度、及び指標化することにより、承認に向けたプロセスで得られる効果などを見極めたうえで、判断が必要であろう。

また、プロジェクト中でのモニタリングや評価については、これら背景を踏まえた評価を行う必要がある。

以上

## 添 付 資 料

- A.1 改訂プロジェクト・デザイン・マトリックス
- A.2 活動計画
- A.3 調査スケジュール
- A.4 面談者リスト
- A.5 専門家派遣実績
- A.6 供与機材
- A.7 カウンターパート研修
- A.8 カウンターパートの配置
- A.9 プロジェクト活動費
- A.10 成果グリッド（指標の達成度）
- A.11 評価グリッド
- A.12 署名済みミニッツ

添付1: 改訂プロジェクト・デザイン・マトリクス (PDM)は英語のみ作成

Project Name: Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) Capacity Enhancement Project  
 Target Area: Philippines  
 Implementing Agency: Office of Civil Defense (OCD)  
 Duration: 2012 – 2015 (3 years)  
 Target Group: OCD staff  
 Version 3.0  
 Date: 07 February, 2014

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verifications	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal</b> DRRM activities conducted by organizations of the Government of the Philippines (GOP) are improved.</p> <p><b>Project Purpose</b> Capacity on DRRM of OCD is strengthened.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sunset Review of RA10121 is implemented.</li> <li>LDRRMPs of all LGUs are upgraded.</li> <li>Utilization of DRRMPs by other organizations is regularly updated in OCD's M&amp;E system.</li> <li>DRRM activities on plans, manuals and guide lines prepared through the project are implemented. (*1)</li> <li>The concepts, systems and programs prepared through the project are operationalized. (*2)</li> <li>Plans, manuals and guidelines prepared through the project are authorized.</li> <li>Concepts, systems and programs prepared through the project are ready for operation.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Report of Sunset Review</li> <li>Monitoring sheet</li> <li>Activity reports / Annual Reports of relevant agencies</li> <li>Disaster Situation Reports</li> <li>Surveys and interviews with relevant GOP organizations</li> <li>Minutes of NDRRMC-TMGs</li> <li>Reports and documents by OCD</li> <li>OCD's Annual Report</li> <li>Surveys and interviews with relevant GOP organizations</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Policy direction of GOP on DRRM continues and NDRRMP is legislated.</li> <li>Necessary budget for DRRM activities based on NDRRMP are secured.</li> <li>Relevant GOP organizations conduct appropriate DRRM activities.</li> </ul>
<p><b>Outputs:</b> 1. Planning and implementing capacity of OCD on DRRM is strengthened.</p> <p>2. DRRM activities, including information management, are standardized.</p> <p>3. DRRM education and training system and capacity is strengthened.</p> <p>4. Support system to Community Based Disaster Risk Reduction and Management (CBDRRM) is strengthened.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Suggestions for Sunset Review of RA 10121 and improvement of NDRRMP on LGU's DRRM activities based on project experiences are prepared.</li> <li>RDRRMPs at all Regions (17 Regions) are formulated and approved.</li> <li>LDRRMPs for pilot LGUs in Region II are formulated and approved.</li> <li>Monitoring tools/sheet of LDRRMPs and LDRRMOs for LGUs is developed</li> <li>NDRPs for Hydro-Meteorological, Earthquake and Tsunami Disasters are approved.</li> <li>OCD Operations Manual for Response is approved.</li> <li>IMS (Databases of Responder, Incident and Historical Disaster) at the Central and Regional Offices is approved.</li> <li>24 ICT staff are trained for IMS. (CO: 7 and Ros 17)</li> <li>Drills for NDRP Operations Manual and IMS are implemented</li> <li>NDRRMEIP is finalized and approved by the OCD (top management)</li> <li>Priority training modules for DRRM Tis are finalized and approved by OCD</li> <li>Civil Defense Career Education and Training Program are developed and approved by the OCD top management.</li> <li>CBDRRM National Policy (Concept Paper), Basic Instructor's Guide and Training Course are presented to NDRRMC</li> <li>TMG-Preparedness for finalization and are approved by the Chairperson of NDRRMC.</li> <li>Action plan to implement and monitor/evaluate CBDRRM activities are prepared for/by the national and regional levels.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Checklist / Monitoring sheet</li> <li>Project Progress Report</li> <li>Documents issued by OCD</li> <li>Resolution of RDRRMP/ Report from OCD regional office</li> <li>Resolution of LDRRMP / Report from pilot LGUs</li> <li>NDRP</li> <li>Operations Manual for Respons</li> <li>Database and IMS set in OCD-CO</li> <li>Training Reports</li> <li>NDRRMEIP</li> <li>Training module</li> <li>Civil Defense Career Education and Training Program</li> <li>CBDRRM National Policy / Basic Instructor's Guide / Training Module</li> <li>Action Plan / Monitoring sheet</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Organizations and members which acquired skills from the project continue to work for DRRM.</li> </ul>
<p><b>Activities</b> 1-1 Review RA 10121 and National Disaster Risk Reduction and Management Plan (NDRRMP) on LGU's DRRM activities 1-2 Formulate selected Regional DRRM Plan (RDRRMP) 1-3 Formulate selected LGU DRRM Plans (LDRRMPs) 1-4 Guide LGUs to monitor development of LDRRMP, and establishment of DRRMO 2-1 Identify the relevant organizations and their roles in DRRM activities the project 2-2 Identify the necessary human resources, equipment and facilities for DRRM activities 2-3 Identify priority areas of standardized guidelines and operation manuals 2-4 Develop National Disaster Response Plan (hereinafter referred to as "NDRP") 2-5 Develop OCD Operation Manual for Response 2-6 Develop information management system (IMS) for DRRM activities 2-7 Conduct drills based on NDRP, operation manual(s) and IMS 2-8 Review and revise NDRP, operation manual(s) and IMS 3-1 Develop National DRRM Education and Training Program (NDRRMEIP) 3-2 Identify and formulate priority training modules for DRRM Tis 3-3 Develop Civil Defense Career Education and Training Program for OCD 4-1 Review previously conducted CBDRRM activities 4-2 Develop CBDRRM National Policy to implement CBDRRM activities 4-3 Develop CBDRRM Training Course with module including Basic Instructor's Guide 4-4 Implement and review pilot CBDRRM activities 4-5 Prepare action plan to implement CBDRRM activities nationwide</p>	<p><b>Inputs</b> Japanese side:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dispatch of experts</li> <li>Disaster Risk Reduction Management Plan/Team leader</li> <li>Disaster Risk Reduction Management Operation</li> <li>Human Resource Development &amp; Planning</li> <li>Community Based Disaster Risk Management</li> <li>Information Management System</li> <li>Disaster Risk Reduction Management Plan 2 / Project coordinator</li> <li>Other short-term experts (Development of NDRRMP, etc)</li> <li>Machinery and equipment necessary for development of information management system</li> <li>Cost for the implementation of pilot activities</li> <li>Counterpart trainings in Japan</li> </ul>	<p>Philippine side:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Counterpart personnel</li> <li>Office space and other facilities necessary for project activities</li> <li>Necessary operational expenses for the project activities</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Relevant GOP organizations cooperate to the project activities.</li> <li>Communities in the pilot areas accept the Project</li> </ul>
<p>*1:- Response activities are conducted according to NDRP and Operation manual. - CBDRRM activities at community level are conducted by Utilizing instructor's guideline other than pilot area.</p>	<p>*2:- DRRM activities implemented by LGUs are monitored, evaluated and supported. - IMS is utilized for DRRM activities according to operation manual. - Training programs are implemented by DRRM Tis and/or other agencies in accordance with NDRRMEIP. - Training programs are implemented with OCD Budget in accordance with the Civil Defense Career Education and Training Program. - Tangible Outcomes (e.g. Joint CBDRRM Programs and Implementation by OCD and DILG, CBDRRM Programs by LGUs in accordance with concept/action plan)</p>	<p>Pre-conditions - Counterpart personnel from OCD permanent staff/officials is assigned.</p>	



添付2: 活動計画

Activity	FY 2011		FY 2012				FY 2013				FY 2014			
	OND	JFM	AMJ	JAS	OND	JFM	AMJ	JAS	OND	JFM	AMJ	JAS	OND	JFM
Output 1: Planning and implementing capacity of OCD on DRRM is strengthened.	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
1-1 Review RA.10121 and National Disaster Risk Reduction and Management Plan (NDRRMP) on LGU's DRRM activities	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
1-2 Formulate selected Regional DRRM Plan (RDRRMP)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
1-3 Formulate selected LGU DRRM Plans (LDRRMPs)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
1-4 Guide LGUs to monitor development of LDRRMP and establishment of DRRMO	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
Output 2: DRRM activities, including information management, are standardized.	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-1 Identify the relevant organizations and their roles in DRRM activities the project	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-2 Identify the necessary human resources, equipment and facilities for DRRM activities	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-3 Identify priority areas of standardized guidelines and operation manuals	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-4 Develop National Disaster Response Plan (hereinafter referred to as "NDRP")	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-5 Develop OCD Operation Manual for Response	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-6 Develop information management system (IMS) for DRRM activities	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-7 Conduct drills based on NDRP, operation manual(s) and IMS	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2-8 Review and revise NDRP, operation manual(s) and IMS	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
Output 3: DRRM education and training system and capacity is strengthened.	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
3-1 Develop National DRRM Education and Training Program (NDRRME/TP)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
3-2 Identify and formulate priority training modules for DRRM Tis	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
3-3 Develop Civil Defense Career Education and Training Program for OCD	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
Output 4: Support system to Community Based Disaster Risk Reduction and Management (CBDRRM) is strengthened.	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
4-1 Review previously conducted CBDRRM activities	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
4-2 Develop CBDRRM National Policy to implement CBDRRM activities	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
4-3 Develop CBDRRM Training Course with module including Basic Instructor's Guide	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
4-4 Implement and review pilot CBDRRM activities	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
4-5 Prepare action plan to implement CBDRRM activities nationwide	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
JCC Meeting (as project management activity)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Actual operations of activities (lines) and plan of the activities (shades)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

Signing of R/D Starting Project Mid-term Review Terminal Evaluation

添付3: 調査スケジュール

No	日付	団長 / 調査企画	評価分析	防災政策	フィリピン側評価者
1 <sup>st</sup>	9月20日		資料整理		
2 <sup>nd</sup>	21日		11:30 テーマ別評価コンサルタント打合せ		
3 <sup>rd</sup>	22日		09:30 キック・オフ会議		
4 <sup>th</sup>	23日		10:00 Component 3 インタビュー 13:30 Component 1 インタビュー		
5 <sup>th</sup>	24日		10:00 Component 2 インタビュー 13:40 Component 4 インタビュー	(スリランカ出張)	10:00 Component 2 インタビュー 13:40 Component 4 インタビュー
6 <sup>th</sup>	25日		08:45 OCD 第3 地方管区事務所訪問 11:40 Balanga 市ヒアリング 15:20 Morong 町ヒアリング	(スリランカ出張)	08:45 OCD リージョン3 地域事務所訪問 11:40 Balanga 市ヒアリング 15:20 Morong 町ヒアリング
7 <sup>th</sup>	26日		11:00 OCD 幹部 (CDA, CDEXO) 面談 14:20 DSWD ヒアリング	(スリランカ出張)	11:00 OCD 幹部 (OCA, CDEXO) 面談 14:20 DSWD ヒアリング
8 <sup>th</sup>	27日		資料整理		
9 <sup>th</sup>	28日		評価レポート案作成		
10 <sup>th</sup>	29日		10:30 専門家チーム打合せ 14:20 NEDA ヒアリング 16:00 供与機材 (IMS) 調査 17:50 Component 3 追加インタビュー	14:20 NEDA ヒアリング 16:00 供与機材 (IMS) 調査	16:00 供与機材 (IMS) 調査
11 <sup>th</sup>	30日		11:15 マニラから Tuguegarao へ移動 13:40 OCD 第2 地方管区事務所訪問 16:00 パイロット外 LGU (Aparri 町) ヒアリング		
12 <sup>th</sup>	10月1日		09:00 OCD 第2 地方管区事務所ヒアリング 10:50 パイロット LGUs (Cagayan 州、Alcala 町) ヒアリング 13:20 パイロット LGUs (Isabela 州、Ilagan 市) ヒアリング 15:20 パイロット外 LGU (Peñablanca 町) ヒアリング 12:55 マニラへ移動 15:30 DILG ヒアリング		
13 <sup>th</sup>	2日				
14 <sup>th</sup>	3日		10:00 JICA 事務所にて調査中間報告 11:00 オーストラリア大使館ヒアリング 13:00 PAGASA ヒアリング 15:00 PHIVOLCS ヒアリング		13:00 PAGASA ヒアリング 15:00 PHIVOLCS ヒアリング
15 <sup>th</sup>	4日		評価レポート案作成		
16 <sup>th</sup>	5日		マニラ着 (調査企画) 17:10 評価団内打ち合わせ		
17 <sup>th</sup>	6日		12:00 IMS の調査 マニラ着 (団長) 15:00 日本側専門家打ち合わせ		
18 <sup>th</sup>	7日		10:00 日本側評価団内およびプロジェクト専門家打ち合わせ 14:00 フィードバックミーティング (カウンタートパートおよびフィリピン側評価者)		14:00 フィードバックミーティング
19 <sup>th</sup>	8日		10:00 OCD 幹部説明 (副CDA, CDEXO)		
20 <sup>th</sup>	9日		12:00 評価報告書および M/M 最終化 16:00 JICA 事務所報告	16:00 JICA 事務所報告	
21 <sup>st</sup>	10日		10:00 JCC、M/M 署名		
22 <sup>nd</sup>	11日		マニラ発		

## 添付 4: 面談者リスト

1 フィリピン側			
1) 実施機関			
1	Dir. Honorato S. De Los Reyes	Civil Defense Executive Officer, NDRRMC, OCD	9/22, 26, 10/8
2	Ms. Susana E. Quiambao	Chief, Education and Training Division (component 3)	9/23
3	Ms. Rona C. Delos Santos	Education and Training Division (component 3)	9/22, 23
4	Ms. Rodella Rosario R. Rodriguez	Chief, HRDM Division (component 3)	9/22, 23
5	Mr. Roberto Manalo	HRDM Division (component 3)	9/22, 23, 10/7
6	Ms. Josephina T. Porcil	Plans and Programs Division (component 1)	9/22, 23, 10/7
7	Mr. Kenneth C. Menor	Plans and Programs Division (component 1)	9/22, 23
8	Mr. Wilson Gonowon	CEIT Division (component 2)	9/22, 24, 29
9	Mr. Sonny Patron	OIC, Operation Division (component 2)	9/22, 24, 10/7
10	Ms. Lenie D. Alegre	Chief, National Disaster Risk Reduction and Management Service (component 4)	9/24, 26
11	Ms. Anna-Lisa D. Orallo	NDRRMS (component 4)	9/24, 25
12	Ms. Shelby Ruiz	NDRRMS (component 4)	9/22, 24, 25, 10/8
13	Ms. Aurora D. Dela Rosa	Education and Training Division (component 4)	9/22, 24, 25
14	Ms. Maria Teresa J. Galang	Education and Training Division (component 4)	9/22
15	Ms. Josefina T. Timoteo	OCD Region 3, Regional Director	9/25
16	Mr. Edgar Nigel B. Lontoc	OCD Region 3, Assistant Regional Director	9/25
17	Mr. Darios S. Vallejos	OCD Region 3, Chief Planning Division	9/25
18	Mr. Michael A. Dumlaog	OCD Region 3, Operations Assistant	9/25
19	Undersecretary Alexander P. Pama	CDA, OCD	9/26
20	Ms. Norma C. Talosig	OCD Region 2, Regional Director	9/30, 10/1
21	Ms. Jane Airien M. Torres	OCD Region 2, Operations, Civil Defense Officer I	9/30, 10/1
22	Ms. Mary May S. Bacilig	OCD Region 2, Civil Defense Officer	9/30
23	Ms. Jaye M. Cabauatan	OCD Region 2, Civil Defense Officer II	9/30, 10/1
24	Mr. Philip B Labuguen	OCD Region 2	10/1
25	Mr. Ronald L. Villa	OCD Region 2	10/1
26	Ms. Janice M. Padagdag	Plans and Programs Division	10/7
27	Mr. Rico Caigoy	CEIT Division (component 2)	10/7
28	Mr. Romeo F. Fajardo	Deputy Administrator	10/8
2) 協力機関			
1	Ms. Marie Mortera	DND	9/22
2	Honorable Joet S. Garcia	City Mayor, City of Balanga, Bataan	9/25
3	Mr. Victor A. Baluyot Jr.	Barangay Captain, Barangay Tortugas	9/25
4	Mr. Carlos C. Dela Fuente	Bataan PDRRMO	9/25
5	Ms. Cherry Anne C. Matias	Bataan PDRRMO	9/25
6	Ms. Rofelia D. Buenaventura	Teacher /Department of Education	9/25
7	Mr. Cesar Salaveria Sr	Barangay Tortugas	9/25
8	Mr. Dennis B. Mariano	Balanga CDRRMO	9/25
9	Mr. David Malibiran	Balanga CDRRMO	9/25
10	Ms. Karleen Mae T. Inieto	Balanga CDRRMO	9/25
11	Ms. Danica Joy D. Reyes	Balanga CDRRMO	9/25
12	Honorable Jorge S. Estanislao, M.D.	Municipal Mayor, Municipality of Morong, Bataan	9/25
13	Ms. Maria Teresa B Alagon	Morong, Municipal Planning and Development Coordinator (MPDC)	9/25
14	Ms. Yolanda E. Manalo	Morong, Municipal Social Welfare and Development Officer (MSWDO)	9/25
15	Mr. Rodolfo V. Concepcion	Municipal Disaster Risk Reduction and Management Office (MDRRMO)	9/25
16	Mr. Jhun Lim	Morong, Barangay Kagawad	9/25
17	Mr. Ferdie Domingo	Morong, Barangay Kagawad	9/25
18	Mr. Larry Domingo	Morong, Barangay Kagawad	9/25
19	Mr. Joel Labandillo	Morong, Barangay Kagawad	9/25
20	Ms. Chona A Bautista	Morong, Barangay Secretary	9/25
21	Ms. Lezzth I Dnran	Morong, Secretary of the Mayor	9/25
22	Ms. Imee Rose S. Castillo	DSWD (Department of Social Welfare and Development)	9/26
23	Mr. Roderick V. Guisadio	DSWD (Department of Social Welfare and Development)	9/26
24	Mr. Gery Villareal	DSWD (Department of Social Welfare and Development)	9/26
25	Ms. Kristine M. Villarino	NEDA, OIC-Chief Economic Development Specialist, Regional Development Staff - Land Use and Physical Planning Division	9/29
26	Mr. Ronald Villon	Aparri, Municipality DRRM Officer	9/30
27	Ms. Soledad Siriban	Aparri, Midwife	9/30
28	Mr. Rolando Liberato	Aparri, Municipal Engineer	9/30

添付資料 4

29	Mr. Romarico Panaga	Aparri, Municipal Treasurer	9/30
30	Ms. Norma Ragonjan	Aparri, MPDC	9/30
31	Mr. Ismael Tumaru	Aparri, Former Mayer, Adviser	9/30
32	Ms. Rosario Gaspar	Aparri, Municipal Registrar	9/30
33	Mr. Julius Catral	Aparri, Municipal Assessor/Administrator	9/30
34	Ms. Antonette Clrdas	Aparri, Nurse	9/30
35	Mr. Jimmy Siriban	Aparri, Member of Sangguniang Bayan	9/30
36	Honorable Shalimar D. Tumaru, M.D.	Aparri, Municipal Mayor	9/30
37	Ms. Ria Capeña	Aparri, Member of Sangguniang Bayan	9/30
38	Mr. Jacinto V. Adviento	Alcala MDRRM Officer	10/1
39	Mr. Reynaldo C. Floria	Alcala MDRRM Council	10/1
49	Mr. Bonifacio U. Cuarteros	Cagayan PDRRM Officer	10/1
41	Ms. Mia Carbonel	Cagayan PDRRM Officer	10/1
42	Mr. Restituto P. Vargas	Cagayan PDRRM Officer	10/1
43	Mr. Quirico P. Capiral Jr.	Cagayan PDRRM Officer	10/1
44	Ms. Ophelia M. Parallag	Cagayan HRD officer	10/1
45	Mr. Rolando B. Calabazaron Jr.	Cagayan IT head of the Provincial Planning and Development Office	10/1
46	Mr. Edmond Guzizan	Isabela PDRRMO	10/1
47	Mr. Higinio P. Bagunu	Isabela Administration Officer III	10/1
48	Mr. Francisco R. Estavillo	Ilagan CDRRMO	10/1
49	Mr. Francisco Carrmona	Ilagan City, Planning Officer	10/1
50	Ms. Mercedes D. Yadao	Ilagan City, Budget Officer	10/1
51	Ms. Laidee Dianne C. Carmona	Ilagan City, Casual of Planning Officer	10/1
52	Ms. Excelsis R. De Leon	Peñablanca, MDRRMO Head	10/1
53	Mr. Fitzgerald T. Paglilauan	Peñablanca, MDRRMO Training Staff	10/1
54	Ms. Rafaela O. Quilang	Peñablanca, MDRRMO Staff	10/1
55	Mr. Allan Tabell	Chief, Central Office Disaster Information Coordinating Center, DILG	10/2
56	Ms. Mai G. Alagcan	Senior Program Officer, Australian Embassy	10/3
57	Ms. Anne C. Orquiza	Portfolio Manager, Development Cooperation, Australian Embassy	10/3
58	Ms. Rosalie C. Pagulayan	PAGASA	10/3
59	Dr. Renato U. Solidum Jr.	Director, PHIVOLCS	10/3

2 日本側

1) プロジェクト			
1	Ms. Naoko KITAZAWA	Professional Engineer, Pacific Consultants Co., Ltd.	9/15,30, 10/1
2	Ms. Miki KODAMA	Senior Researcher, Asian Disaster Reduction Center	9/16, 22, 23, 29
3	Mr. Shinji IIDA	Consulting Engineer, Pacific Consultants Co., Ltd.	9/16, 22
4	Mr. Yoshihiko UCHIKURA	Consulting Engineers, Manager, Oriental Consultants Co., Ltd.	9/22, 23, 24, 29, 30, 10/1, 6, 7, 8
5	Mr. Kazuto SUZUKI	General Manager, Disaster Management Division, CTI Engineering International Co., Ltd	9/22, 23, 24, 29, 10/2, 6, 7, 8
6	Mr. Shozo KAWASAKI	Senior Architect, Oriental Consultants, Co., Ltd.	9/24, 26, 29, 10/2, 3, 6, 8
7	Ms. Hannah Lyda Mannag-Fernandez	(component 3) Human Resource Development Specialist	9/23
8	Ms. Terteen Gail Omana	(component 1)	9/23
9	Mr. Marcus Paolo PATAM	(component 2) Geodetic Engineer/Web GIS Specialist	9/24, 29
10	Ms. Gerlie SANTOS	(component 2)	9/24
11	Ms. Christine (Tin) F. Derafera	(component 4)	9/25
12	Ms. Motoyo ARAKI	Oriental Consultants Co., Ltd.	9/29
2) JICA 事務所			
1	Mr. Takahiro MORITA	Senior Representative	9/19, 10/3, 9
2	Ms. Yuko TANAKA	Chief, Human Security Group	9/19, 25, 10/9
3	Mr. Hayato NAKAMURA	Project Formulation Adviser, JICA Philippine Office	9/19, 22, 10/3, 9
4	Ms. Catherine, M. PALANCA	Program Officer, Poverty Reduction Section	9/22, 25, 30, 10/1,9
3) その他			
1	Ms. Mitsue MISHIMA	Thematic Evaluation Consultant	9/21, 24

## 添付 5: 専門家派遣実績

2014年10月時点

氏名		派遣期間 (フィリピン滞在日数)				日数計	
		2012年度 (2012年3月 - 2013年3月)	2013年度 (2013年5月 - 2014年3月)	2014年度 (2014年5月 - 現在)			
1	Mr. Ryo Matsumaru	Team Leader/ Disaster Management Planning	3/19-3/31 13 4/9-6/6 59 7/10-7/18 9 7/24-8/30 38 10/8-10/26 19 11/5-11/17 13 1/9-1/30 22 2/11-3/6 23				196
2	Mr. Shozo Kawasaki	Team Leader		6/10 - 6/22 13 9/4 - 9/11 8 9/25 - 10/23 29 1/17 - 1/26 10		6/9 - 6/23 15 9/24-10/11 18	93
3	Mr. Yoshihiko Uchikura	Deputy Team Leader / DRRM Operations 1	4/9-5/3 25 7/24-8/14 22 1/28-2/8 12 2/14-3/1 16				75
		Deputy Team Leader / CBDRRM 1		6/10 - 6/22 13 8/29 - 9/28 31 10/13 - 10/19 7 11/28 - 12/20 23 1/14 - 2/13 31		6/2 - 6/26 25 9/21-10/18 28	158
4	Mr. Kazuto Suzuki	Deputy Team Leader / DRRM Operation	5/28-6/26 30 8/27-10/25 60 11/5-12/19 45 1/21-2/19 30 2/20-2/23 4	6/10 - 6/29 20 8/1 - 8/31 31 9/10 - 10/19 40 11/13 - 12/12 30 1/7 - 2/20 45		5/22 - 5/31 10 7/15 - 8/2 19 8/11 - 9/9 30 9/21-11/23 64	458
5	Mr. Kiyotaka Owada	DRRM Planning		6/10 - 8/9 61 9/1 - 9/11 11 9/16 - 9/29 14			86
6	Ms. Miki Kodama	Human Resources Development	4/24-5/3 10 7/22-9/2 43 11/4-12/1 28 12/16-12/20 5 2/3-3/3 29	6/12 - 7/7 26 7/21 - 8/21 32 10/16 - 11/15 31 11/24 - 11/30 7 1/19 - 2/19 32		6/8 - 6/12 5 7/1 - 8/2 33 8/26 - 10/1 37	318
7	Ms. Rumi Hori	Training Plan / CBDRRM 2	3/19-4/27 40	7/22 - 9/4 45			85
8	Ms. Naoko Kitazawa	Training Plan / CBDRRM 2		10/20 - 11/25 37 1/26 - 2/8 14 2/16 - 2/24 9			60
		Local DRRM Planning 2		6/10 - 7/9 30 8/1 - 9/18 49		6/1 - 6/20 20 6/30 - 7/19 20 9/2 - 9/19 18 9/29 - 10/18 20	157
9	Ms. Yoko Nomura	CBDRRM	3/19-5/17 60 7/2-8/10 40 10/17-10/31 15 12/10-12/15 6 1/18-1/31 14 2/11-2/25 15				150
10	Ms. Motoyo Araki	Training Plan / CBDRRM 2 Project Coordinator / DRRM Planning 2				6/17 - 7/6 20 8/7 - 8/21 15 8/29 - 9/15 18 9/27 - 10/15 19	72
11	Mr. Akihiro Furuta	Information Management System	5/28-6/21 25 9/10-9/29 20 2/14-2/28 15	6/19 - 7/20 32 8/19 - 9/17 30 10/28 - 11/24 28 1/14 - 2/12 30		5/22 - 6/7 17 7/8 - 8/2 26	223
12	Mr. Shinji Iida	DRRM Technology	7/10-7/29 20 10/13-11/2 21 11/18-11/24 7 2/12-2/23 12	6/10 - 6/15 6 8/11 - 8/24 14 12/4 - 12/20 17 2/5 - 2/12 8		5/22 - 5/31 10 7/23 - 8/1 10 9/15 - 9/27 13	138
13	Ms. Miharu Hosono	Project Coordinator / DRRM Planning 2		8/26 - 9/17 23 10/3 - 10/11 9 10/16 - 11/1 17 11/24 - 12/21 28 1/14 - 2/28 46			123
14	Mr. Masato Fujimoto	Project Coordinator / DRRM Planning 2	7/10-9/12 65 10/4-12/21 79 1/9-3/3 54				198
15	Mr. Hirotada Hasegawa	Local DRRM Planning 1		6/16 - 6/22 7 8/10 - 8/17 8			15
計			1,063	1,032		510	2605



## 添付 6: 供与機材

2014年9月

No	機材名	仕様・銘柄	調達日	数量	金額	設置場所
1	サーバーコンピュータ	IBM SYSTEM x3550 M4 7914B2A Rack 1U, Processor: Intel Xeon 4C, Memory :8GB, HDD: 1TB	2013年9月26日	1	Php 210,000.00	CEIT 課
2	GIS コンピュータ	ACER VERITON M2611G Desktop, OS: Windows7/8(64bit), Soft: Microsoft Office, Processor: Intel Core i5, Memory: 4GB, HDD: 1TB	2013年9月26日	1	Php 67,280.00	プロジェクト事務所
3	プロッター (A0 サイズ)	HP DESIGNJET T790 CR649A 44" EPRINTER Width, 44 inches, Color, Resolution: 1440×720 dpi	2013年9月26日	1	Php 344,580.00	CEIT 課
4	GIS ソフトウェア	ArcGIS for Desktop Basic (formerly ArcView) Single Use License	2013年9月19日	1	Php 151,785.71	プロジェクト事務所

## 添付 7: カウンタートリートメント

国別研修	研修コース	氏名	組織・職位	期間	訪問先
災害管理行政  ステークホルダー のための DRRM 能 力強化カウンタート リートメント	1	Mr. Honorato S. Delos Reyes	Civil Defense Executive Officer of OCD	2013 年 6 月 23 日 -2013 年 6 月 29 日 (7 日間)	北淡震災記念公園 / 人と防災未 来センター / 三木総合防災公園/ 国土交通省近畿地方整備局六甲 砂防事務所 / 石巻市 / 南三陸町 / 国土交通省東北地方整備局/ 東 京臨海広域防災公園など
	2	Mr. Dante D. Balao	Chief of Planning Division, Department of National Defense, OCD		
	3	Mr. Juanito W. Dalmas	National Director of NSRC and OIC Training Division, OCD		
	4	Mr. Mael Luis M. Ochotorena	Regional Director of BASULITA Region		
	1	Mr.SANTOS Ramon Gasapos	OCD-JICA Chairperson	2014 年 5 月 18 日 -2014 年 5 月 24 日 (7 日間)	国土交通省 / 内閣府 / 釜石市 / 宮古市 / 防災訓練など
	2	Ms. Lenie D. Alegre	Chief, National Disaster Risk Reduction and Management Service (Comp 4)		
	3	Ms.PORCIL Josefina Tan	Assistant Division Chief, Plans and Programs Division (Comp 1)	国土交通省 / 内閣府 / 釜石市 / 宮古市 / 防災訓練 / 人と防災未 来センター / 兵庫県 / 神戸市 / 国土交通省近畿地方整備局六甲 砂防事務所 / 気象庁など	
	4	Mr.MENOR Kenneth Curutan	Officer, Plans and Program Division (Comp 1)		
	5	Mr.PATRON Sonny Bayanin	Officer, Operations Division (Comp 2)		
	6	Mr.GONOWON Wilson Boaquina	Officer, Communications, Electronics & Information Systems Div (Comp 2)		
	7	Mr.MANALO Roberto Pasamba	Officer, Human Resource Devt and Mngt Division (Comp 3)		
	8	Ms.DELOS SANTOS Rona Carpio	Officer, Education and Training Division (Comp 3)		
	9	Ms RUIZ Shelby Acosta	Officer, NDRRMS (Comp 4)		
	10	Ms.GALANG Maria Teresa Joaquin	Officer, Education and Training Division		
	11	Ms QUIAMBAO Susana Endrimal	Officer, Education and Training Division (Comp 3)		
12	Ms.TORRES Jane Airien Manzon	Chief, Operations Section, Region II			
13	Ms.ORTEGA Amceerah Parale	Chief, Operations Division, Region III			
14	Ms.HERNANDEZ Rizajoy Altamarino	Officer, Region VII			
15	Mr. CALLANTA Patrick Alain Delos Santos	Officer, Region X			

添付 8: カウンタートパート配置

OCD マネジメント

	2012 年度	2013 年度 (6 月)	2013 年度 (10 月)	2014 年度 (現在)
CDA (OCD 長官)	Usec. Benito T. Ramos	Usec. Eduardo D. Del Rosario	Usec. Eduardo D. Del Rosario	Usec. Alexander P. Pama
CDDA (OCD 副長官)	-	BGen Romeo Fajardo	BGen Romeo Fajardo	BGen Romeo Fajardo
CDEXO (市民防衛執行官)	Dir. Ronald I. Flores	Dir. Honorato De Los Reyes	Dir. Honorato De Los Reyes	Dir. Honorato De Los Reyes
JICA 委員会議長 (OCD カウンタートパートチームリーダー)	-	Col. Dante Balao	BGEN Ramon G Santos	Dir. Honorato De Los Reyes
JICA 委員会副議長	-	Ms. Lenie D. Alegre	Ms. Lenie D. Alegre	Ms. Lenie D. Alegre

成果 1

	2012 年度	2013 年度 (6 月)	2013 年度 (10 月)	2014 年度 (現在)
Responsible C/P	Ms. Crispina B. Abat Ms. Lenie Alegre	Col Dante Balao	Col. Dante Balao	Cdr. Edgardo J. Ollet, Ms. Josephina Porcil (Plans and Programs Division)
C/P in Charge	Mr. Marlon Henson Mr. Elvis Cruz	Mr. Elvis Cruz Ms. Leah Love G. Soriano Ms. Janice Padagdag	Ms. Josephina Porcil Ms. Raquel De Leon Ms. Leah Love G. Soriano Ms. Leah Love G. Soriano Ms. Janice M. Padagdag Ms. Janice M. Padagdag Mr. Kenneth C. Menor Ms. Jane Airien Torres (Plans and Programs Division) (Plans and Programs Division) (Plans and Programs Division) (Plans and Programs Division) (Plans and Programs Division) (Plans and Programs Division) (Region II)	

成果 2

	2012 年度	2013 年度 (6 月)	2013 年度 (10 月)	2014 年度 (現在)
Responsible C/P	Cdr. Edgardo J. Ollet, Mr. Christian Tabisura	LTC Edwin C. Sadang Maj. Reynaldo Balido	LTC Edwin C. Sadang Maj. Reynaldo Balido	LTC Edwin C. Sadang Mr. Relan Jay J. Asuncion (Operations Division) (NDRRMS)
C/P in Charge	Ms. Ana Lisa Orallo Engr. Florentino Sison Mr. Francis Rodriguez	Mr. Sonny Patron	Mr. Relan Jay J. Asuncion Mr. Sonny Patron Mr. Sonny Patron Mr. Kelvin Oprecio Ms. Jacqueline Manara Mr. Wilson Gonowon Mr. Patrick Alain Callanta (Operations Division) (Operations Division) (CEIT Division) (Operations Division) (CEIT Division) (Region X)	

成果 3

	2012 年度	2013 年度 (6 月)	2013 年度 (10 月)	2014 年度 (現在)
Responsible C/P	Dir. Amado N. Duque Aty Acel Papa	Dr. Blanche Gobenciong Dir. Amado N. Duque	Dr. Blanche Gobenciong BGen Juanito W. Dalmas	Ms. Rodella R. Rodriguez Ms. Susana E. Quiambao
C/P in Charge	Ms. Shereen Lucas Ms. Rona delos Santos Joel Villoria Madonna Lyn Marquez Acquilino Ducaay	Ms. Rodella R. Rodriguez Ms. Susana E. Quiambao Ms. Rona C. Delos Santos	Ms. Rodella R. Rodriguez Ms. Susana E. Quiambao Mr. Roberto P. Manalo Ms. Shereen Lucas Ms. Rona C. Delos Santos	Mr. Roberto P. Manalo Ms. Shereen Lucas Ms. Rona C. Delos Santos Ms. Ameertha Ortega

成果 4

	2012 年度	2013 年度 (6 月)	2013 年度 (10 月)	2014 年度 (現在)
Responsible C/P	Ms. Lenie Alegre Ms. Aurora dela Rosa	Ms. Anna-Lisa D. Orallo Ms. Alexandra Marie Flores	Ms. Lenie D. Alegre BGen Juanito W. Dalmas Dir. Edgardo Ollet	Ms. Lenie Alegre Ms. Susana E. Quiambao Dir. Edgardo Ollet
C/P in Charge	Ms. Raquel de Leon Ms. Jean Nazareno	Ms. Susana E. Quiambao Ms. Ma. Teresa J. Galang Ms. Shereen Lucas	Ms. Anna-Lisa D. Orallo Ms. Susana E. Quiambao Ms. Shelby Ruiz Ms. Ma. Teresa J. Galang Ms. Aurora D. Dela Rosa Ms. Shereen Lucas Ms. Raquel de Leon Ms. Rizajoy Hernandez	Ms. Anna-Lisa D. Orallo Ms. Shelby Ruiz Ms. Ma. Teresa J. Galang Ms. Aurora D. Dela Rosa Ms. Shereen Lucas Ms. Raquel de Leon Ms. Rizajoy Hernandez

添付 9: プロジェクト活動費

1) 日本側 (通貨: 日本円)

項目	2012 年度 (2012 年 3 月 - 2013 年 3 月)	2013 年度 (2013 年 5 月 - 2014 年 3 月)	2014 年度 (2014 年 6 月 - 2014 年 8 月)	計
1 ローカルスタッフ給与	7,426,610	18,159,179	4,826,205	30,411,994
2 通信費	80,174	139,345	38,632	258,151
3 旅費・車輻借り上げ	3,359,152	9,850,386	1,127,803	14,337,341
4 会議費	146,000	200,000	0	346,000
5 消耗品・雑費	671,895	1,575,038	775,963	3,022,896
6 備品	1,613,000	1,897,000	0	3,510,000
7 ローカルコンサルタント備上	3,066,000	0	6,000,000	9,066,000
8 研修関係費 (フィリピン)	1,679,586	4,501,734	1,290,327	7,471,647
9 研修関係費 (日本)	0	822,000	1,200,000	2,022,000
計	18,042,417	37,144,682	15,258,930	70,446,029

注) 2014 年度の数値は仮値

2) フィリピン側 (通貨: フィリピンペソ)

Items	2012 年度 (2012 年 3 月 - 2012 年 12 月)	2013 年度 (2013 年 1 月 - 2013 年 12 月)	2014 年度 (2014 年 1 月 - 2014 年 8 月)	計
1 成果 2 に関するワークショップ開催費・交通費	-	130,000	70,000	200,000
計	-	-	-	-

注) 終了時評価調査中に確認できた数値

\*) 契約ベースのローカルコンサルタント・ローカルスタッフ

コンポーネント	ポジション	2012 年度	2013 年度	2014 年度
成果 1	DRRM 計画策定	Ms. May		
	DRRM 計画策定		Ms. Tereen Gail Omana	Ms. Tereen Gail Omana
	DRRM 計画策定		Ms. Ria Toquero	
	DRRM 計画策定		Ms. Lorna Victoria	
	DRRM 計画策定		Mr. Dunstan Egar	
	DRRM オペレーション	Ms. Geraldine Santos	Ms. Geraldine Santos	Ms. Geraldine Santos
成果 2	DRRM オペレーター		Ms. Leslie Santos	Ms. Leslie Santos
	GIS オペレーター		Ms. Corina Manansala	Mr. Bobmark John Prado
	システムエンジニア		Ms. Helen Labao	Mr. Marcus Paolo Patam
	システムエンジニア		Mr. Romer Kristi Aranas	Mr. Lean Carlo Celis
	データ解析		Mr. Israel Tolentino	Mr. Reynaldo Apelena, Jr.
	DRRM 人材育成		Ms. Jocelyn Mendoza	Ms. Hannah Fernandez
成果 3	DRRM 人材育成		Ms. Hannah Fernandez	Ms. Hannah Fernandez
	DRRM 人材育成		Prof. Pacheco	
	DRRM 人材育成		Ms. Mayfourth	Ms. Mayfourth
成果 4	コミュニティ防災	Ms. Grace Molina	Ms. Christine Derafera	Ms. Christine Derafera
	コミュニティ防災	Mr. Ninoy Balgos		



添付 10: 成果グリッド (指標の達成度)

プロジェクト要約	指標	現時点での進捗	アセスメント
<p><b>上位目標</b> フィリピン政府機関によるDRRM活動が改善される。</p>	<p>1. 共和国法第10121号のサンセット・レビューが実施される。 2. 全てのLGUsのLDRRMPsが更新される。 3. OCDのモニタリング・評価システムにおいてDRRM基金の活用情報が定期的にアップデイトされる。 4. 計画、マニュアルに基づくDRRM活動が実施される。 5. コンセプト、システム等が運用される。</p>	<p>サンセット・レビューの提言作成に関する活動はまだ開始されていない。フィリピン議会により 2015 年にサンセット・レビューが実施 (共和国法第 10121 号による) される予定であるが、レビューに関する具体的な実施スケジュール等はまだ決まっていない。 プロジェクトはその成果・経験に基づき、サンセット・レビューへの提言を今後作成する予定。 全ての LGUs が現時点では LDRRMPs を作成しているわけではない。 NDRRM と Dilig が、テンプレートを用いて LDRRMPs を更新するよう全ての LGUs に向けて「Joint Memorandum Circular (合同覚書回覧)」を发出すれば、LDRRM の更新が促されることが期待できる。 OCD のモニタリング・評価システムは定期的にアップデイトされていない。プロジェクトの IMS でも、この種のデータ・情報は、まだ取り込まれていない。 NDRRM による「Memorandum Circular (覚書回覧)」で、全ての政府機関に DRRM 基金の活用状況を OCD に報告するよう指示があれば、情報のアップデイトは可能になると考えられる。 現時点では、計画、マニュアル、ガイドラインは、プロジェクト活動の中でパイロット的に実施されている。 これら成果品が最終化され承認されれば、実施が開始されることとなる。 現時点ではコンセプト、システム、プログラム等は、プロジェクト活動の中でパイロット的に実施されている。 これら成果品が最終化され承認されれば、運用が開始されることとなる。 プロジェクトが作成した計画、マニュアル、ガイドライン等およびその承認状況。</p>	<p>達成が期待できる。</p> <p>可能</p> <p>可能</p> <p>達成が期待できる。</p> <p>達成が期待できる。</p> <p>部分的に達成</p>
<p><b>プロジェクト目標</b> 市民防衛局 (OCD) の DRRM 能力が強化される。</p>	<p>1) プロジェクトが作成した計画、マニュアル、ガイドラインがオーソライズされる。</p>	<p>既に承認されたもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第 2 地方管区 DRRM 計画</li> <li>Isabela 州 DRRM 計画</li> <li>Iligan 市 DRRM 計画</li> <li>Alcala 町 DRRM 計画</li> <li>(その他 15 地方管区の DPPM 計画)</li> <li>水文気象災害にかかる NDRP</li> </ul> <p>これから承認が必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Cagayan 州 DRRM 計画</li> <li>Checklist and Assessment フォーム (LDRRMPs モニタリング・評価ツール)</li> <li>地震・津波にかかる NDRP</li> <li>OCD 災害対応オペレーションマニュアル</li> <li>国家 DRRM 教育研修計画 (構成案については既に承認済み)</li> <li>TIs のための 4 つの優先研修モジュール</li> <li>市民防衛教育研修プログラム (CDETP) (構成案については既に承認済み)</li> <li>CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー*)</li> <li>トレーナー基礎ガイド</li> <li>コミュニティ防災のための行動計画</li> </ul> <p>注*) CBDRRM 国家政策コンセプトペーパーは、コミュニティ研修モジュール、コミュニティ防災のための行動計画を、その中の一部とする予定。</p>	<p>部分的に達成</p>
<p>2) プロジェクトが作成したコンセプト、システム、プログラムが運用可能になる。</p>	<p>運用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IMS (情報管理システム)</li> <li>(NDRP に基づく新たなクラスタターのグループニング)</li> <li>TIs のための 4 つの優先研修モジュール</li> <li>トレーナー基礎ガイド</li> </ul> <p>注*) CBDRRM 国家政策コンセプトペーパーは、コミュニティ研修モジュール、コミュニティ防災のための行動計画を、その中の一部とする予定。</p>	<p>注*) CBDRRM 国家政策コンセプトペーパーは、コミュニティ研修モジュール、コミュニティ防災のための行動計画を、その中の一部とする予定。</p> <p>また運用可能でないもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Checklist and Assessment フォーム</li> <li>OCD 災害対応オペレーションマニュアル</li> <li>市民防衛教育研修プログラム (CDETP)</li> <li>CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー*)</li> </ul>	<p>部分的に達成</p>

2014 年 10 月 5 日

<p><b>成果</b></p> <p>1. DRRMに関するOCDの計画立案・実施能力が改善される。</p>	<p>1-1. LGUsのDRRM活動に関し、共和国法第10121号「サンセット・レビュー」およびNDRRMPの改善への提言が、プロジェクトの成果に基づき作成される。</p>	<p>(背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共和国法第10121号（フィリピンDRRM法）は、NDRRMPおよびLGUsによるLDRRMPsの策定を規定。共和国法第10121号は2010年5月27日に制定。</li> <li>共和国法第10121号は、具体的にNDRRMP（2011-2028）へと翻訳され、NDRRMPは2012年2月にNDRRMCにより承認された。NDRRMPはDRRMの4つのフレームワークを明記。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予防・軽減 - DOST</li> <li>2) 災害準備 - DILG</li> <li>3) 災害対応 - DSWD</li> <li>4) 復旧・復興 - NEDA</li> </ol> </li> </ul> <p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのところ共和国法第10121号「サンセット・レビュー」のための提言の作成については殆ど進展はない。NDRRMPのモニタリング・評価計画についても、「サンセット・レビュー」のための提言の中に含まれる予定。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) モニタリング・評価ツール（Checklist and Assessment フォーム）を完成。</li> <li>2) OCD 地方管区長を集めてナレッジ共有ワークショップを開催し、意見を収集。</li> <li>3) プロジェクトの活動・経験を集約させて「サンセット・レビュー」のための提言を作成。</li> </ol> <p>(OCD 独自の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OCD は共和国法第10121号「サンセット・レビュー」の実施計画をNDRRMCに提案する予定。NDRRMCの下に設置されたTWGが「サンセット・レビュー」を主導し、レビュー報告書を作成してNDRRMPの改訂を提言することとなっている。</li> <li>2014年8月26-27日に、OCDは共和国法第10121号のIRR（施行規則）のレビュー・ワークショップを開催した。</li> </ul>	<p>未達成 (提言は今後作成される予定。)</p>
<p>1-2. 17の全地方管区でRDRRMPsが策定され、承認される。</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2 (Cagayan Valley) 地方管区 DRRM 計画が、RDRRMC (地方管区 DRRM 評議会) に2013年8月23日に承認された。</li> <li>RDRRMCのメンバー構成機関は、2013年8月(台風 Odette) および10月(台風 Vintan) の第2地方管区への台風襲来時に、作成されたRDRRMPによる活動の向上(各組織の役割・責任の理解、SOPsの存在、コミュニケーションの迅速化)を認識した。</li> </ul> <p>(プロジェクト活動に関係した進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2014年9月時点で、17の全地方管区に関しNCR (マニラ首都圏)を除く全ての管区(第2地方管区を含む16管区)で、RDRRMPsが作成・承認されている。</li> <li>プロジェクトは初年目にOCDの各管区事務所によるRDRRMPs作成を支援する計画であった。実際のところ初年次にRDRRMPs策定に関する幾つかのワークショップを開催した。しかし、2012年2月のNDRRMP策定を受けて、OCDが全OCD地方管区事務所にRDRRMPsを早急に作成するよう指示したため、プロジェクトは、第2地方管区のRDRRMP作成のみを支援することとした。また、プロジェクトは作成される地方管区・地方DRRMPsとNDRRMPとの整合性を適宜確認した。</li> </ul>	<p>概ね達成 (1管区(NCR)以外で全てのRDRRMPsが承認された。)</p>	
<p>1-3. 第2地方管区のハイロケットLGUsのLDRRMPsが作成され、承認される。</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準化されたLDRRMPテンプレート「Local Disaster Risk Reduction &amp; Management Plan Formulation Training Manual 2013」(NDRRMC, OCD, UNDP, CIDAによるプロジェクトで作成されたもの)が、2013年7月から9月にかけて17地方管区のOCD地方管区事務所が各々開催した「リージョナル・サミット」で、LDRRMPs作成のためのガイドとしてLGUsに提示された。</li> <li>OCD第2地方管区事務所は、2回に分けて「リージョナル・サミット」を開催(第1回2013年9月2-3日、第2回2013年9月4-5日)し、各回約250名の参加者があり、そこでDRRMPテンプレート、DRRM部局の業務、DRRMツール(NOAH, EWS, Info board等)を紹介した。</li> <li>OCD第2地方管区事務所は、ナレッジ共有ワークショップ(OCD地方管区事務所長が集まる定期的なOCD Senior</li> </ul>	<p>概ね達成 (パイロット4地方自治体のLDRRMPsは最終化され、うち3自治体のLDRRMPsが既に地方DRRM評議会により承認された。)</p>	

<p>Leaders' Conference の機会を利用して2013年9月に開催)でプロジェクト活動の経験と成果を共有。          パイロット LGUs の LDRRMPs 策定の進捗状況は、2014年9月時点で次のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="167 465 486 1505"> <thead> <tr> <th>第2地方管区の パイロット LGUs</th> <th>地方 DRRM 計画</th> <th>地方 DRRM 評議会に おける承認</th> <th>地方 DRRM 評議会における AIP (年間投資 計画) のための採択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cagayan 州</td> <td>州 DRRM 計画ドラ フト (2014-2019)</td> <td>2014年9月30日に、州 DRRM 評議会および州議会の承認にむ けて州 DRRM 計画ドラフトが最終化・エンドースされた。 承認</td> <td>採択 (2014年9月15日)</td> </tr> <tr> <td>Alcala 町 (Cagayan 州)</td> <td>町 DRRM 計画 (2014-2019)</td> <td>承認 (2014年6月10日)</td> <td>採択 (2014年9月17日)</td> </tr> <tr> <td>Isabela 州</td> <td>州 DRRM 計画 (2014-2019)</td> <td>承認 (2014年6月10日)</td> <td>(2012年および2013年の未支出 の地方 DRRM 基金に関する計画)</td> </tr> <tr> <td>Iligan 市 (Isabela 州)</td> <td>市 DRRM 計画 (2015-2020)</td> <td>承認 (2014年7月23日)</td> <td>今後採択</td> </tr> </tbody> </table>	第2地方管区の パイロット LGUs	地方 DRRM 計画	地方 DRRM 評議会に おける承認	地方 DRRM 評議会における AIP (年間投資 計画) のための採択	Cagayan 州	州 DRRM 計画ドラ フト (2014-2019)	2014年9月30日に、州 DRRM 評議会および州議会の承認にむ けて州 DRRM 計画ドラフトが最終化・エンドースされた。 承認	採択 (2014年9月15日)	Alcala 町 (Cagayan 州)	町 DRRM 計画 (2014-2019)	承認 (2014年6月10日)	採択 (2014年9月17日)	Isabela 州	州 DRRM 計画 (2014-2019)	承認 (2014年6月10日)	(2012年および2013年の未支出 の地方 DRRM 基金に関する計画)	Iligan 市 (Isabela 州)	市 DRRM 計画 (2015-2020)	承認 (2014年7月23日)	今後採択	<p>これらの LDRRMPs は、地方 DRRM 部局が承認した LDRRMP テンプレートに基づき 2013年にドラフトが作成 されたもので、DRRM の4分野を包括的に含み、過去の災害データに基づきリスクの高いエリアの分析・特定も 行っている。その作成過程では多くの関連機関が参加したことから、作成されたドラフトはこれら関係機関から 強く支持された。また LDRRMPs を作成した LGUs は、災害予防・軽減にもより予算を振り分ける傾向が指摘さ れた。</p> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトとしての活動は全て終了した。LDRRMPs は地方 DRRM 評議会承認されたのち、地方開発計画等 に統合されることとなる。</li> <li>(関連したインパクト)</li> <li>パイロット LGUs 以外でも、OCD 地方管区事務所への支援により LDRRMPs を作成した (または作成する予定の) LGUs がある (Aparri MDRRMP および Peñablanca MDRRMP)</li> <li>Aparri 町 DRRM 計画 (2014-2016) は 2013年11月に作成され、町 DRRM 評議会でのエンドースを経て、2014 年6月に町議会で承認された。また、関連情報として、Aparri 町の 2013年度町 DRRM 基金の支出内訳は次の とおり。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="922 616 1109 1489"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予算</th> <th>支出</th> <th>残額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予防・軽減</td> <td>250,000</td> <td>89,076</td> <td>160,924</td> </tr> <tr> <td>災害準備</td> <td>250,000</td> <td>153,361</td> <td>96,639</td> </tr> <tr> <td>災害対応</td> <td>1,783,596</td> <td>1,301,690</td> <td>481,905</td> </tr> <tr> <td>復旧・復興</td> <td>3,661,724</td> <td>2,404,500</td> <td>1,257,224</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,945,320</td> <td>3,948,627</td> <td>1,996,692</td> </tr> </tbody> </table> <p>DRRM 基金の活用は、コミュニティ防災推進のための1つのアイデアとなっている。</p> <p>(今後の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの LDRRMPs 作成支援に係る活動・経験 (具体的な作成プロセスや関係機関の間のコーディネー ション) はナレッジ共有ワークショップ (2013年9月) で紹介された。</li> <li>パイロット LGUs の経験は、OCD 地方管区事務所等の活動 (ワークショップの開催、ツール等の配布、TOT 手 法による研修など) により他の LGUs へも展開・普及されていく必要がある。</li> </ul>	項目	予算	支出	残額	予防・軽減	250,000	89,076	160,924	災害準備	250,000	153,361	96,639	災害対応	1,783,596	1,301,690	481,905	復旧・復興	3,661,724	2,404,500	1,257,224	計	5,945,320	3,948,627	1,996,692	<p>部分的に達成          (Checklist and          Assessment フォーム (ド          ラフト) は LDRRMPs に          対して試験適用され、そ</p> <p>1-4. LGUs ための          LDRRMPs と          LDRRMOs のモニタリ          ング・ツール/シートが          作成される。</p>
第2地方管区の パイロット LGUs	地方 DRRM 計画	地方 DRRM 評議会に おける承認	地方 DRRM 評議会における AIP (年間投資 計画) のための採択																																											
Cagayan 州	州 DRRM 計画ドラ フト (2014-2019)	2014年9月30日に、州 DRRM 評議会および州議会の承認にむ けて州 DRRM 計画ドラフトが最終化・エンドースされた。 承認	採択 (2014年9月15日)																																											
Alcala 町 (Cagayan 州)	町 DRRM 計画 (2014-2019)	承認 (2014年6月10日)	採択 (2014年9月17日)																																											
Isabela 州	州 DRRM 計画 (2014-2019)	承認 (2014年6月10日)	(2012年および2013年の未支出 の地方 DRRM 基金に関する計画)																																											
Iligan 市 (Isabela 州)	市 DRRM 計画 (2015-2020)	承認 (2014年7月23日)	今後採択																																											
項目	予算	支出	残額																																											
予防・軽減	250,000	89,076	160,924																																											
災害準備	250,000	153,361	96,639																																											
災害対応	1,783,596	1,301,690	481,905																																											
復旧・復興	3,661,724	2,404,500	1,257,224																																											
計	5,945,320	3,948,627	1,996,692																																											

		<ul style="list-style-type: none"> <li>Checklist and Assessment フォーム (ドラフト) については、パイロットサイトである第2 地方管区において既に関係 DRRM 部局と意見交換が行われた。(OCD 第2 地方管区事務所: 2014 年7月8日, Cagayan 州 DRRM 部局: 2014 年7月9日, Isabela 州 DRRM 部局: 2014 年7月9日)</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第5 地方管区、第7 地方管区、第10 地方管区の DRRM 部局から LDRRMPs を収集する。</li> <li>Checklist and Assessment フォーム (ドラフト) を用いて第2, 3, 5, 7, 10 地方管区から収集した LDRRMPs を試行的に評価する。その結果を踏まえてフォームを修正・最終化する。</li> <li>最終化にむけては DILG 担当者とも意見交換する。</li> <li>Checklist and Assessment フォームの承認・採用にむけて、NDRRMC テクニカル・マネジメント・グループのレビューとフィードバックを得る。</li> </ol>	<p>の結果を踏まえて改善・最終化される予定。)</p>																								
<p>2. DRRM活動 (情報管理を含む) が標準化される。</p>	<p>2-1. 水文気象災害、地震・津波にかかるNDRPs が承認される。</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水文気象災害 (高潮を含む) にかかる NDRP が DSWD と他機関の協力のもと作成され、関係機関はこの NDRP 中の方針と手続きを既に活用している。</li> <li>NDRP の作成の際には、日本の関連する計画や文書が参考とされた。</li> <li>NDRP は DSWD により 2014 年6月11 日の NDRRMC に提出され、そこで承認された。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="555 450 842 1507"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>日付</th> <th>活動</th> <th>目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2014 年5月16日</td> <td>DSWD と打ち合わせ (OCD カウンターパート及び専門家)</td> <td>NDRP の最終化</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2014 年6月11日</td> <td>NDRRMC</td> <td>NDRP の承認、SIMEX (NDRP 評価のための机上訓練) 実施の合意</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2014 年6月30日</td> <td>DSWD において NDRP の引渡し式</td> <td>DSWD から JICA 事務所への謝意</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2014 年8月13日</td> <td>NDRRMC-TMG におけるブレゼンテーション</td> <td>NDRP の付属文書の作成支援</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2014 年8月29日</td> <td>オペレーションショナル・ガイドラインにかかわるワークショップ支援</td> <td>オペレーションショナル・ガイドライン作成支援</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震・津波にかかる NDRP の作成が現在進められており (活動は 2014 年7月に開始)、同ドラフトが 2014 年9月30日～10月1日の TMG ワークショップに提出・検討された。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震・津波にかかる NDRP の最終化</li> </ul>	No	日付	活動	目的	1	2014 年5月16日	DSWD と打ち合わせ (OCD カウンターパート及び専門家)	NDRP の最終化	2	2014 年6月11日	NDRRMC	NDRP の承認、SIMEX (NDRP 評価のための机上訓練) 実施の合意	3	2014 年6月30日	DSWD において NDRP の引渡し式	DSWD から JICA 事務所への謝意	4	2014 年8月13日	NDRRMC-TMG におけるブレゼンテーション	NDRP の付属文書の作成支援	5	2014 年8月29日	オペレーションショナル・ガイドラインにかかわるワークショップ支援	オペレーションショナル・ガイドライン作成支援	<p>部分的に達成</p> <p>(水文気象災害にかかる NDRP は承認され、一方、地震・津波にかかる NDRP は作成中。)</p>
No	日付	活動	目的																								
1	2014 年5月16日	DSWD と打ち合わせ (OCD カウンターパート及び専門家)	NDRP の最終化																								
2	2014 年6月11日	NDRRMC	NDRP の承認、SIMEX (NDRP 評価のための机上訓練) 実施の合意																								
3	2014 年6月30日	DSWD において NDRP の引渡し式	DSWD から JICA 事務所への謝意																								
4	2014 年8月13日	NDRRMC-TMG におけるブレゼンテーション	NDRP の付属文書の作成支援																								
5	2014 年8月29日	オペレーションショナル・ガイドラインにかかわるワークショップ支援	オペレーションショナル・ガイドライン作成支援																								
	<p>2-2. OCD 災害対応オペレーションマニュアルが承認される。</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2013 年の OCD 暫定 OSSP (組織構造・人事配置) に基づく現在の過渡的な OCD 組織体制に適応が可能な OCD 災害対応オペレーションマニュアルのドラフトが作成された。</li> <li>OSSP の決定が遅れているため、同ドラフトは既にある程度運用可能ではあるが最終化作業はスケジュールから遅れている。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DND はまだ OSSP を決定する必要。それまでの間は、(CDA が決定したように) 現在の暫定的な OCD 災害対応オペレーションマニュアルが過渡的な OCD 組織体制に適用される。</li> </ul>	<p>部分的に達成</p> <p>(OSSP が決定するまでの現在の過渡的な OCD 組織体制に適用可能な OCD 災害対応オペレーションマニュアル案が作成された。)</p>																								
	<p>2-3. OCD 本部および地方管区事務所レベルで IMS (対応者、災害発生状況、過去の災害データに関するデータベース) が承認される。</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IMS のための機材 (サーバーコンピュータ1台、GIS ソフトウェア、デスクトップパソコン1台、A0 サイズプロッター1台) が調達された。</li> <li>IMS (情報管理システム) は、Web-GIS 技術を取り込んだ3 テータベース (対応者、災害発生状況、過去の災害データ) から構成。 URL: <a href="http://121.127.9.130/ocdims">121.127.9.130/ocdims</a></li> <li>現在、IMS は内部からのみアクセス可能であるが、将来的には、NDRRMC メンバー機関が地図表示などによる次のデータも閲覧可能とするよう検討されている。</li> <li>災害準備にかかわる情報 (地域の関連施設情報など)</li> </ul>	<p>部分的に達成</p> <p>(IMS は引き続きデータベースの充実とシステムの改良が進められている。)</p>																								



<p>3. DRRM教育研修システムとその能力が強化される。</p>	<p>2-4. ICTスタッフ24名がIMSに関する研修を受講する(本部7名、地方管区事務所17名)。</p> <p>2-5. NDRP、OCD災害対応オペレーションマニュアル、IMSに関する訓練が実施される。</p> <p>2-6. NDRRMETPが最終化され、OCD幹部に承認される。</p>	<p>2) DSWD や他の関係機関の対応者からの準リアルタイムの災害対応等の情報</p> <p>3) IMS はOCD による災害分析にも活用される予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IMS のための操作マニュアル、関連資料が作成された。</li> <li>1) GIS Activity Manual (version 1) - Public Storm Warning Signal Mapping Manual</li> <li>2) Admin Manual (version 1) - Administration Manual for Site</li> </ul> <p>IMS は、ハッキング等のシステムの安全対策の強化が必要なことから、現在は広く一般に公開されることは考えられていない。</p> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <p>1) 残りの期間に予定されている1訓練および3研修からのフィードバックの整理と統合</p> <p>2) IMS を改善し最終化、その後OCD 幹部によるIMS 承認の働きかけ</p> <p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OCD 本部および地方管区事務所の職員に対するIMS/GIS の研修は次のとおり。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="467 465 612 1487"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>日付</th> <th>目的</th> <th>研修を受けた人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2013年7月17-19日 2014年2月5-6日</td> <td>GIS 研修</td> <td>参加者27名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2014年8月27-28日</td> <td>IMS-GIS 上級研修</td> <td>6名のOCD本部職員 (CEIT 課2名、国家DRRM サービス2名、防災オペレーション課2名)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在のところOCD 本部6名が研修を受けたが、OCD 地方管区事務所からの研修受講者はいない。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトは3日間のIMS研修を、Manila (Luzon クラスタ)、Cebu (Visayas クラスタ)、Davao 又は Cagayan de Oro (Mindanao クラスタ) で、少なくともOCD 各地方管区事務所から1名の参加を募って実施する予定。</li> </ul> <p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水文気象災害にかかるNDRP、IMS 利用を含むOCD 災害対応オペレーションマニュアルの机上訓練が2014年2月から計画されていた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="831 465 976 1487"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>日付</th> <th>目的</th> <th>活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2014年7月31日 -8月1日</td> <td>水文気象災害にかかるNDRP のための評価ワークショップ</td> <td>当初はSIMEX (NDRP 評価のための机上訓練) を実施する計画であったが、OCD とNDRRM Cメンバ機能は、2014年7月に台風Glendaが発生したため、その際の実際の災害対応・活動に対する評価ワークショップを開催した。</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>OCD オペレーション課によると、2014年の一連の台風(7月Glenda、8月Louise、9月Mario)の際に、特に災害対応クラスターの組織体制図がNDRP の中でも役に立った。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在作成中の地震・津波にかかるNDRP、及びOCD 災害対応オペレーションマニュアルに関する(第2回目の)関係機関を招いての机上訓練が2014年11月に予定されている。</li> </ul> <p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NDRRM Cのもと、DRRM に関する人材育成の国家政策コンセプト案の作成にかかるTWG が2012年10月に立ち上げられた。</li> <li>国家DRRM 教育研修計画の構成案(Draft Design) が、2014年7月に、CDA によって承認(教育研修課OIC が了承、CDEXO が承認を推薦)された。</li> <li>国家DRRM 教育研修計画は、様々なDRRM 教育研修活動(様々な機関により約1,300もの教育研修活動が毎年実施されている)を標準化しようとするもの。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <p>1) 2014年10月または11月にTWG を開催</p> <p>2) DRRM 教育に係るリソース情報を集約</p>	No	日付	目的	研修を受けた人数	1	2013年7月17-19日 2014年2月5-6日	GIS 研修	参加者27名	2	2014年8月27-28日	IMS-GIS 上級研修	6名のOCD本部職員 (CEIT 課2名、国家DRRM サービス2名、防災オペレーション課2名)	No	日付	目的	活動	1	2014年7月31日 -8月1日	水文気象災害にかかるNDRP のための評価ワークショップ	当初はSIMEX (NDRP 評価のための机上訓練) を実施する計画であったが、OCD とNDRRM Cメンバ機能は、2014年7月に台風Glendaが発生したため、その際の実際の災害対応・活動に対する評価ワークショップを開催した。	<p>部分的に達成</p> <p>(今後、特にOCD 地方管区向けに3回の研修が計画されている。)</p> <p>部分的に達成</p> <p>(2014年11月に地震・津波にかかるNDRP の評価ワークショップを予定。)</p> <p>部分的に達成</p> <p>(国家DRRM 教育研修計画は今後最終化され承認される予定。)</p>
No	日付	目的	研修を受けた人数																				
1	2013年7月17-19日 2014年2月5-6日	GIS 研修	参加者27名																				
2	2014年8月27-28日	IMS-GIS 上級研修	6名のOCD本部職員 (CEIT 課2名、国家DRRM サービス2名、防災オペレーション課2名)																				
No	日付	目的	活動																				
1	2014年7月31日 -8月1日	水文気象災害にかかるNDRP のための評価ワークショップ	当初はSIMEX (NDRP 評価のための机上訓練) を実施する計画であったが、OCD とNDRRM Cメンバ機能は、2014年7月に台風Glendaが発生したため、その際の実際の災害対応・活動に対する評価ワークショップを開催した。																				



	<p>3) 国家 DRRM 教育研修計画を最終化 (DRRM のための TIs の設立にかかる NDRRM ワーキング・コミュニティに意見交換)</p> <p>4) 国家 DRRM 教育研修計画の承認を働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果 3 の達成を確実にするため、残り 6 ヶ月のワーキングを作成することが重要 (11 月、12 月、1 月は活動が通常は停滞)</li> <li>研修を実施するための 2015 年度予算は既に確保済み</li> <li>国家 DRRM 教育研修を実施する機関を OCD が信任するシステムを現在 OCD は検討中</li> <li>研修ニーズのアセスメントにより、国家 DRRM 教育研修計画と現在行われている DRRM 教育研修のギャップを埋めることも重要</li> </ul>																					
<p>概ね達成 (4 つの優先研修モジュールが最終化され、承認される予定。)</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初は、10 モジュールから成る DRRM 101 「Local DRRM: Leadership, sourcing, and management of resources」が作成された。</li> <li>TIs のための優先研修モジュールが、国家 DRRM 教育研修計画に統合される方向で、次の 4 優先グループについて作成された。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="526 470 662 1489"> <thead> <tr> <th>モジュール</th> <th>対象</th> <th>モジュールに基づくパイロット研修</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>OCD 地方管区長</td> <td>2014 年 2 月 12-13 日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国レベル政府組織</td> <td>2014 年 9 月 24-26 日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>民間セクター</td> <td>2014 年 8 月 28-29 日</td> <td>20 名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コミュニティ</td> <td>→ 成果 4 の TOT 研修を参照</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育研修にかかるリソース情報を整理・集約</li> <li>2) モジュールの最終化</li> <li>3) 研修モジュールを国家 DRRM 教育研修計画に統合</li> </ol> <p>(TIs に関する現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Mamila (Luzon クラスタ)、Cebu (Visayas クラスタ)、Davao (Mindanao クラスタ) の 3 ヶ所に TIs の建物を建設する計画が検討されている。それまでの間は、TIs が行うべき役割と活動は OCD 教育研修課が実施している。</li> <li>OSSP の最終化の遅れが、TIs の設立 (業務開始) に影響を与えている。</li> </ul>	モジュール	対象	モジュールに基づくパイロット研修	参加者数	1	OCD 地方管区長	2014 年 2 月 12-13 日		2	国レベル政府組織	2014 年 9 月 24-26 日		3	民間セクター	2014 年 8 月 28-29 日	20 名	4	コミュニティ	→ 成果 4 の TOT 研修を参照		<p>3-1. TIs のための優先研修モジュールが最終化され、OCD による承認される。</p>
モジュール	対象	モジュールに基づくパイロット研修	参加者数																			
1	OCD 地方管区長	2014 年 2 月 12-13 日																				
2	国レベル政府組織	2014 年 9 月 24-26 日																				
3	民間セクター	2014 年 8 月 28-29 日	20 名																			
4	コミュニティ	→ 成果 4 の TOT 研修を参照																				
<p>概ね達成 (CDETP は最終化され、承認される必要。)</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民防衛教育研修プログラム (CDETP) の構成案 (Draft Design) が、2014 年 7 月に、CDA によって承認 (教育研修課 OIC が了承、CDEXO が承認を推薦) された。現在の次の 3 レベルで CDETP の作成が進んでいる。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1037 470 1268 1489"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>レベル</th> <th>パイロット研修の実施</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎レベル</td> <td>2013 年 2 月 27 日～3 月 1 日 2013 年 8 月 14 日～15 日</td> <td>27-35 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>上級レベル</td> <td>UNHCR と NDCC-OCD が 2007 年に作成した「Contingency Planning for Emergency-a manual for local government Unit」を参考にしつつ、Contingency Planning に関するパイロット研修を 2014 年 7 月 22-25 日に実施</td> <td>OCD 本部および 地方管区事務所 から 20 名が参加</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>幹部レベル</td> <td>パイロット研修は OCD により実施される予定</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>CDETP にかかる第 1 回ワークショップ (Write-shop) が 2013 年 10 月 22 日に開催された。第 2 回目の Write-shop が 2014 年 9 月 10-12 日に開催され、そこで CDETP 最終化のためのワーキング・グループが設置された。</li> </ul> <p>(プロジェクトとしての残りの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パイロット研修を行い、研修ニーズアセスメントの取りまとめ</li> <li>CDETP の承認に対する働きかけ</li> </ul>	No	レベル	パイロット研修の実施	参加者	1	基礎レベル	2013 年 2 月 27 日～3 月 1 日 2013 年 8 月 14 日～15 日	27-35 名	2	上級レベル	UNHCR と NDCC-OCD が 2007 年に作成した「Contingency Planning for Emergency-a manual for local government Unit」を参考にしつつ、Contingency Planning に関するパイロット研修を 2014 年 7 月 22-25 日に実施	OCD 本部および 地方管区事務所 から 20 名が参加	3	幹部レベル	パイロット研修は OCD により実施される予定	—	<p>3-2. 市民防衛教育研修プログラム (CDETP) が開発され、OCD 幹部に承認される。</p>				
No	レベル	パイロット研修の実施	参加者																			
1	基礎レベル	2013 年 2 月 27 日～3 月 1 日 2013 年 8 月 14 日～15 日	27-35 名																			
2	上級レベル	UNHCR と NDCC-OCD が 2007 年に作成した「Contingency Planning for Emergency-a manual for local government Unit」を参考にしつつ、Contingency Planning に関するパイロット研修を 2014 年 7 月 22-25 日に実施	OCD 本部および 地方管区事務所 から 20 名が参加																			
3	幹部レベル	パイロット研修は OCD により実施される予定	—																			

<p>4. コミュニティ防災 (CBDRRM) 活動の体制支援が強化される。</p>	<p>4-1. CBDRRM 国家政策 (コンセプトペーパー)、トレーナー基礎ガイド、研修コースが NDRRMC 災害準備 TMG で最終化され、NDRRMC 議長に承認される。</p>	<p>概ね達成 (コンセプトペーパー案と、パイロット研修で用いられたトレーナー基礎ガイド (研修コースを含む) が今後最終化され承認される必要。)</p>															
<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー (ステークホルダーの役割・責任の明確化を含む) 案がプロジェクトにより作成され、コミュニティ防災のための TMG 委員会で検討されている。これまでコミュニティ防災に関する国家政策はなく、プロジェクトはコミュニティ防災を国レベルで標準化しようとするもの。</li> <li>コミュニティ防災研修コースのためのトレーナー基礎ガイド (BIG) が英語とタガログ語で 2013 年に作成された。</li> <li>コンセプトペーパー案、BIC、コミュニティ防災研修コースを評価検討するため、第 3 地方管区の Bataan 州 (Balanga 市および Morong 町) で TOT (研修トレーナー養成研修) 方式を用いたパイロット研修が 2014 年 10 月に実施された。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>日付</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TOT 1</td> <td>2014 年 7 月 7-11 日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>OCB (本部および第 3 地方管区事務所)、NDRRMC メンバー機関 (PHIVOLCS、PAGASA、DILG、NEDA、DSWD)、NAMRIA、DENR、DOH、World Vision から 27 名</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>TOT 2</td> <td>2014 年 8 月 11-15 日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>TOT1 に参加した OCB (本部および第 3 地方管区事務所)、NEDA、PAGASA、DILG、World Vision、CDP から 15 名がトレーナーとして参加</li> <li>また、Bataan 州 DRRM 部局、Balanga 市 DRRM 部局、Morong 町 DRRM 部局からの計 28 名が受講者として出席</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>TOT 3</td> <td>2014 年 9 月 8-12 日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>(TOT3-1) 評価者・メンター 8 名、トレーナーは Balanga 市、Bataan 州 から 7 名、Torutugas バランガイから 16 名が受講者として参加</li> <li>(TOT3-2) 評価者・メンター 8 名、トレーナーは Morong 町、Bataan 州 から 6 名、Sabang バランガイから 20 名が受講者として参加</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>コミュニティ</td> <td>2014 年 10 月 2-6 日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>(CA1) Balanga 市の Torutugas バランガイで 2014 年 10 月 2-4 日実施</li> <li>(CA2) Morong 町の Sabang バランガイで 2014 年 10 月 3-5 日実施</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(プロジェクトとして残りの活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンセプトペーパー案は 2014 年 10 月 7 日の災害準備 TMG にレビュー・最終化のために提出される予定。提出の前に、現在 DILG からのインプットを待っている状態。</li> <li>行動計画を含むコンセプトペーパーの承認を働きかけ、その後 Memorandum Circular (覚書回覧) の形で発出されることで、国家政策としての位置づけが与えられる予定。</li> </ol>	No	日付	参加者	TOT 1	2014 年 7 月 7-11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>OCB (本部および第 3 地方管区事務所)、NDRRMC メンバー機関 (PHIVOLCS、PAGASA、DILG、NEDA、DSWD)、NAMRIA、DENR、DOH、World Vision から 27 名</li> </ul>	TOT 2	2014 年 8 月 11-15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOT1 に参加した OCB (本部および第 3 地方管区事務所)、NEDA、PAGASA、DILG、World Vision、CDP から 15 名がトレーナーとして参加</li> <li>また、Bataan 州 DRRM 部局、Balanga 市 DRRM 部局、Morong 町 DRRM 部局からの計 28 名が受講者として出席</li> </ul>	TOT 3	2014 年 9 月 8-12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(TOT3-1) 評価者・メンター 8 名、トレーナーは Balanga 市、Bataan 州 から 7 名、Torutugas バランガイから 16 名が受講者として参加</li> <li>(TOT3-2) 評価者・メンター 8 名、トレーナーは Morong 町、Bataan 州 から 6 名、Sabang バランガイから 20 名が受講者として参加</li> </ul>	コミュニティ	2014 年 10 月 2-6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(CA1) Balanga 市の Torutugas バランガイで 2014 年 10 月 2-4 日実施</li> <li>(CA2) Morong 町の Sabang バランガイで 2014 年 10 月 3-5 日実施</li> </ul>	<p>部分的に達成 (行動計画はコンセプトペーパーの一部として作成される予定。)</p>
No	日付	参加者															
TOT 1	2014 年 7 月 7-11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>OCB (本部および第 3 地方管区事務所)、NDRRMC メンバー機関 (PHIVOLCS、PAGASA、DILG、NEDA、DSWD)、NAMRIA、DENR、DOH、World Vision から 27 名</li> </ul>															
TOT 2	2014 年 8 月 11-15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOT1 に参加した OCB (本部および第 3 地方管区事務所)、NEDA、PAGASA、DILG、World Vision、CDP から 15 名がトレーナーとして参加</li> <li>また、Bataan 州 DRRM 部局、Balanga 市 DRRM 部局、Morong 町 DRRM 部局からの計 28 名が受講者として出席</li> </ul>															
TOT 3	2014 年 9 月 8-12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(TOT3-1) 評価者・メンター 8 名、トレーナーは Balanga 市、Bataan 州 から 7 名、Torutugas バランガイから 16 名が受講者として参加</li> <li>(TOT3-2) 評価者・メンター 8 名、トレーナーは Morong 町、Bataan 州 から 6 名、Sabang バランガイから 20 名が受講者として参加</li> </ul>															
コミュニティ	2014 年 10 月 2-6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>(CA1) Balanga 市の Torutugas バランガイで 2014 年 10 月 2-4 日実施</li> <li>(CA2) Morong 町の Sabang バランガイで 2014 年 10 月 3-5 日実施</li> </ul>															
<p>4-2. CBDRRM 活動を実施し、モニタリング・評価する行動計画が、国・地方管区レベルで準備される。</p>	<p>(進捗)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ防災に関する政策 (CBDRRM のための国レベルのコンセプトペーパー) の作成の方が、行動計画の作成よりも優先された。</li> <li>行動計画については、CBDRRM 国家政策コンセプトペーパー案の中で予算と実施メカニズムを挙げて説明されている。</li> </ul> <p>(プロジェクトとして残りの活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンセプトペーパーの最終化 (DILG は調整会議を開催することが可能。DILG と NDRRMC は、行動計画の中からの予算を使ってどの活動を実施するのかについて提案する)</li> <li>承認を働きかけ (LGUs 関係部局に支援される必要)</li> </ol>	<p>部分的に達成 (行動計画はコンセプトペーパーの一部として作成される予定。)</p>															

添付 11: 評価グリッド

		2014年9月22日	
評価事項	評価設問	収集情報・判断基準	情報入手先・手段
1. 妥当性	1.1 国レベル・地域レベルでの DRRM にかかる新たな政策・戦略の変化はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン中期開発計画 (2011-2016) (環境セクターの目標の1つとして、国家・地方政府機関 (LDRRMCs や LDRRMOs など) の能力強化を挙げている) の更新等の状況。</li> <li>・NDRRM フレームワーク (マルチハザード・アプローチを採用) の更新等の状況。</li> <li>・UN や AusAID など本プロジェクトを補完するような支援を行っている援助機関の協力方針の変化。</li> </ul>	OCD インタビュー
	1.2 実施機関のニーズ・期待との整合性に変化はないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OCD や DND の目的・所掌業務に変化はないか。</li> <li>・OCD の戦略・活動に関する文書での、プロジェクト活動に関する記述。</li> <li>・2012年8月に OCD のニーズに応じて PDM に変更があった。</li> <li>1) OCD のイニシアティブにより、プロジェクト開始前に NDRRMP が策定された。よってプロジェクトは、RDRRMPs および LDRRMPs の作成支援に活動を変更した。</li> <li>2) OCD の組織改編があり、教育研修課の業務を基に TIs を設立する予定となったことから、それに応じてプロジェクト活動を調整</li> <li>3) プロジェクトはコミュニティ防災の活動を推進する前に、コミュニティ防災にかかると政策・ガイドラインの作成に取り組むこととした。</li> <li>・OCD の DRRM に関する法体制 (共和国法第 10121 号、国家 DRRM 計画、地方 DRRM 計画、NDRP など) 中での位置づけを整理。</li> <li>・第2地方管区の4パイロット LGUs、コミュニティ防災にかかると第3地方管区の Bataan 州パイロット・LGUs に社会経済・自然的な大きな変化等あったか。</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー
	1.3 モデル地区の選択は適切だったか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・OCD の組織体制の変化の有無 (プロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネジャーの交替など)</li> <li>・2013年3月に OCD 本部が、8課と国家 DRRM サービスに、新たに再編された。プロジェクトの4つの成果は、それぞれ以下の課によって担当されている。</li> <li>1) 計画：計画プログラム課</li> <li>2) 防災オペレーション：防災オペレーション課、CEIT (情報通信・電子技術) 課</li> <li>3) 人材育成：教育研修課、人材管理開発課</li> <li>4) コミュニティ防災：教育研修課、国家 DRRM サービス</li> </ul>
2. 有効性 (プロジェクト実績を含む)	1.5 日本政府のフィリピンへの援助方針と整合しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対フィリピン国別援助計画 (2012年4月付け) のその後の変更</li> </ul>	JICA およびウェブサイト
	2.1 成果1 (DRRMに関するOCDの計画立案・実施能力の改善)の進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>各指標に照らした達成度を別途成果グリッドに整理。</li> <li>・現時点での DRRM 部局 (DRRMOs) の設置状況の確認</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー パイロット LGUs ヒアリング
	2.2 成果2 (DRRM活動(情報管理を含む)の標準化)の進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>各指標に照らした達成度を別途成果グリッドに整理。</li> <li>・DSWD によって進められるはずの NDRP の策定における OCD の役割の整理。</li> <li>・地震・津波にかかる NDRP の策定は予定通り進んでいるか。</li> <li>・実際の災害への対応：1) Bohol 地震 (2013年10月15日)</li> <li>2) 台風 Yolanda (2013年11月8日)</li> <li>3) 台風 Glenda (2014年7月17日)</li> <li>・国連等が進めている Contingency Plan の作成に係る活動の進捗の確認 (NDRP と並行して進められている)</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー
2.3 成果3 (DRRM教育研修システムとその能力の強化)の進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>各指標に照らした達成度を別途成果グリッドに整理。</li> <li>・国家政策・フレームワークの作成を通して DRRM 教育研修活動 (現在、さまざまな機関によって実施されている) の標準化を進めて行くに当たっての OCD の役割の整理。</li> <li>・TIs の活動開始の遅れがプロジェクト活動に与えている影響。</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー	

<p>3. 効率性（実施プロセスを含む）</p>	<p>2.4 成果4（コミュニティ防災（CBDRRM）活動の支援体制の強化）の進捗</p> <p>2.4 プロジェクト目標（OCDのDRRM能力の強化）のプロジェクト終了時までの達成見込み</p> <p>2.5 中間レビューの提言への対応状況</p>	<p>各指標に照らした達成度を別途成果グリッドに整理。 ・行動計画（プロジェクトのスケジュールとなる）の進捗</p> <p>各指標に照らした達成度を別途成果グリッドに整理。 ・プロジェクトの成果により実際の災害（2013年11月8日の台風Yolandaなど）でOCDの活動の向上が見られた事例。 ・OCD本部・地方管区事務所の、計画立案およびその実施、モニタリング・評価、機関間の調整に係る活動での能力強化がみられた事例 ・プロジェクトの終了時までにはキャパシティ・アセスメント調査を実施する予定の有無</p> <p>1. プロジェクト管理 1) カウンターパートの配置を変更しないこと、また実施体制を簡素化し指揮系統を明確にすること。 2) 月例カウンターパート会議には、4カウンターパートの全員が参加すること。 3) プロジェクト終了時にキャパシティ・アセスメントを実施すること。</p> <p>2. 計画 1) 第2地方管区のパイロット LGUsの LDRRMPs 作成の経験を活用して、他の LGUsでも LDRRMPsの改善を支援すること。また、第2地方管区での優良事例を他地方管区にも促進・普及すること。 2) 共和国法第10121号の「サンセット・レビュー」の概要・範囲を明確にすること。また NDRRMp、RDRRMp、LDRRMpに関するモニタリング・評価の対象範囲を明確にすること。</p> <p>3. オペレーション 1) 水文気象災害に加えて、地震・津波にかかる NDRP を作成すること。 2) 水文気象災害にかかる NDRP が NDRRMc に早急に承認されるよう働きかけること。 4. 研修 1) TIs のオペレーション開始に向けた工程表を明確にするとともに、策定した研修プログラムを、標準化に向けて、どのように普及するののかについて具体的な戦略を示すこと。 2) 他の研修提供機関や政府機関との協力を促進すること。 5. コミュニティ防災 1) コミュニティ防災のコンセプトペーパーでは、各ステークホルダーの役割・責任を明示すること。 2) コミュニティ防災を実施する上でリスク情報を自治体に提供する方法と仕組みを制度として導入すること。 3) 他の関係機関と連携し、継続性のある公共政策としてコミュニティ防災を位置づけること。</p>	<p>OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー パイロット LGUs ヒアリング</p> <p>OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー NEDA、DILG、DSWD、 PAGASA/PHIVOLCS ヒアリング</p> <p>OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー</p>
<p>3.1 プロジェクトの計画（PDM）は明確で関係者間で共有されていたか。</p> <p>3.2 専門家の投入は適切だったか。</p> <p>3.3 機材は適切に投入されたか。</p> <p>3.4 カウンターパート研修は適切に実施されたか。</p> <p>3.5 カウンターパートの参加は十分だったか（人数、責任、時間、関与の程度）。</p>	<p>・最新の PDM（2014年2月7日に改訂）は関係者間で共通に認識されているか（R/Dは2011年10月28日に署名） ・成果とプロジェクト目標に関する達成度の見解は関係者間で一致しているか。 ・実際の活動と活動計画の間に顕著な差異はあるか。</p> <p>・派遣期間、専門分野、派遣人数、現地滞在期間、派遣時期は適切か。</p> <p>・供与機材の有無</p> <p>・カリキュラム、実施のタイミングと期間、参加者の選定は適切だったか。</p> <p>・C/Pの頻繁な交替が、プロジェクト実施の効率性を下げたとの指摘があった。中間レビュー後も、C/Pの交替はあったか。交替の際の業務の継続性は確保されていたか。 1) プロジェクト・ダイレクター: Alexander Pama 次官 (NDRRMc Executive Director, OCD Administrator) 2) プロジェクト・マネージャー: CDXO (Civil Defense Executive Officer) Honorato Delos Reyes 氏 (JICA)</p>	<p>OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー</p> <p>OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー</p> <p>OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー</p>	



		<p>委員会の議長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト活動に対するオーナーシップ意識の有無。</li> <li>担当するプロジェクト業務とカウンターパートのTORとの一致。</li> <li>OCDのカウンターパート予算の確認。</li> </ul>	OCD インタビュー 専門家インタビュー
3.6	プロジェクト実施のための日本側の支出、フィリピン側の支出は適切だったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>JCCはこれまで7回開催。</li> <li>1) 第1回JCC (2012年4月18日) プロジェクトの正式な開始: OCD、PHIVOLCS、PAGASA、DILG、DSWD、NEDA、LPP、LMP、ULAP (またDPWH、PIAがICCメンバーとして提案された)が参加</li> <li>2) 第2回JCC (2012年8月3日) PDM ver2の承認: OCD、PHIVOLCS、PAGASA、DILG、DSWD、NEDA、LPPが参加</li> <li>3) 第3回JCC (2012年11月14日) 進捗モニタリングおよびIMS構築: OCD、DILG、NEDA、LPP、LMP、ULAPが参加</li> <li>4) 第4回JCC (2013年2月22日) 第1年次の実績確認: OCD、NEDA、PHIVOLCS、DSWD、LPP、DPWHが参加</li> <li>5) 第5回JCC (2013年10月18日) 中間レビュー報告: OCD、PAGASA、LMP、ULAP、GHQ&amp;HEC、NEDA、PHIVOLCS、LGA (DILG)が参加</li> <li>6) 第6回JCC (2014年2月7日) PDM ver3の承認: PAGASA、ULAP、LMP、OCD、NEDA、LPPが参加</li> <li>7) 第7回JCC (2014年8月20日) 進捗モニタリング: OCD、PHIVOLCS、DILG、LGA、DSWD、NEDAが参加</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー
3.7	専門家とカウンターパートとの定期的・日常的なコミュニケーションは十分だったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年3月から始まったカウンターパート会議の効果 (中間レビューで、プロジェクト4コンポーネントの全てのC/Pがカウンターパート会議に出席することが提言された)。</li> <li>専門家がフィリピンに滞在していない期間のコミュニケーション状況。</li> </ul>	OCD インタビュー NEDA、DILG、DSWD、PAGASA/PHIVOLCSヒアリング
3.8	フィリピン側機関の間での定期的・日常的なコミュニケーションは十分だったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議への案内状送付や結果の共有は行われていたか。</li> <li>R/D記載のICCメンバー機関は、OCD、NEDA、DILG、DSWD、DOST (PAGASA、PHIVOLCS)</li> <li>情報共有の頻度</li> </ul>	OCD インタビュー
3.9	専門家からカウンターパートへの技術移転の内容・手法は適切だったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>OJT、現地研修などの機会は十分だったか。</li> </ul>	OCD インタビュー
3.10	プロジェクト目標達成に向けた促進要因・阻害要因は何かあったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ベージック・アプローチ」に基づくプロジェクト実施の効果。(中間レビュー時の促進要因)</li> <li>プロジェクト開始に先立ち NDRRMP を策定したこと、OCD 地方管区事務所が 2013 年 7 月から 9 月にかけて管内の地方 DRRM 部局を集めて「リージョナル・サミット」を開催したこと、定期的な OCD 地方管区事務所長会議の機会の利用など、OCD の積極的な取組みがあったこと。(中間レビュー時の阻害要因)</li> <li>DRRM セクターを巡る状況の変化は速く、こうした変化に十分についていくことが時に困難であること。</li> <li>日本側・フィリピン側双方で主要カウンターパートメンバーの交替があった。そのことで、プロジェクトの内容とこれまでの経緯を確認し、活動計画の再調整に追加的な時間が必要となり、プロジェクトの円滑な実施に影響を与えた。</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー パイロットLGUsヒアリング NEDA、DILG、DSWD、PAGASA/PHIVOLCSヒアリング
4.1	上位目標 (フィリピン政府機関による DRRM 活動の改善) は、プロジェクト終了後3~5年での達成が見込めるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの成果に基づく上位目標に向けた活動に関する議論は何か行われているか (例えば、RDRRMP や LDRRMPs の作成・改訂の促進、地域への普及、地方管区事務所長会議の活用など)</li> <li>パイロットLGUsでないLGUsで、LDRRMPsの作成が進んでいる事例がある (Aparri 町 MDRRMP、Petalanca 町 MDRRMP)。OCD は具体的にどのようにしてこれらを支援しているか。</li> </ul>	OCD インタビュー 事業進捗報告書 専門家インタビュー NEDA、DILG、DSWD、



	<p>4.2 他機関との協力、またはその予定はあるか。</p> <p>4.3 想定されていた、又はされていない、または正負のインパクトは何かあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点での達成度から判断して、上位目標は3～5年後に達成が見込める目標か（ギャップは大きすぎないか）</li> <li>・JICAのプロジェクトにおける取組は、ポストHFAに向けた議論・キープワードと整合性がとれているか。</li> <li>・援助機関（国連、二国間ドナー、NGO）とOCDが連携した活動はあるか。</li> <li>・インパクトの発現はまだ先と考えられるが、主に期待されるインパクトの例は次の通り。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第2地方管区以外でもLGUsによるLDRRMPsは進んでおり、地方DRRM計画の全国的な向上が期待される。</li> <li>2) 水文気象災害にかかるNDRPの作成に参加した機関については、NDRPを各自関係する計画に反映させていくという動きがある。また、IMSは準リアルタイムでの情報を提供することで、DRRM活動に直接的なインパクトを与えることが期待できる。</li> <li>3) 現在、年間約1,300ものDRRMに関する様々な研修活動が実施されているが、国家DRRM教育研修計画により条件や標準が定められれば、これら研修活動の質は大きく向上することが期待される。</li> <li>4) NDRRMCメンバー機関間のコミュニケーションは、プロジェクト活動への参加によって顕著に向上した。</li> </ol> </li> </ul>	<p>PAGASA/PHIVOLCS ヒアリング</p> <p>OCD インタビュー              専門家インタビュー              AusAID ヒアリング</p> <p>OCD インタビュー              専門家インタビュー              NEDA、DILG、DSWD、              PAGASA/PHIVOLCS ヒアリング              AusAID ヒアリング</p>
<p>5. 持続可能性</p>	<p>5.1 政策・制度面の仕組みは整っているか。</p> <p>5.2 技術的な観点からの持続性は見込めるか。</p> <p>5.3 活動を継続していくための人材は十分か。</p> <p>5.4 活動への予算手当、財政支援の見通しはあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DRRMに関する政府の取組み方針に変更はあるか。</li> <li>・政策文書におけるプロジェクト活動の言及や、政府要職者によるセミナー・会議等の場でのプロジェクト活動の継続に関する言及。</li> <li>・プロジェクトで作成した文書は効果的に使われているか。</li> <li>・プロジェクトで作成したマニュアル等文書の所有者（引受先）は明確になっているか。（管理部署、原稿保存手段、増刷が必要な場合の予算、内容変更を行う際の責任分担の合意など）</li> <li>・技術や知識を再確認・アップデートするための研修機会はあるか。</li> <li>・現在のOCDカウンターパート職員は、プロジェクト終了後もプロジェクト活動に関われるか。</li> <li>・プロジェクト活動の継続・発展のためのOCDの職員数は十分か。職員（正規・契約）の増加は見込めるか。</li> <li>・プロジェクト活動の継続・発展のためのOCDの予算は（特に中間レビュー以降）確保されて、または増加しているか。</li> <li>・国際機関からの支援の可能性はあるか。</li> </ul>	<p>OCD インタビュー              専門家インタビュー</p> <p>OCD インタビュー              専門家インタビュー</p> <p>OCD インタビュー              専門家インタビュー</p>

**MINUTES OF MEETING  
 BETWEEN  
 THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE PHILIPPINES  
 AND  
 THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM  
 ON  
 JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT  
 FOR  
 DISASTER RISK REDUCTION  
 AND MANAGEMENT CAPACITY ENHANCEMENT PROJECT  
 IN THE PHILIPPINES**

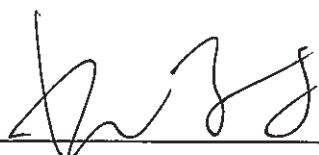
The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Masafumi NAGAISHI, visited Republic of the Philippines from September 22 to October 10, 2014 for the purpose of conducting Terminal Evaluation on the Japanese technical cooperation project, entitled "Disaster Risk Reduction and Management Capacity Enhancement Project" (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Philippines, both the Team and the authorities concerned of the Government of the Philippines formulated Joint Evaluation Team, had a series of discussions and exchanged views on the Project.

As a result of the intensive study and analysis of the activities and achievements of the Project, the Evaluation Team prepared the Joint Terminal Evaluation Report (hereinafter referred to as "the Report") attached hereto (Annex I) and presented it to the Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "the JCC") held on October 10, 2014.

After discussions in respect to recommendations and issues for the successful implementation of the Project, the JCC approved the contents of the Report and the respective representatives from the Philippine side and the Japanese side agreed to the matters referred to in the documents attached hereto.

Manila, October 10, 2014



\_\_\_\_\_  
 Mr. Masafumi NAGAISHI  
 Leader,  
 Terminal Evaluation Team  
 Japan International Cooperation Agency  
 (JICA)  
 Japan



\_\_\_\_\_  
 Usec. Alexander P. Pama  
 Executive Director, National Disaster Risk  
 Reduction and Management Council  
 Civil Defense Administrator, Office of Civil  
 Defense (OCD)  
 Republic of the Philippines

## THE ATTACHED DOCUMENT

### 1. Joint Terminal Evaluation Report

Both the Philippine and the Japanese sides approved the result of the Joint Terminal Evaluation as Annex I.

### 2. Utilization and dissemination of the Project outcomes

Through the Joint Terminal Evaluation, the Team recognized that the Project has progressively achieved its purpose and elaborated tangible outputs such as Information Management System (IMS), OCD Operation Manual and Training Modules for Civil Defense Education and Training Program and Community Based Disaster Risk Reduction Management (CBDRRM) training materials.

The IMS is an important, basic tool to accumulate historical disaster data and records of disaster operations to make the investment on Disaster Risk Reduction Management (DRRM) more efficient. It is necessary to improve the capacity of OCD staff to utilize this system including allocation of technical staffs and suitable budget for its operation and maintenance.

Pending the establishment of the Training Institute, the OCD shall ensure that training modules for Civil Defense Education and Training Program and CBDRRM developed during the Project will be utilized and implemented at all levels of government. Moreover, the OCD will consider the collaboration with the existing training facilities of government, universities and other training facilities.

The OCD agreed to take necessary measures for effective utilization and dissemination within the OCD on the outcomes of the Project.

### 3. Strengthening the OCD's coordination capacity with relevant organizations and relation at department and regional level

During the Joint Terminal Evaluation, relevant organizations such as Philippine Institute of Volcanology and Seismology (PHIVOLCS) and Department of the Interior and Local Government (DILG) expressed that the coordination capacity of OCD was improved through the Project.



To sustain mainstreaming of Disaster Risk Reduction (DRR) and strengthening disaster preparedness, it is necessary for OCD to have good interagency coordination from the national, regional and local levels.

Since the DRR is cross-sectoral issue, the OCD agreed to continue to enhance both horizontal coordination and vertical relation.

#### **4. Taking efforts for the achievement of the outputs**

As a result of the Joint Terminal Evaluation reviewing by the five (5) criteria (Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability), three (3) of which, namely Effectiveness, Efficiency and Sustainability are classified "Medium". In particular, Effectiveness being medium is because of the indicator of this criteria requiring "approval" of the outputs by the relevant authorities.

The Project activities are almost conducted or will be completed during the Project period, but it takes time to obtain approval on several outputs, such as National Disaster Response Plan (NDRP) on Earthquake and Tsunami, OCD Operations Manual, National DRRM Education and Training Plan, CBDRRM National Policy, and etc. as indicated in the Report.

In order to optimize the outcomes of the Project, it is necessary that these outcomes should be officially authorized or approved to expand them as standard and essential operation and procedure of the DRR in the Country, the OCD shall ensure the official approval of the outputs before the end of the Project period.

#### **5. Emphasizing "Mainstreaming DRR" based on the outcomes of the Project and the DRRM experiences**

Disaster response has a tendency to gain the attention of the public but it is necessary and important to promote DRR activities comprehensively even in ordinary time. This includes preparation of disaster statistics and disaster risk assessment, formulation a disaster risk prevention/mitigation strategy based on the disaster risk assessment (including Regional/Local DRRM Plans which was developed by the Project), capacity development of the DRR agency based on the DRR plans, and enhancement of people's awareness in DRR.

Both sides confirmed the importance of DRR activities and the OCD agreed to



continuously undertake the Mainstreaming DRR based on the outcomes of the Project and their DRRM experiences.

#### **6. Importance of DRR Agencies toward Post Hyogo Framework for Action (HFA)**

Both countries, Philippines and Japan, have recognized the importance of continuing the enhancement of DRR activities following the 2005 Hyogo Framework for Action (HFA). The Project is aligned with the Priorities for Action of HFA.

The United Nations and the international communities are currently discussing the Post HFA which will be issued at the 3<sup>rd</sup> World Conference for DRR in Sendai in March 2015.

Both sides recognized the importance of role of DRR agencies, necessity of continuous improvement of the agencies, and confirmed to try to disseminate the message to emphasize the importance of DRR agencies based on the Project experience toward the Post HFA.

Annex I : Joint Terminal Evaluation Report





